平成７年度前期企画展

【全国の装飾古墳 Ⅰ】

宮崎県の装飾古墳と地下式横穴墓

熊本県立装飾古墳館

ごあいさつ

熊本県立装飾古墳館では、全国に分布する装飾古墳を地域ごとに順次紹介する企画展「全国の装飾古墳」を計画しており、初年度は宮崎県を取り上げます。

いうまでもなく宮崎県は、「古事記」、「日本書紀」に登場する神話の舞台であり、西都原（さいとばる）古墳群をはじめとする古墳文化を涵養してきた、日本考古学史上、最も重要な地域のひとつであります。

近年の大規模開発に伴い、多くの遺跡が発掘調査され、さらに具体的な古墳文化の解明がなされておりますが、そのひとつとして装飾古墳の存在がクローズアップされています。現在、40数例が報告され、本県の装飾古墳との類似性及び相違性を考える上でも十分な資料が蓄積されております。

特に、装飾の多くが、この地域特有の墓制である「地下式横穴墓（ちかしきよこあな）」に施されていることが多く、さらに、鉄で作られた武器・武具を代表とする副葬品には目を見張るものがあります。

この地方色豊かな古墳文化を育んできた宮崎県の装飾古墳を、全国にさきがけて御紹介できることを大変うれしく思います。これもひとえに、出品協力及び御指導をいただいた関係機関、関係各位のおかげと深く感謝の意を表する次第であります。

平成７年８月３日

熊本県立装飾古墳館
館長　　中島　武治

もくじ

ごあいさつ…… 1
目次・凡例…… 2
はじめに（見学を前に）…… 3

1　地下式横穴墓について…… 4
　地下式横穴墓とは何か…… 4
　地下式横穴墓における装飾…… 7
　装飾のある地下式横穴墓…… 9
　代表的な地下式横穴墓……22
　地下式横穴墓に葬られた人々……27

2　横穴墓について……29
　宮崎県の横穴墓における装飾……29
　装飾のある横穴墓……30

3　参考資料……43
　その他の装飾ある地下式横穴墓……43
　イラストで見る展示品解説……57

出品目録……60
参考文献……62
協力機関・協力者一覧……63

凡例

1　本書は、熊本県立装飾古墳館平成７年度前期企画展「宮崎県の装飾古墳と地下式横穴墓」の展示図録として作成しました。
2　本図録中の遺物の写真撮影は、一部を除き坂口圭太郎、中尾健照が行い、執筆・編集は最上敏が担当しました。
3　掲載されている実測図は、発掘調査報告書、関係図書、借用実測図をもとに複写・作成させていただきました。なお、縮尺は、一部を除き50分の１に統一しました。
4　図録に掲載した資料の一部を展示替えすることがあります。
5　展示の企画、展示資料、掲載写真について、多くの方々、関係機関の御指導、御協力をいただきました。巻末に記し感謝の意を表します。

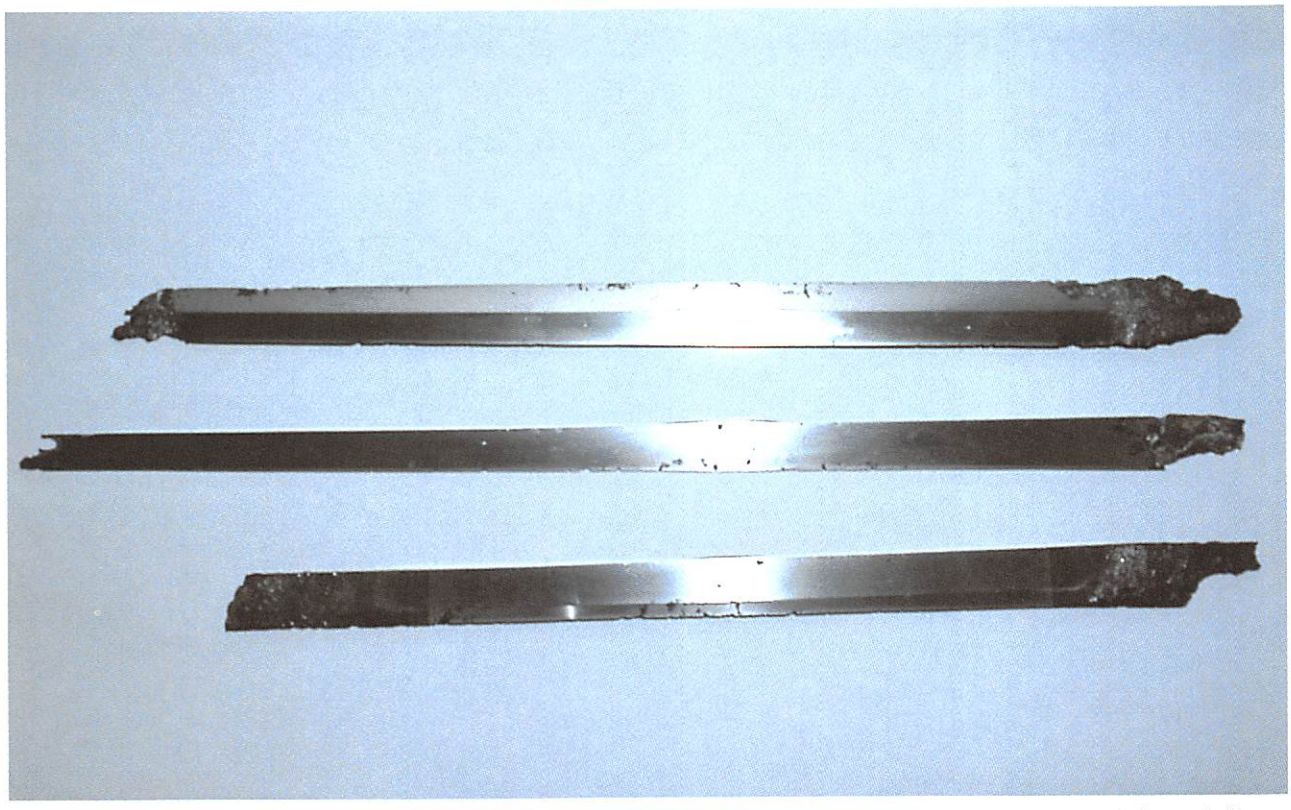
はじめに

ここに、3振りの剣と刀があります。

宮崎県西諸県郡野尻町大萩(おおはぎ)14号地下式横穴墓から出土したものです。発掘当時この刀剣は、一部に地金の肌がみえるほど極めて保存状態の良好なものでした。これは刀剣研師(とぎし)に研ぎなおされた例です。

およそ1500年前、地下式横穴墓に副葬された鉄によるさまざまな製品は、本来このような輝きをもっていたのでしょう。

今回の企画展で御紹介する多くの資料は、鉄によって作られています。数えきれないほどの歳月を経て、現在はさびにより赤茶けた姿ですが、この中に当時の刀工たちの力強く輝く息吹がしみこんでいることを感じ取っていただければ幸いです。



大萩14号地下式横穴墓出土の研磨剣・刀

1　地下式横穴墓について

地下式横穴墓とは何か

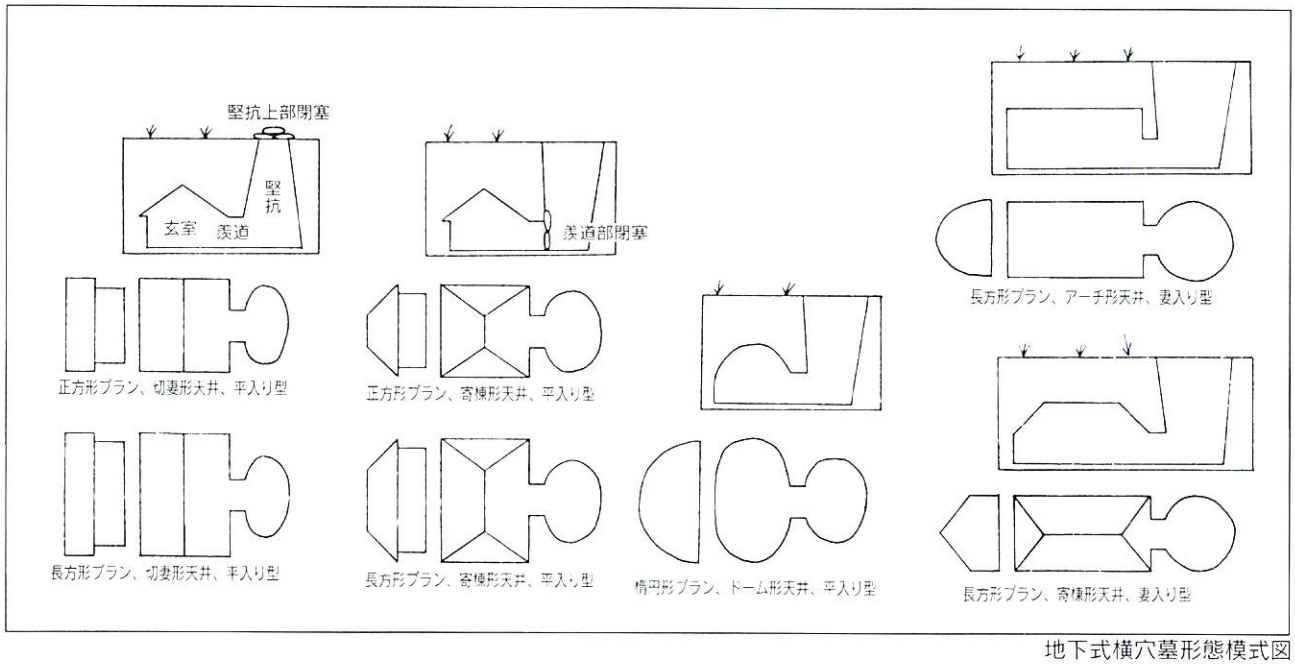
地下式横穴墓とは、古墳時代の宮崎県を中心とした南九州に分布する独特なお墓です。地表から竪方向に穴（竪坑）を掘り、底から横方向に遺体を納める部屋に通じる道（羨道）を掘り進め、奥に遺体を納めるための掘り広げた部屋状の空間（玄室）を設けたものをこう呼びます。

名称については、地下式横穴、地下式古墳、地下式墳、地下式壙など、研究者によってさまざまですが、今回の企画展においては地下式横穴墓と呼ぶことにします。

このような地下式横穴墓には、円墳を思わせるような、地表面に丸い墳丘を持つものもありますが、多くの場合、目印となる構築物や標識のようなものが無い（残っていない）ため、後世、人の目にふれることは少なかったようです。また、地中の密閉された空間による適度な温度と湿度が、埋葬された人々や副葬品を守り、一度発見されると埋葬の状態から副葬品の配置など、具体的な状況で当時の葬送儀礼の様子を私たちに伝えてくれます。

多くの場合、遺体を玄室に納め、副葬品を供えると羨道を石や土の塊、または板で閉ざし（羨道部閉塞）、竪坑を土によって埋めもどします。時を経て新たな死者がでるとそれを掘り起こし、再び埋葬するといった追葬が何回か繰り返されたようです。ただし、えびの・大口盆地を中心とした霧島山系周辺には、竪坑の上部すなわち地表面の穴を石でふさぐ例（竪坑上部閉塞）などもありますし、宮崎平野部の古い時期の大型の地下式横穴墓や、内陸部の新しい時期の小型の地下式横穴墓、さらに、志布志湾周辺の玄室に軽石を組み合わせて作った石棺を納めた地下式横穴墓など一人の人物しか埋葬されていない例（単体埋葬）もあります。

このお墓は、その形態からいくつかに分類することができます。玄室の形は、長方形、正方形、楕円形のおよそ三つがあり、また、玄室の天井の構造を屋根の形に見立てると、切妻形、寄棟形、ドーム形、アーチ形のおよそ四つに分かれるようです。最新の研究例では細かな分類が行われていますが、ここでは玄室の短軸側に羨道が付く妻入り型と長軸側に付く平入り型の大きく二つに分類しておきます。



地下式横穴墓形態模式図

このお墓は、南九州、特に宮崎県南部を中心に分布します。地理的条件、地下式横穴墓の形態、他のお墓との組み合わせなどから細かく見ていくと、一ツ瀬川流域を北限とした宮崎県の平野部、鹿児島県大口盆地に連なる内陸部、志布志湾周辺がその主な分布地で、熊本県では、人吉盆地にわずか2例だけ発見されています。

宮崎県の平野部では、妻入り型の地下式横穴墓が多く造られた地域です。とくに、地下式横穴墓の造営が始まる5世紀代は、玄室の長さが5メートルに及ぶ巨大なものが営まれることもあり、それらの地下式横穴墓内部からは、武器・武具、装身具、馬具をはじめとする豊富な副葬品が発見されます。また、玄室内部は、死者を安置するための屍床が設けられ、多くの場合、一人の人物のみを埋葬していたようです。また、地表面には、円墳を思わせるような墳丘を持つこともあります。これが6世紀代に入ると単体埋葬から追葬を意図した平入り型の地下式横穴墓へと変化するようです。

この地域は、前方後円墳や円墳といったいわゆる古墳も多く造られており、そこに葬られた人々との関係も注目される地域です。

内陸部は、都城盆地周辺の一部を除き、平野部と違い、5世紀代の造営開始当初から終末に至るまで平入り型の地下式横穴墓が造られた地域です。前方後円墳も都城盆地周辺以外には分布せず、円墳が造られたに留まっています。地下式横穴墓の数も多く、当時のお墓の主体となっていた地域と言って良いでしょう。なお、前述しましたが、えびの・大口盆地周辺は、竪坑上部閉塞といった独特の地下式横穴墓が多く営まれ、さらに「地下式板石積石室墓」という南九州西側に分布するこれまた独特のお墓とが混在する地域でもあります。

志布志湾周辺は、妻入り型の地下式横穴墓が多く造られた地域です。これは、宮崎平野部の影響を受けて導入されたのだろうと解釈されています。ただし、玄室内部に軽石製の石棺を納めるなど、この地域独特の地域性も見受けられます。また、宮崎平野部と同様、6世紀代になると平入り型の地下式横穴墓が造られるようです。

人吉盆地周辺は、現在、1遺跡2例のみしか発見されていません。2例とも平入り型で、えびの・大口盆地周辺の影響を受けて導入されたものと解釈されます。

このように、南九州の限られた地域に分布する地下式横穴墓は、現在のところ、その出土遺物から、5世紀の半ばころに誕生し、8世紀にかけて造られたようです。その中でも最も盛んに造られたのは、5世紀後半から6世紀にかけてです。その誕生については、従来、5世紀はじめに朝鮮半島の古墳文化の影響を受けて北部九州に誕生した横穴式石室の構造が、地下に潜った形で宮崎平野部に導入され、妻入り型の地下式横穴墓としてまず誕生し、順次周辺地域に拡散しながら時代とともに平入り型の地下式横穴墓へと変化していったと考えられてきました。ところが誕生当初、内陸部においても平入り型の地下式横穴墓が造られていることが分かり、また、近年内陸部の宮崎県えびの市において、地下式横穴墓よりも古く、4世紀後半に造られたと考えられる「横口式土壙墓」という平入り型の地下式横穴墓の構造と類似したお墓が発見されたことにより、その誕生のプロセスは混沌とした状況になっています。

とはいえ、この地下式横穴墓は、その構造と分布のあり方から、南九州に花開いた独特の墓制であり、地方を代表する貴重な文化遺産と言えるでしょう。この文化を築き上げた人々は、後の時代に「隼人」と呼ばれた人々であったかもしれません。

磯地下式横穴墓群　横口式土壙墓

地下式横穴墓および宮崎県内の横穴墓の分布

番号	遺跡名	遺跡の所在地
	地下式横穴墓	
1	元地原地下式横穴墓群	西都市大字上三財字元地原
2	市の瀬地下式横穴墓群	東諸県郡国富町大字深年字市の瀬
3	大坪地下式横穴墓群	〃　大字八代南俣字大坪
4	六野原地下式横穴墓群	〃　大字三名字六野原
5	宗仙寺地下式横穴墓群	〃　大字本庄字宗仙寺
	地蔵寺地下式横穴墓	〃　大字本庄字地蔵寺
6	立切地下式横穴墓群	西諸県郡高原町大字後川内字立切
7	日守地下式横穴墓群	〃　大字後川内字日守
	仮屋尾地下式横穴墓群	北諸県郡高崎町大字前田字仮屋尾
8	旭台地下式横穴墓群	西諸県郡高原町大字広原字旭台
9	大萩地下式横穴墓群	西諸県郡野尻町大字三ヶ野山字大萩
10	下の平地下式横穴墓群	小林市大字水流迫字下の原
11	新田場地下式横穴墓群	小林市大字真方字新田場
12	東二原地下式横穴墓群	小林市大字真方字東二原
13	尾中原地下式横穴墓群	小林市大字西方字石塚尾中原
14	苧畑地下式横穴墓群	えびの市大字坂元
15	島内地下式横穴墓群	えびの市大字島内字杉ノ原
	横穴墓	
I	穂北横穴墓群	
	上江横穴墓群	西都市大字穂北字上江
	杉尾横穴墓群	〃　字杉尾
	串木横穴墓群	〃　字串木
	千畑横穴墓群	〃　字谷ノ前
II	上器田東横穴墓群	宮崎郡佐土原町大字下那珂字土器田
III	広原横穴墓群	宮崎市大字広原字管牟田
IV	蓮ヶ池横穴墓群	宮崎市大字芳士字岩永迫
	その他	
A	天道ヶ尾地下式横穴墓群	熊本県人吉市大字天道ヶ尾
B	上ノ原地下式横穴墓群	西諸県郡須木村大字中原字上ノ原
C	小木原地下式横穴墓群	えびの市大字上江字小木原
	蔵地下式横穴墓群	〃　字蔵
D	下北方地下式横穴墓群	宮崎市下北方町字塚原

地下式横穴墓における装飾

横穴式石室の内部や石棺、横穴墓の外壁または内部に、さまざまな文様を彫ったり描いたものを装飾古墳と呼んでいます。さらに装飾のあり方によって次のように分類されてきました。

①石の棺に幾何学的な文様や、武器・武具などを施した石棺系の装飾古墳。

②石室内部を板状の石で取り囲んだ石障や、遺体を安置するための仕切り石に武器・武具や同心円文などの文様を施した石障系の装飾古墳。

③横穴式石室内部に人物、舟、馬、武器・武具や蕨手文、同心円文、三角文などを描いた壁画系の装飾古墳。

④横穴墓の内外に人物や武器・武具、幾何学文などの文様を施した横穴墓系の装飾古墳。

しかし、ここでは地下式横穴墓系の装飾古墳を新たにその分類の一つとしてつけ加えることにします。それは、地下式横穴墓という独特のお墓に装飾が施されているということが最大の理由ですが、その装飾のあり方とその裏側にひそむ葬送に対する考え方に、上述した装飾古墳とはいくらかの違いが伺われるためです。

では、地下式横穴墓にはどのような装飾が施されているのでしょう。大まかに分類すると次のようになります。

①家屋の屋根や柱などをベンガラなどの赤色顔料で表現しているもの。

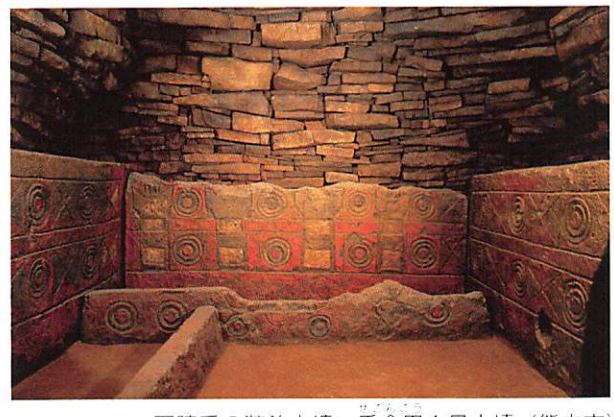
②ベンガラなどの赤色顔料で不明確な図柄を描いているもの。

③家屋の屋根や柱などを浮彫りで表現しているもの。

④家屋の屋根や柱などを先の尖った道具を用いてひっかくように線刻で表現しているもの。

以上の装飾のある地下式横穴墓を今回の企画展では装飾古墳として取り上げます。中には、ベンガラによる彩色と浮彫りや線刻が組み合わさったもの、浮彫りと線刻が組み合わさったものなどもあるようです。

石棺系の装飾古墳　鴨籠古墳（不知火町）



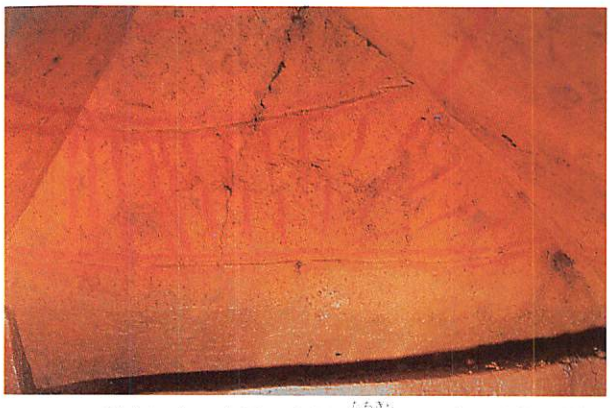
石障系の装飾古墳　千金甲１号古墳（熊本市）

壁画系の装飾古墳　弁慶ヶ穴古墳（山鹿市）

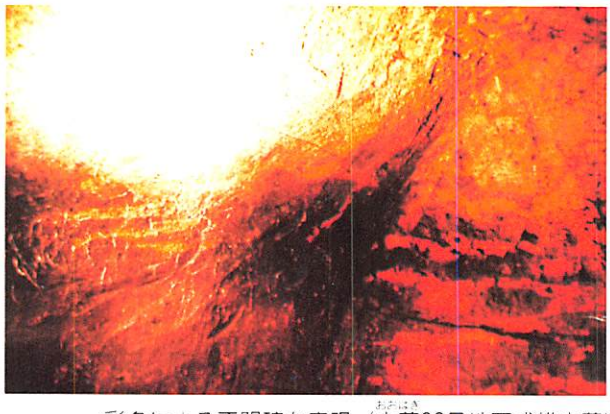
横穴墓系の装飾古墳　鍋田27号横穴墓（山鹿市）

ベンガラによる彩色の中には図柄の不明確なものも一部ありますが、装飾のほとんどが家屋の表現を行っています。

装飾のみを取り上げてみると、多くの装飾古墳の場合、さまざまな装飾文様を施すことにより、悪霊の進入を防ぐとか、死者を守るといった願いが込められていると考えられています。それに対し、装飾を施した地下式横穴墓を営んだ当時の人々は、遺体を埋葬する空間を家屋に見立てて造ることにより、死後もやすらかに暮らせるようにと願ったのでしょう。このことが一つの相違点として浮かび上がってくるようです。死後の安寧をねがう葬送観としては、家形の石棺を造ったり、横穴墓を家屋の構造にまねて造るなどの風習と共通するものと考えられます。

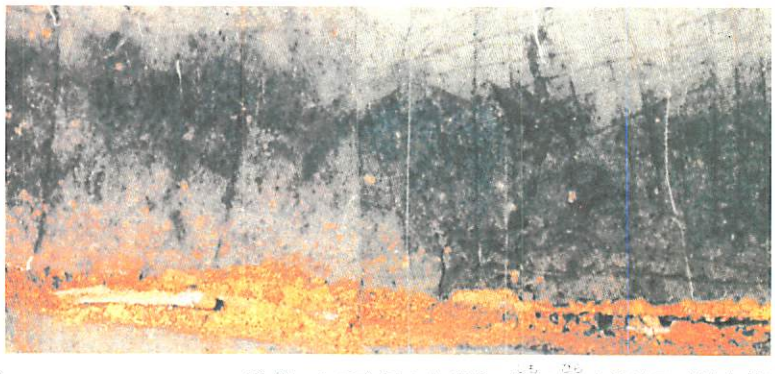


彩色による家屋の表現（立切54号地下式横穴墓）



彩色による不明確な表現（大萩36号地下式横穴墓）

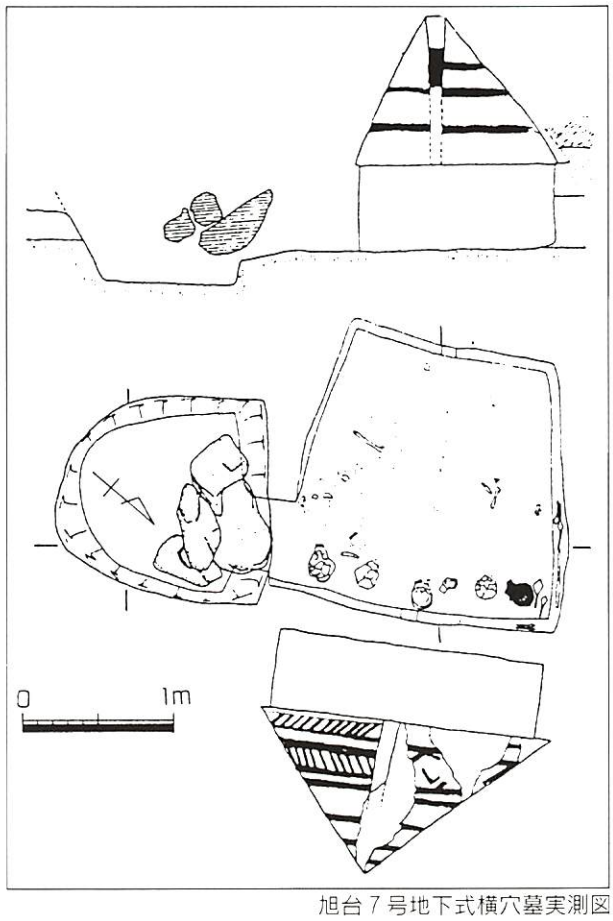
浮彫りによる家屋の表現（立切63号地下式横穴墓）



線刻による家屋の表現？（下の平１号地下式横穴墓）

装飾のある地下式横穴墓

旭台７号地下式横穴墓（西諸県郡高原町大字広原字旭台）



旭台７号地下式横穴墓実測図

左側壁浮彫り及び彩色

羨道部側？の壁の彩色

①剣
②刀子（小刀）
③鉄鏃（やじり）

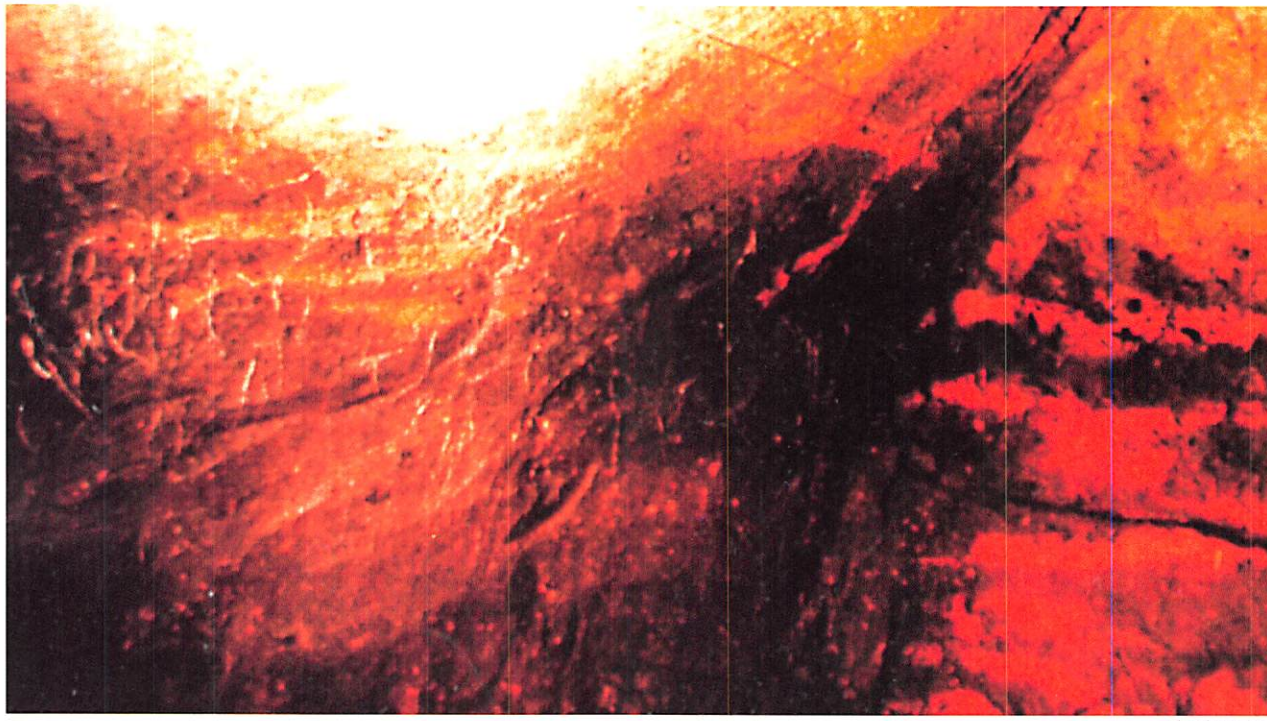
遺跡は、高原町の西部、標高230メートルの台地上にあり、昭和50年の牧野改良に伴う整地作業中に23基の地下式横穴墓が発見され、その内５基に装飾が施されていました。

７号地下式横穴墓の玄室は、ほぼ正方形で、天井を切妻形にした平入り型の地下式横穴墓です。また、四方の壁を軒先のように掘り込み、棚状施設を造っています。

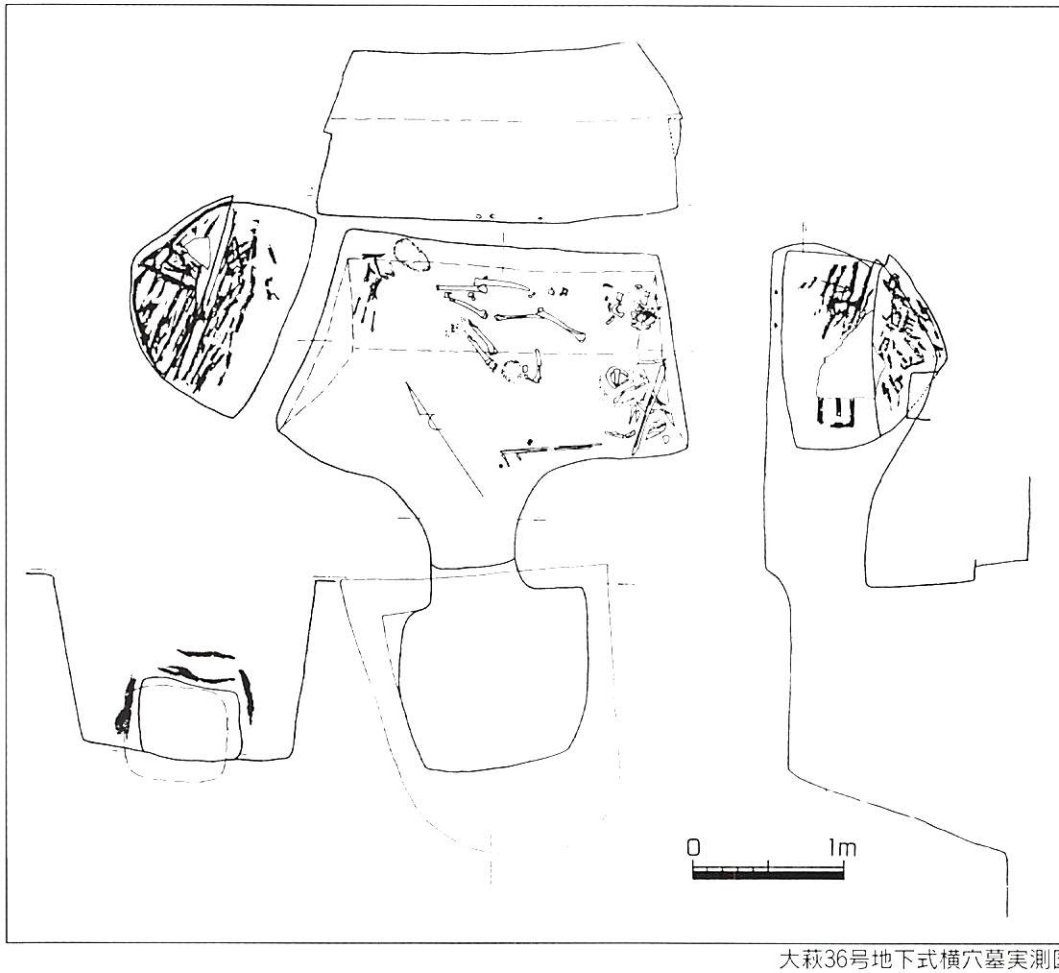
装飾は、左右の壁面のほか、羨道部側の壁面、天井に施されています。特に、左右の壁面は、家屋の屋根を表すように、赤色顔料を使い、並行あるいは斜め方向に彩色されており、また、壁面中央部には、縦方向に束柱を思わせるような浮彫りが施されています。

人骨５体のほか、剣１、刀子２、鉄鏃８点が出土しており、出土遺物から５世紀後半から６世紀前半に造られたものと思われます。

大萩36号地下式横穴墓（西諸県郡野尻町大字三ヶ野山字大萩）

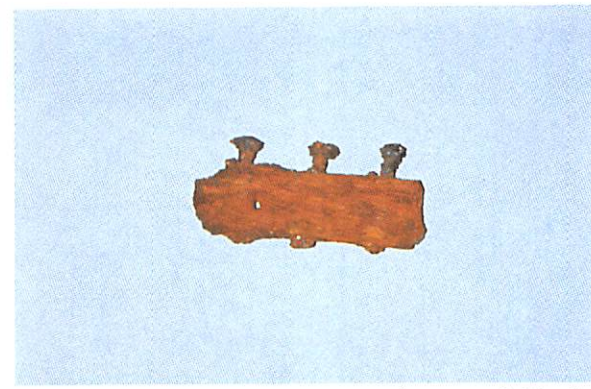


左壁の彩色



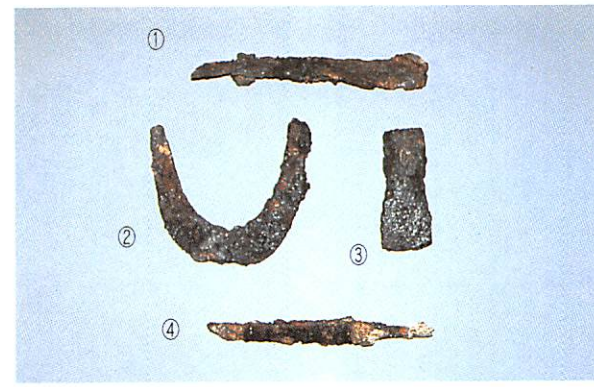
大萩36号地下式横穴墓実測図

鉄鏃

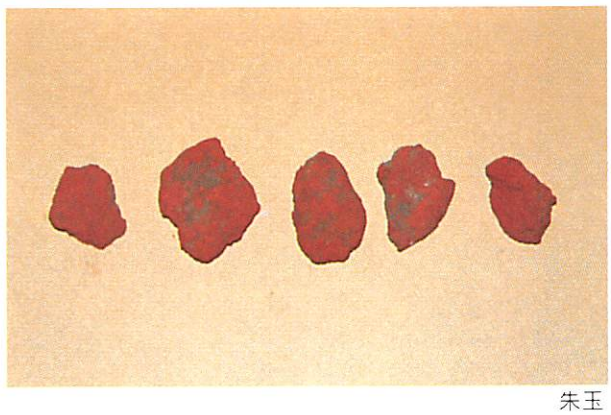


鉄のかざりのついた弓の破片

直刀（上）、剣（下）



①鎌　②鉤先　③斧　④刀子



朱玉

※朱玉（大きさ１～２cm）

ベンガラという鉄の赤サビに似た成分でできています。

このベンガラは、多くの場合、絵の具として利用され、地下式横穴墓の彩色にも使われています。

しかし丸めた形で死者のそばに置かれていたことを考えると、悪霊から死者を守るというような、特別な願いがこめられていたのかもしれません。

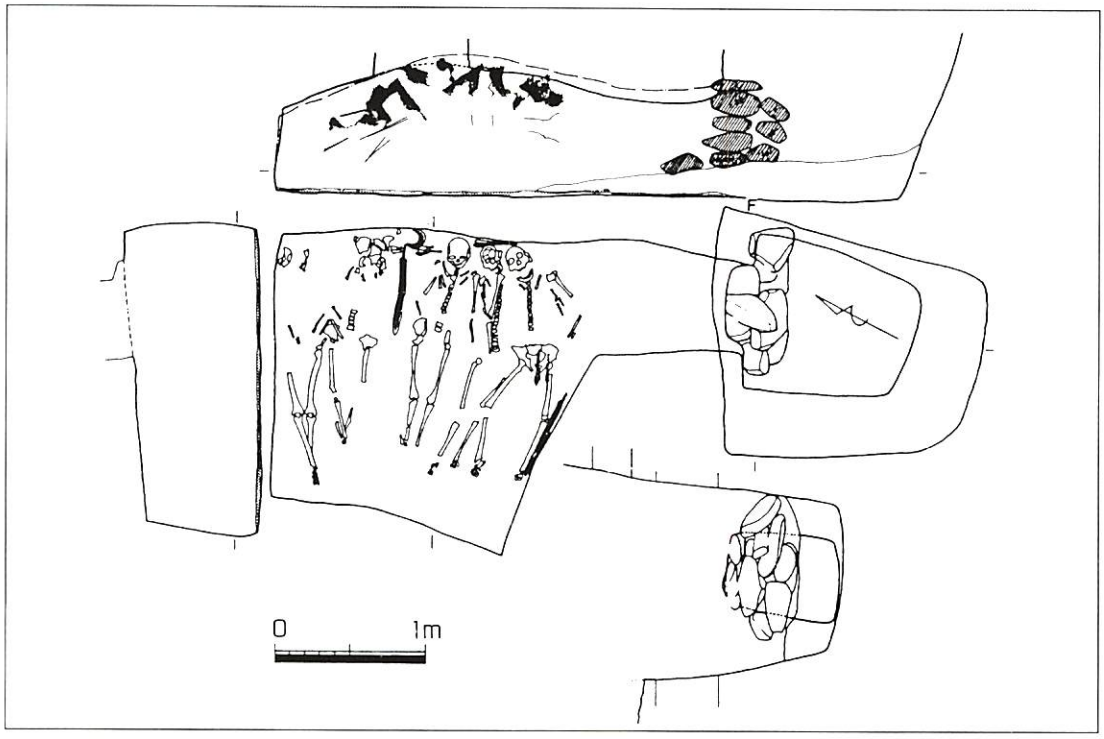
遺跡は野尻町の西端部、岩瀬川沿いの標高およそ200メートルの広大な台地上にあり、さまざまな開発に伴い、合計38基の地下式横穴墓が発見され、その内４基に装飾が施されていました。

36号地下式横穴墓の玄室は長方形で、天井を切妻形にした平入り型の地下式横穴墓です。また、奥壁と左右両壁の三方に棚状施設があります。

装飾は、玄室入口の外壁と玄室内壁に赤色顔料を使い描かれています。幅３～４センチメートルの線が、横あるいは斜め方向に不規則に描かれており、具体的な文様が無いだけに、どのような意図をもって彩色を行ったのかは不明です。

鉄製の武器や鋤の先のほか、鉄金具の付いた弓の残片や絵の具としても利用できる朱玉など珍しい遺物も出土しています。これらの遺物から、５世紀後半から６世紀前半に造られたものと思われます。

大萩37号地下式横穴墓



大萩37号地下式横穴墓実測図

剣
鋤先
鉄鏃

※鋤先
木製の鋤（スコップ状）の
先に取りつけた金具

37号地下式横穴墓の玄室は、ほぼ正方形で、天井をドーム形にした平入り型の地下式横穴墓です。また、羨道が玄室の片側に付いています。

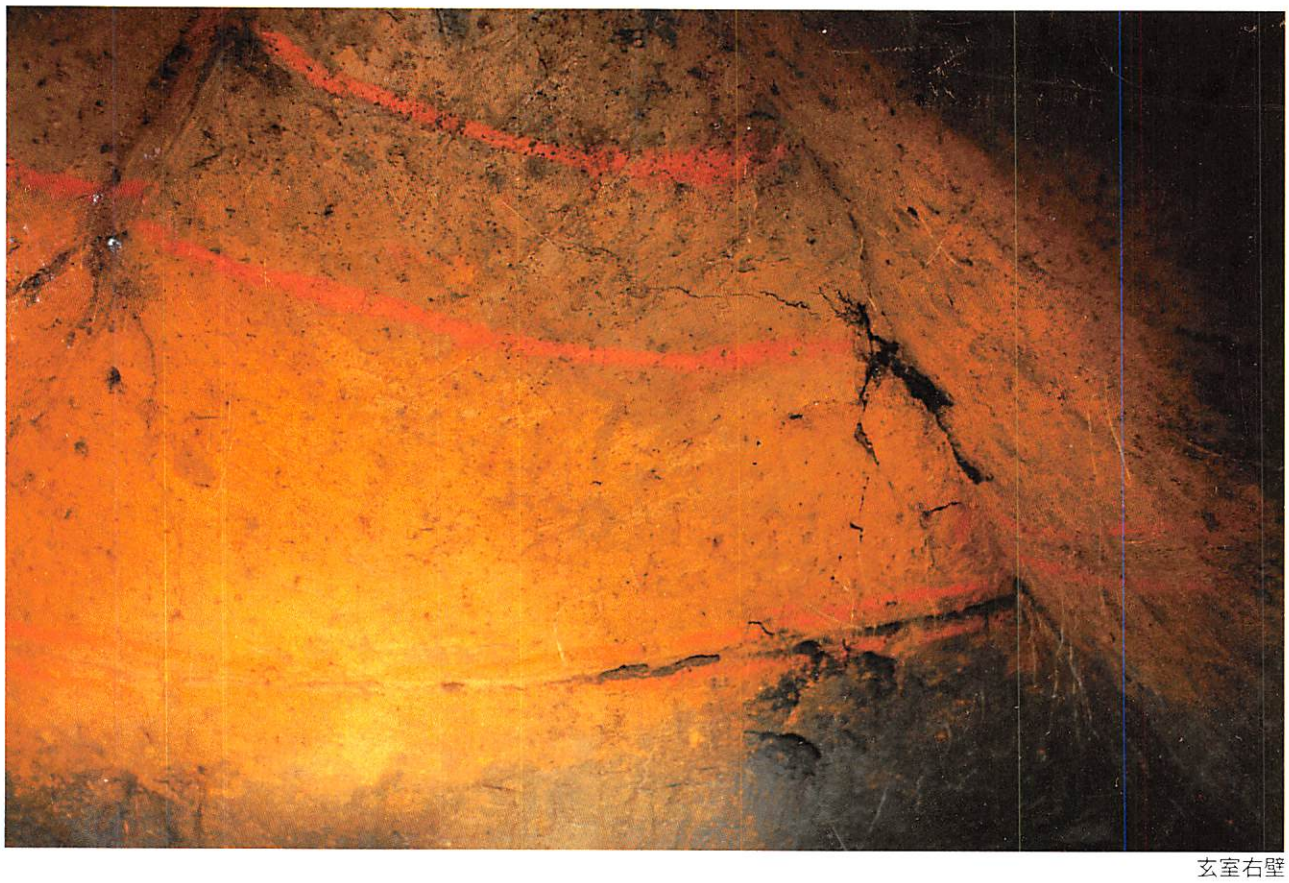
５体の人骨が埋葬されており、その頭部側の壁面上部に彩色が施されています。不規則な彩色であるため、どのような意図をもって描かれたのかについては判断できません。なお、玄室床面には、約３センチメートルほどの厚さでシラス（桜島の噴火で堆積した火山灰など）が敷きつめられており、これも死者に対する特別な意識によるものでしょう。

鉄製の剣、鏃、鋤の先ほか竪坑の埋土中から土器片などが出土しており、それらの遺物から６世紀前半から中頃にかけて造られたものと思われます。

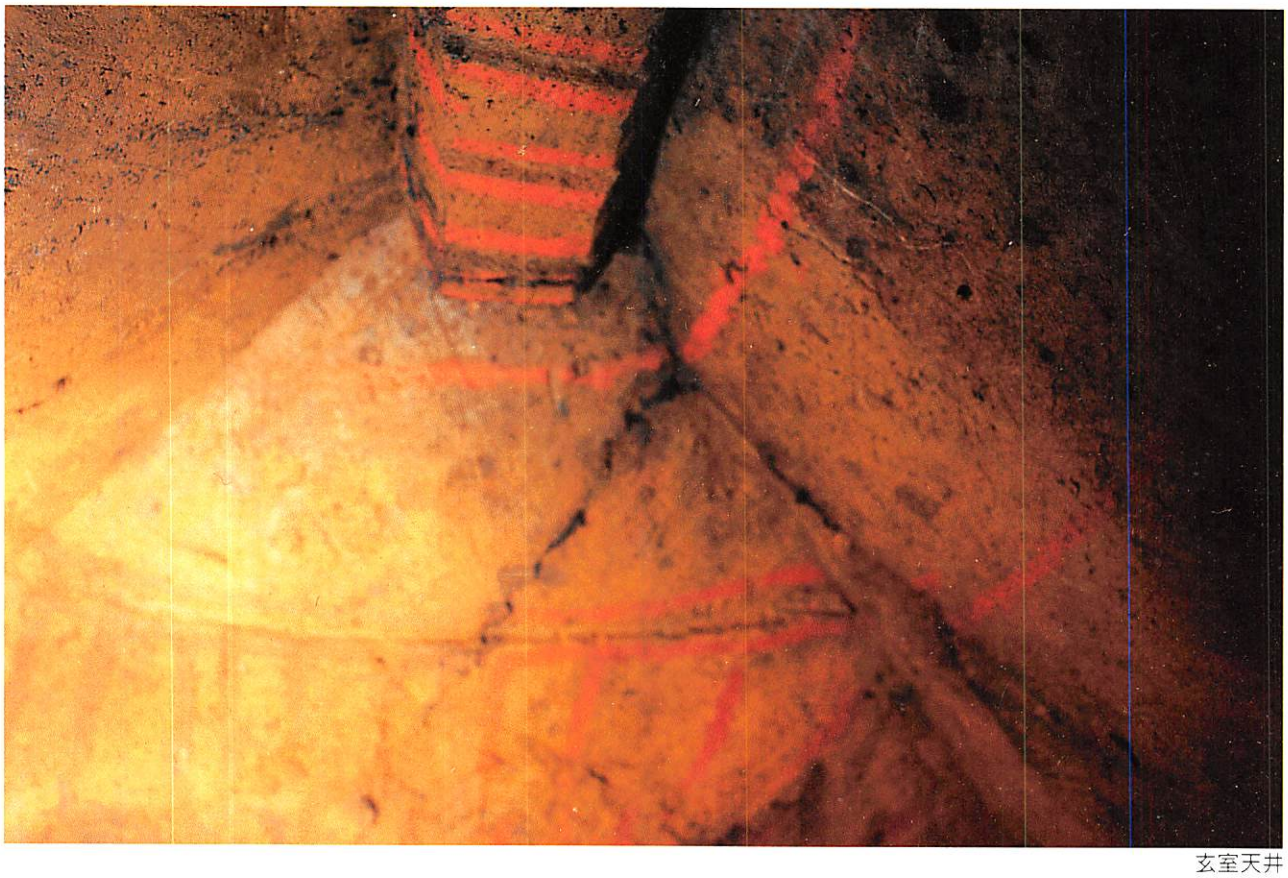
立切（たちぎり）54号地下式横穴墓（西諸県郡高原町大字後河内字立切）

玄室左壁

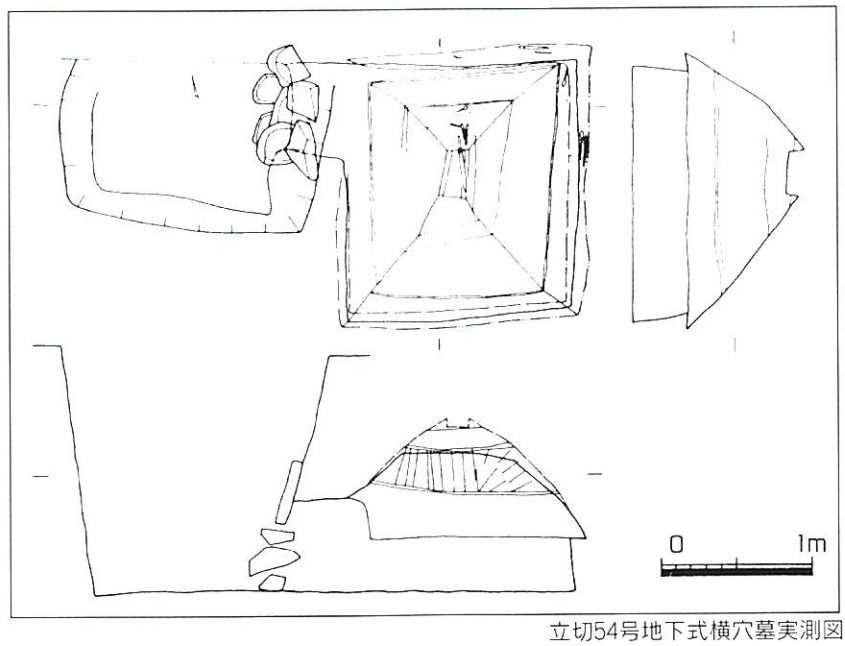
玄室奥壁～右壁



玄室右壁



玄室天井



立切54号地下式横穴墓実測図

①～②剣
③～⑥鉄鏃
⑦～⑧鉋
⑨刀子

※鉋（やりがんな）

現在のカンナのように木材の表面をけずり整えるための工具

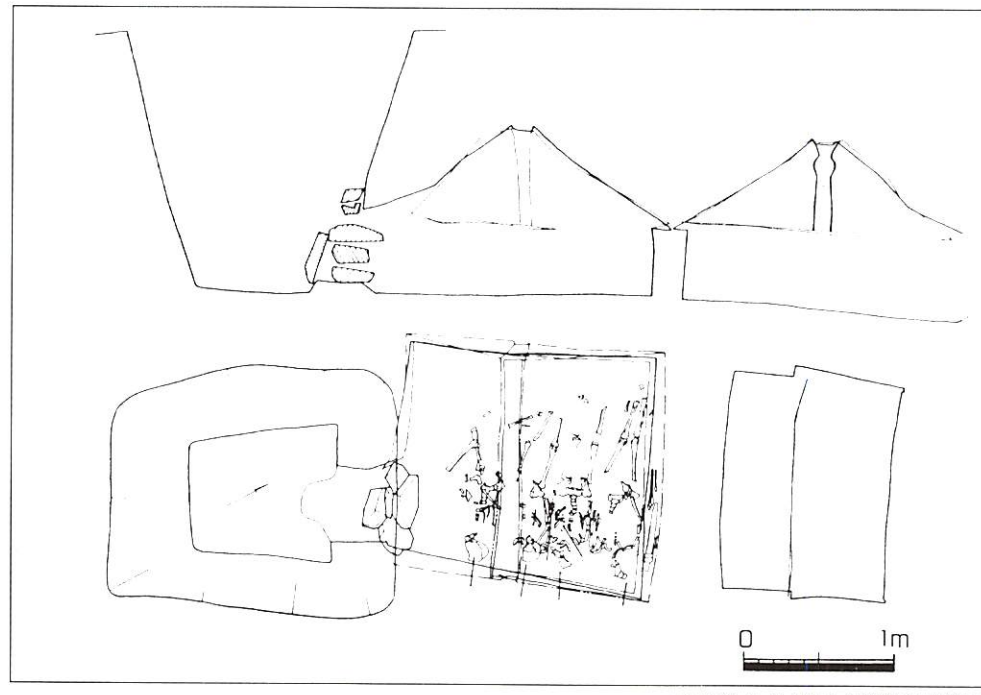
遺跡は、諸県山地の間を流れる炭床川の左岸段丘上にあり、圃場整備の際、72基の地下式横穴墓が発見され、その内８基に装飾が施されていました。

54号地下式横穴墓の玄室は、正方形で、天井を寄棟形にした平入り型の地下式横穴墓で、玄室の片側に羨道が付いています。

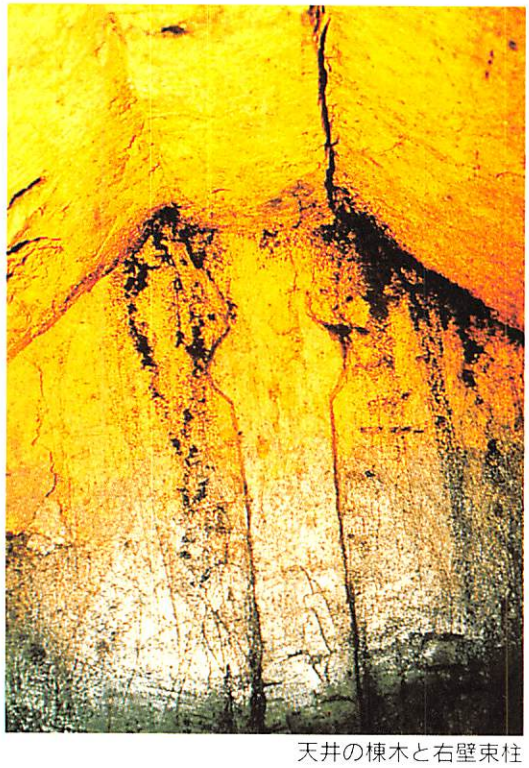
玄室壁面全てに棚状施設があり、その上部の壁面に赤色顔料による横方向や縦方向の線が描かれています。おそらく屋根の骨組みを表現したものでしょう。また、天井最上部は、棟木（むなぎ）を思わせる浮彫りがあります。玄室の家屋構造に加えて装飾を施すことにより、死者の住むための家をリアルに表現した典型的な事例といえるでしょう。

鉄製の剣や鏃のほか、木材の表面を削り整える鉋（やりがんな）や刀子などが出土しており、５世紀後半から６世紀にかけて造られたものと思われます。

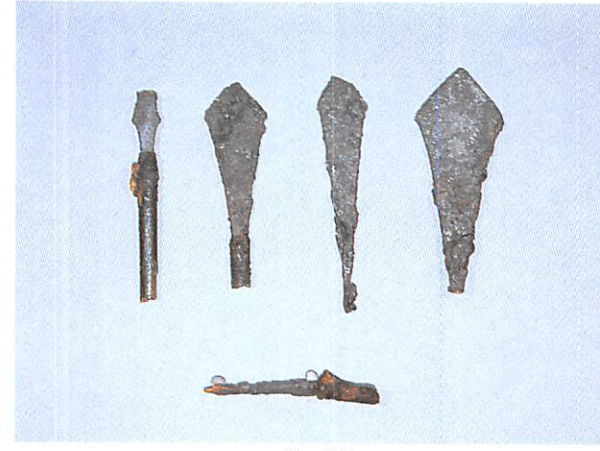
立切60号地下式横穴墓



立切６０号地下式横穴墓実測図



天井の棟木と右壁束柱



鉄　鏃

刀　子

60号地下式横穴墓の玄室は、長方形で、天井を切妻形にした平入り型の地下式横穴墓で、壁面には棚状施設があり、玄室の片側に羨道が付いています。

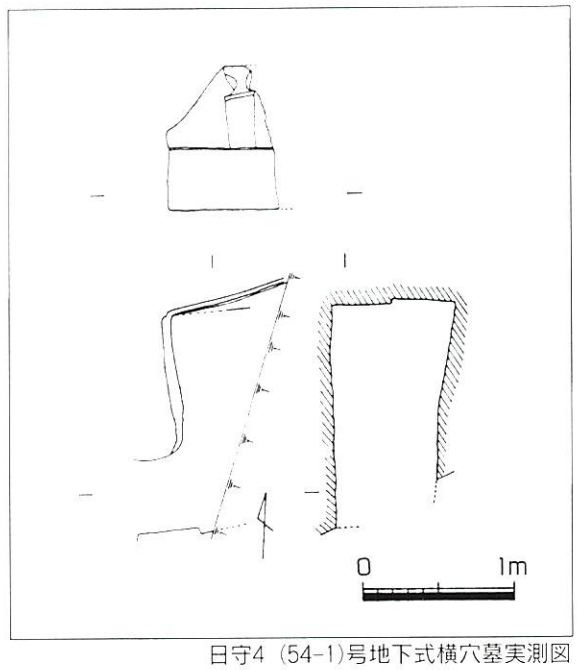
天井部中央には、棟木を思わせる浮彫りがあり、左右両壁の中央部には、天井部から下に向かって棚状施設まで束柱と見られる浮彫りが施されています。

遺物は、鉄製の剣、鏃、刀子などがあり、２号人骨の左腕には、イモガイ製の貝輪が装着されていました。これらの遺物から、５世紀後半から６世紀前半にかけて造られたものでしょう。

日守（ひもり）4（54－1）号地下式横穴墓

（西諸県郡高原町大字後川内字日守）

左壁　束柱（斗）浮彫り



日守4（54-1）号地下式横穴墓実測図

大阪府八尾市美園（みその）1号墳　家形埴輪（いえがたはにわ）

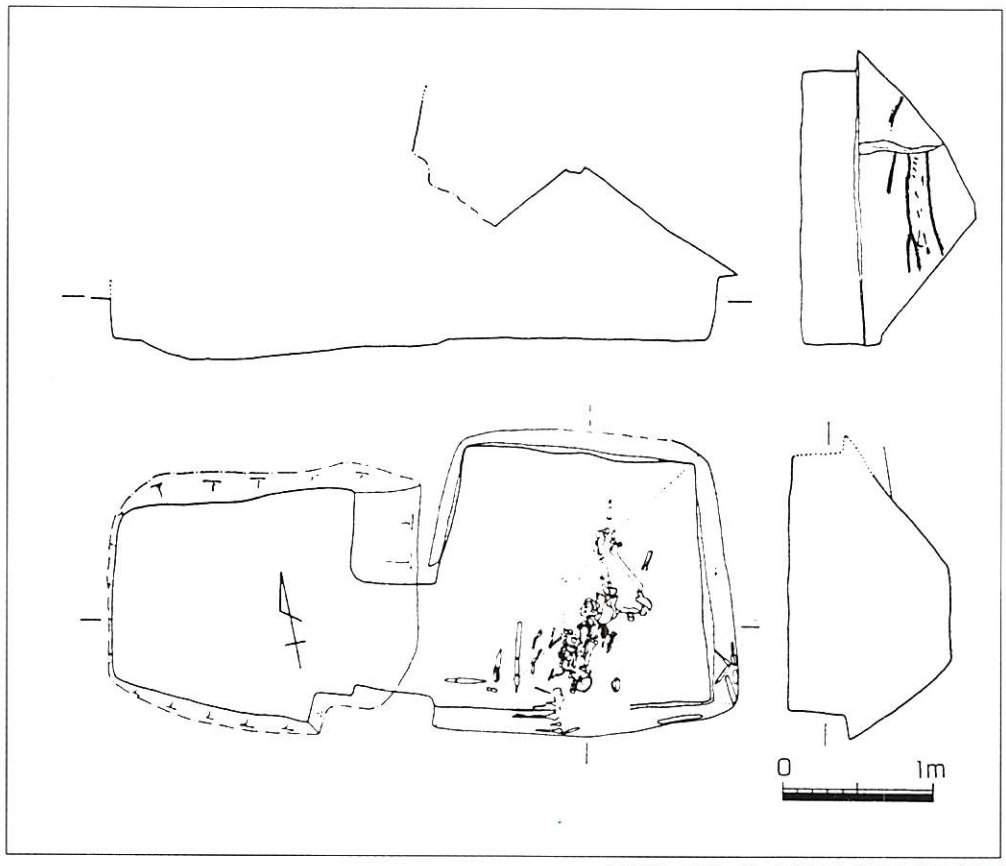
家形埴輪「斗（ます）」表現拡大

遺跡は、岩瀬川の右岸に位置し、高原町と高崎町の境界、標高210メートルのなだらかな丘陵上にあり、11基の地下式横穴墓が発見されており、その内２基に装飾が施されていました。

４号地下式横穴墓は、壊されていましたが、玄室は切妻形天井の正方形平入り型の地下式横穴墓と思われます。左壁に束柱を思わせるような浮彫りが施され、特に注目されるのは、束柱上部です。調査者は、棟（むね）に接する抉り込みと、それを区画する２本の線刻から、この部分を「斗（ます）」と考えています。この「斗」とは、柱と梁（はり）や桁（けた）を組むときにその間に用いられる木のことです。中国の建築様式の影響を受けたもので、日本では寺院建築などに採り入れられました。家屋建築の例としては、大阪府八尾市の美園（みその）遺跡１号墳の高床式住居（たかゆかしきじゅうきょ）を表現した家形埴輪から類推いすることができます。おそらく首長（しゅちょう）級の人物が住んでいた家をモデルにしたものでしょう。

このように、４号地下式横穴墓の浮彫りが、「斗」を表しているのであれば、この地下式横穴墓が造られたと考えられる５世紀後半から６世紀前半にかけて、高度な家屋建築技術が日向地方に確立していたことになり、建築史の一端に再考を与える貴重な資料となります。

日守９（55－2）号地下式横穴墓



日守９（55－2）号地下式横穴墓実測図

剣

刀子

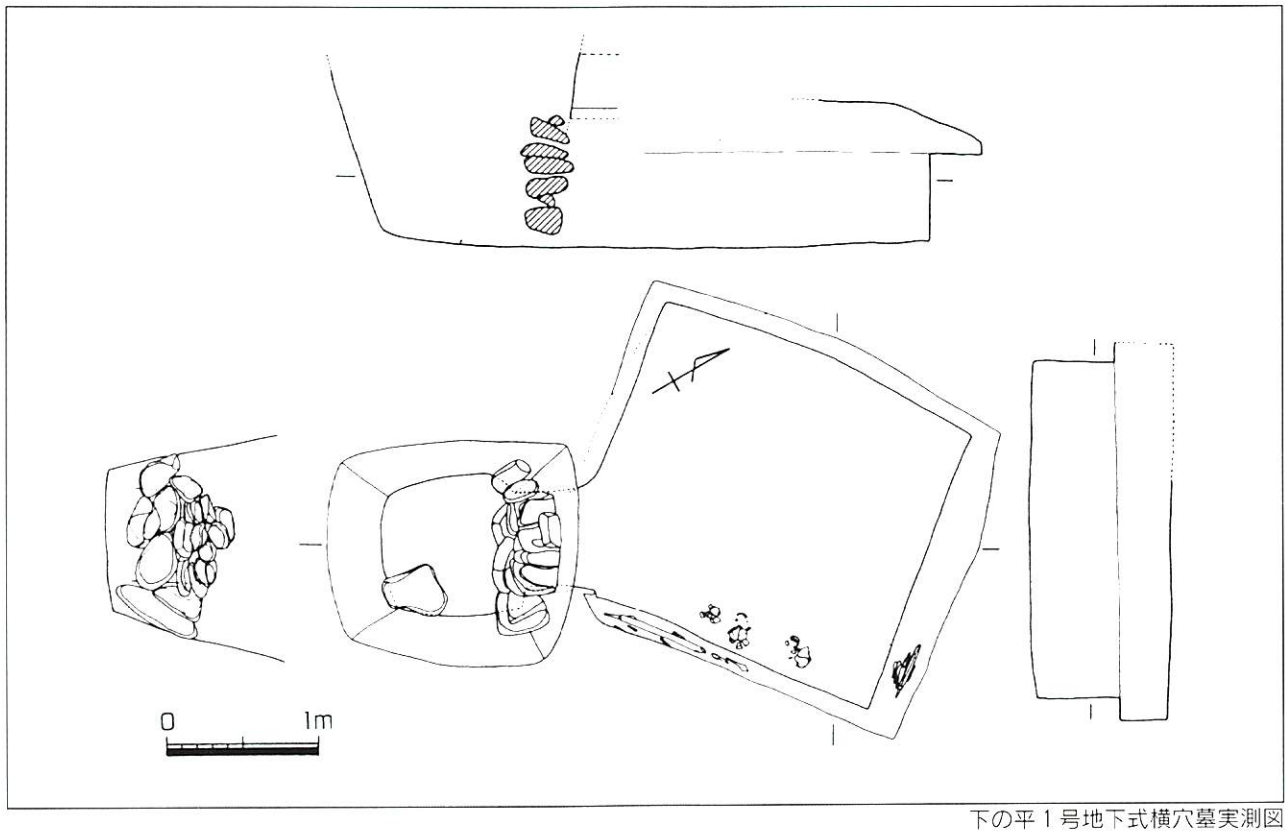
鋤先、鉇

９号地下式横穴墓の玄室は、ほぼ正方形で、天井を寄棟形にした平入り型の地下式横穴墓です。

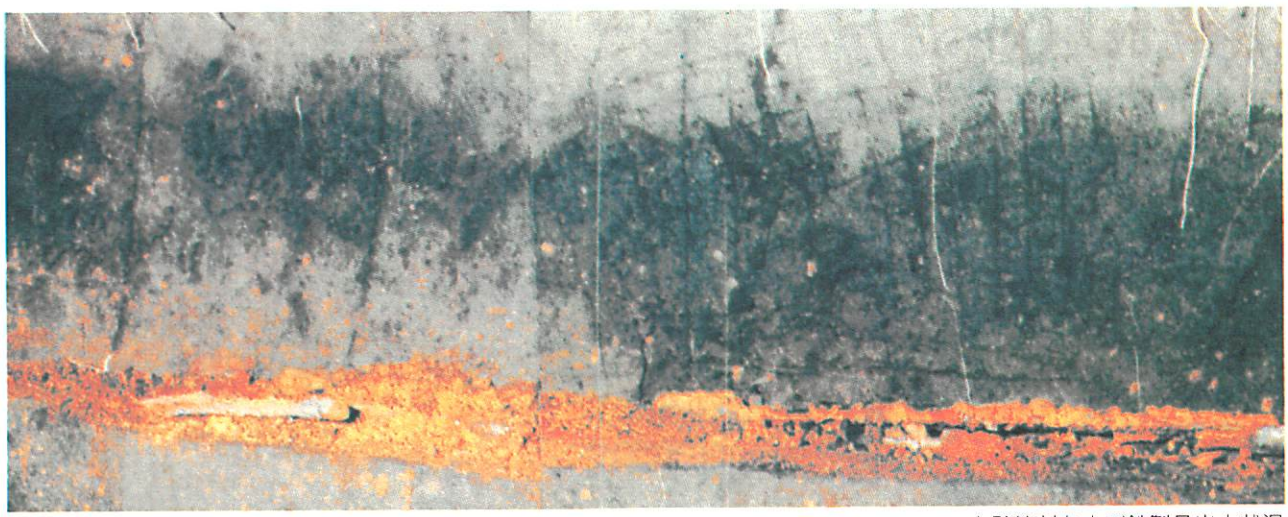
天井部には、幅13センチメートルの棟木（むなぎ）を思わせる浮彫りがあり、埋葬者の頭部にあたる玄室の右壁には、赤色顔料で不規則な彩色が施されています。また、羨道部や、玄室の左壁、奥壁など、ほぼ全面にわたって彩色しています。

出土遺物から、５世紀後半から６世紀前半に造られたと思われます。

下の平１号地下式横穴墓（小林市大字水流迫字下の平）



下の平１号地下式横穴墓実測図



右壁線刻および鉄製品出土状況

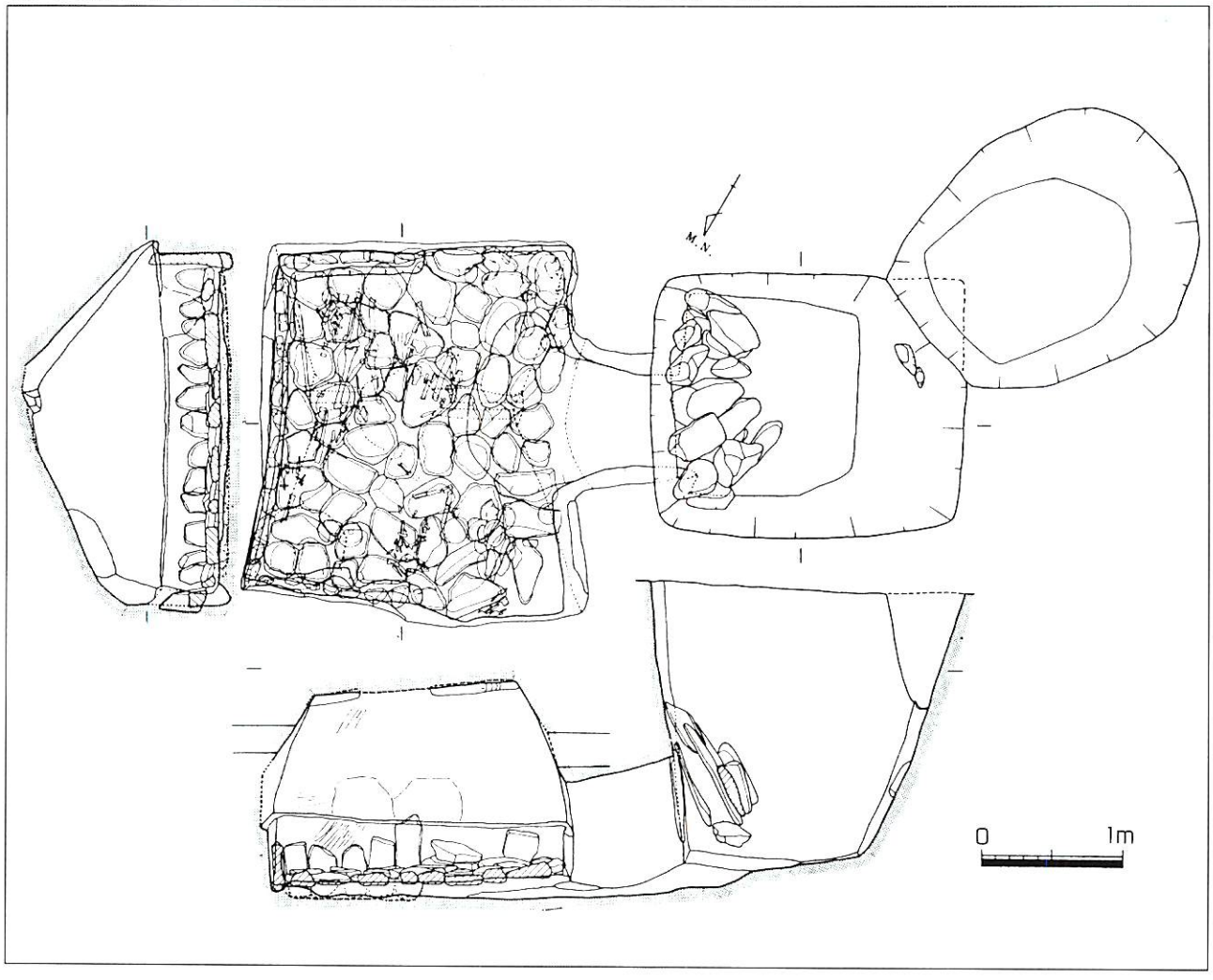
遺跡は小林市と野尻町の境界を流れる岩瀬川の右岸に広がる台地上にあり、２基の地下式横穴墓が農作業中に発見され、いずれにも装飾が施されています。

１号地下式横穴墓の玄室は、天井部は陥没しており不明ですが、正方形の平入り型の地下式横穴墓です。玄室が羨道に対して「く」の字にずれているのが特徴です。

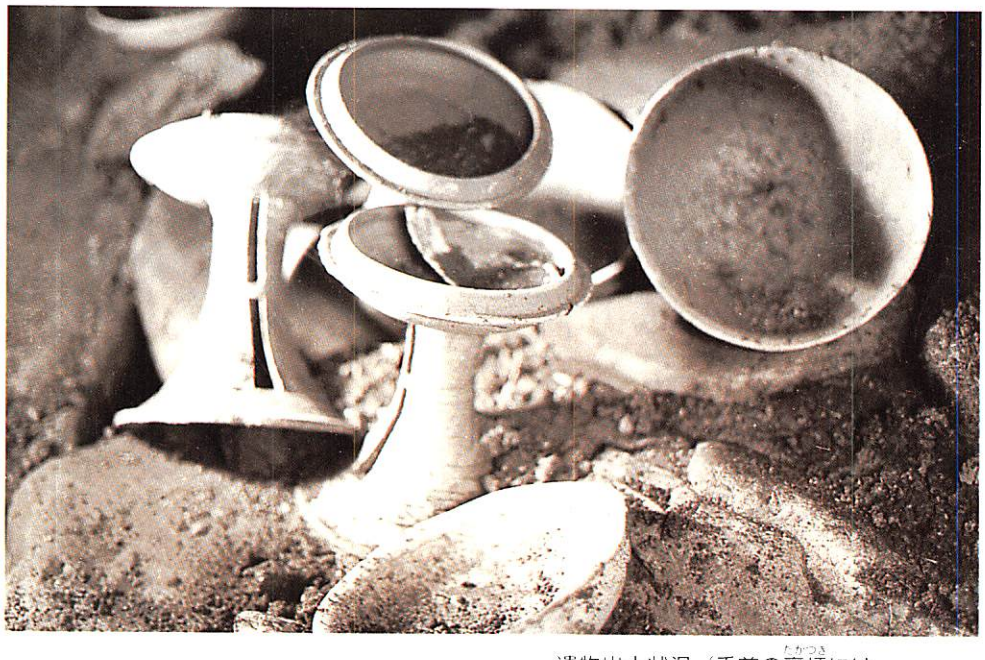
玄室右壁には、格子目状の線刻と束柱を思わせるような線刻が施されています。格子目状の線刻は、家屋の骨組みを表したのかもしれません。

人骨３体と棚状施設に置かれた状態で鉄製の剣、鏃、刀子などが出土しており、遺物から６世紀前半に造られたものと思われます。

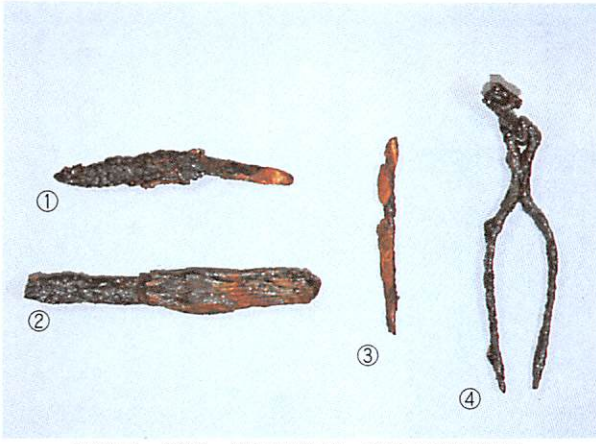
市の瀬10号地下式横穴墓（東諸県郡国富町大字深年字市の瀬）



市の瀬10号地下式横穴墓実測図



遺物出土状況（手前の高坏には
アワビが入っていました。）



①刀子　②鉈　③針状鉄器　④毛ぬき状鉄器

鉄鏃（7）　剣、刀

須恵器（15）
土師器（5）

遺跡は、国富町中央部より北西部を流れる深年川左岸の市の瀬台地にあり、10基の地下式横穴墓が発見されており、その内２基に装飾が施されています。

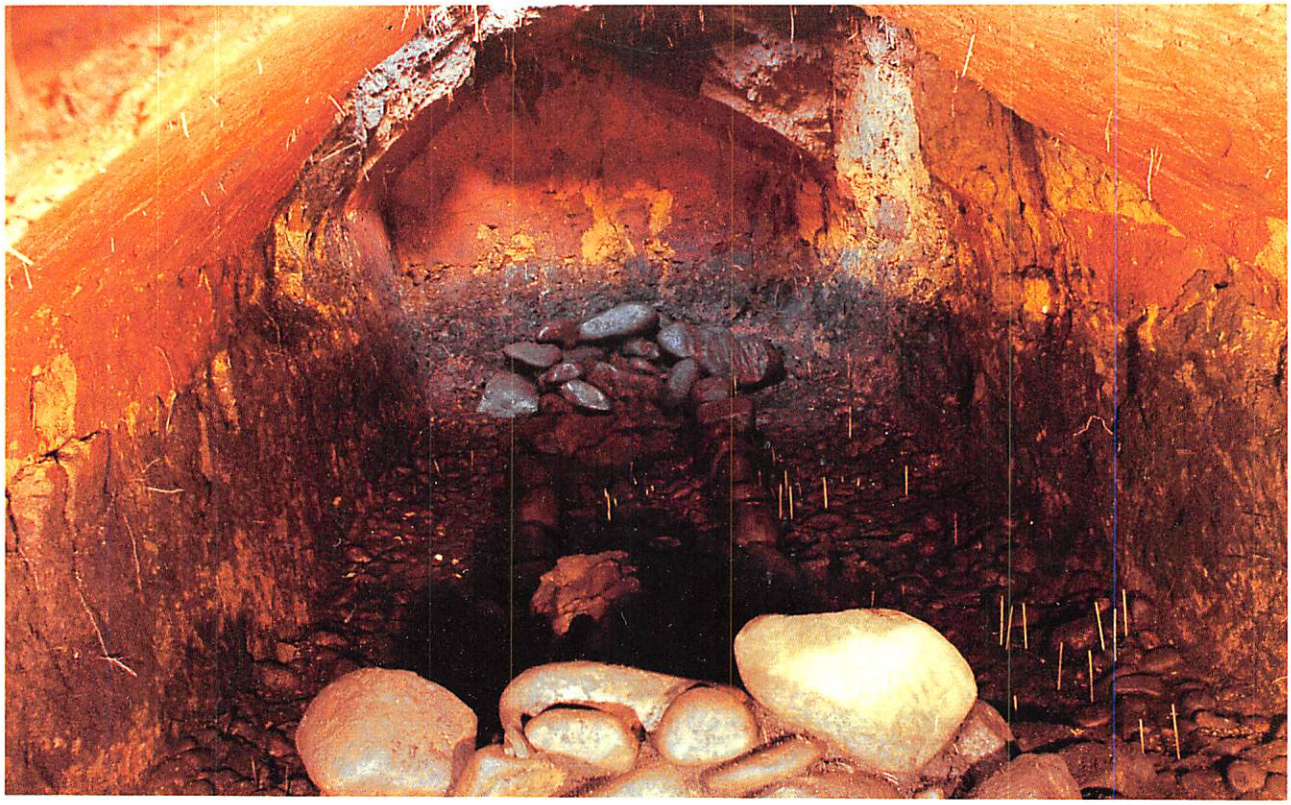
10号地下式横穴墓の玄室は、長方形で、天井を寄棟形にした妻入り型の地下式横穴墓です。床面には偏平な河原石が敷きつめられており、玄室中央部より奥の壁面三方にも同様な河原石が立てて配列され、天井部中央には、棟木を思わせるような浮彫りが施されていました。

鉄製の武器や工具のほか、当時の土器である土師器や須恵器が完全な形で多数出土しています。また、蓋のある須恵器の高坏には、死者のために供えられたと考えられるアワビが入っていました。これは、「古事記」「日本書紀」に記載されている「黄泉戸喫」と推定され注目されます。

これらの出土遺物から、６世紀の前半に造られたものと思われます。

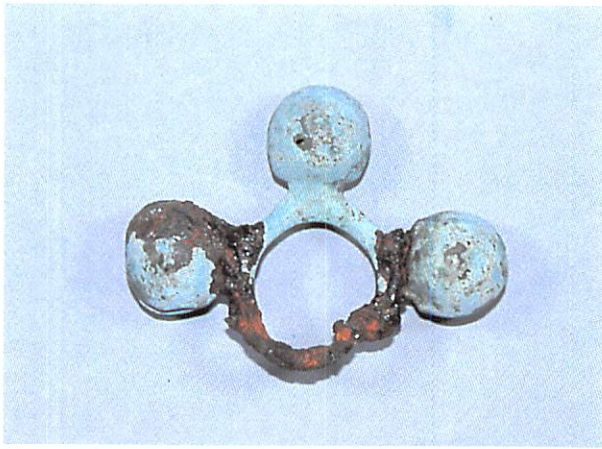
代表的な地下式横穴墓

下北方５号地下式横穴墓（宮崎市下北方町塚原）



下北方５号地下式横穴墓玄室

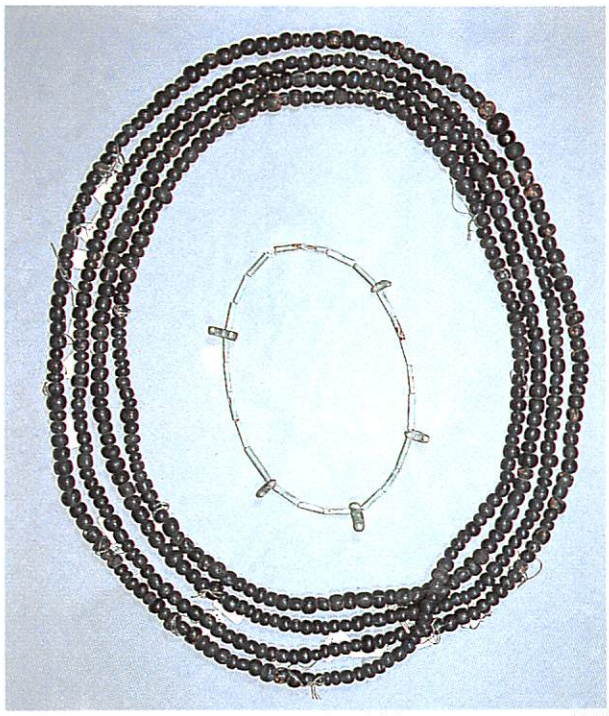
装身具類



環　鈴

※　もとは４個の鈴が付いていたものと考えられます。
　銅で作られたもので、馬の首にさげられていたものでしょう。

水晶製勾玉	（2）
メノウ製管玉	（2）
ガラス製管玉	（1）
ガラス製変形半円玉	（6）
ガラス製丸玉（大）	(55)
硬玉製勾玉	（2）



装身具類　碧玉製管玉　(23)
碧玉製勾玉　(5)
ガラス製丸玉（小）　(540)

馬鐸（馬の首にさげられていた銅製のベル）

変形獣形鏡、変形紋鏡（銅製の鏡）

金製垂飾付耳飾り１対

遺跡は、宮崎市市街地から北西の平和台公園周辺と、その南に広がる下北方台地にあり、前方後円墳４基と円墳12基からなる下北方古墳群、９基の地下式横穴墓から構成されています。

５号地下式横穴墓は、９号円墳の直下に造られています。９号墳の発掘は行われていないため断定は出来ませんが、埴輪や葺石といった古墳に伴う遺物が周辺から見つかっていないため、地下式横穴墓のための墳丘ではないかと考えられています。

玄室は長方形で天井を切妻形にした妻入り型の構造で、長さ５.３５メートル、幅１.８メートルと、地下式横穴墓としては極めて大きな造りです。床面には円礫が敷きつめられており、１人の人物のみを埋葬するために死体を安置するための屍床が中央に設けられています。

墳丘を持った巨大な玄室のほか、副葬品にも特筆すべきものがあり、武器・武具をはじめ、馬具、農工具のほか装身具や鏡といったおびただしい遺物は、巨大な前方後円墳に葬られた人々の副葬品に匹敵するほどです。

これらのことを総合すると、この地下式横穴墓に葬られた人物は、５世紀後半にこの地方で活躍した首長級の人物であったと考えられます。

六野原10号地下式横穴墓（東諸県郡国富町大字八代北俣字戸角）

小札鋲留眉庇付冑（鉄の板を鋲でとめて作られたかぶと）

横矧板鋲留短甲（鉄の板を鋲でとめて作られたよろい）

土師器

獣形鏡（銅で作られた鏡）

十字形轡（馬の口に取りつける金具）

遺跡は北俣川と三財川にはさまれた標高100メートルの台地上にあり、これまで、前方後円墳１基、円墳９基、地下式横穴墓31基が発掘されています。

10号地下式横穴墓も下北方５号地下式横穴墓と同様、円墳の下に造られています。この円墳も古墳ではなく、地下式横穴墓のための墳丘の可能性が強いようです。玄室も長さ５．６メートル、幅２．３メートルと巨大で、屍床が設けられており、天井部中央には、棟木のような浮彫りが施されています。

副葬品も豊富で、鉄の板を綴じあわせて作った冑（小札鋲留眉庇付冑）やよろい（横矧板鋲留短甲）などのほか、剣や直刀、鋤の先、銅製の鏡、土師器などが出土しています。

地下式横穴墓の構造、副葬品から、やはりこのお墓に葬られた人物は、前方後円墳に葬られた人物と肩を並べるか、または直属で軍団の指揮を執るほどの人物ではなかったかと思われます。

小木原（こきばる）3号地下式横穴墓（えびの市大字上江字小木原）

横矧板鋲留短甲（鉄の板を鋲でとめて作られたよろい）

馬鐸（馬の首にかけられていた銅製のベル）
轡鏡板（くつわかがみいた）（馬の口に取りつけられていた金具）

剣（2）
直刀
鉾

遺跡は川内川、池島川さらに上流を流れる二双川に挟まれた低位段丘の西端部にあります。

この遺跡を含む西諸県地方には、前方後円墳などのいわゆる古墳や横穴墓は無く、当時のお墓としては地下式横穴墓が主体となる地域です。この遺跡からもおびただしい数の地下式横穴墓が確認されています。中には、墳丘を持つ地下式横穴墓もいくらか存在したようです。

3号地下式横穴墓は、ブルドーザーによって壊されかけていたところを郷土史研究家、木崎原氏によって発見されたものです。氏の記録によると天井部の構造は壊されて不明なものの、床面が隅丸方形の平入り型の地下式横穴墓です。さらに、昭和の初期までは墳丘が存在したようです。

副葬品は、鉄製のよろい（横矧板鋲留短甲（よこはぎいたびょうどめたんこう））や剣、直刀、鉾（ほこ）、鏃などの武器・武具のほか、銅製の馬の首に付けるベル（馬鐸（ばたく））や馬の口に付ける金具（轡鏡板（くつわかがみいた））などが出土しています。

玄室の規模は、周辺の地下式横穴墓と変わりありませんが、横矧板鋲留短甲といった貴重な武具などが副葬されていることから、この地下式横穴墓に葬られた人物も、前出の例と同じようにこの地方の有力者であったでしょう。

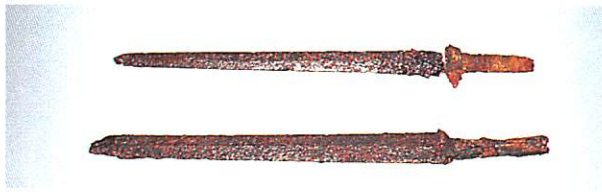
副葬品から5世紀末から6世紀初めに造られたものと思われます。

司祭者の墓

上ノ原９号地下式横穴墓（西諸県郡須木村大字中原字上ノ原）

人骨出土状況

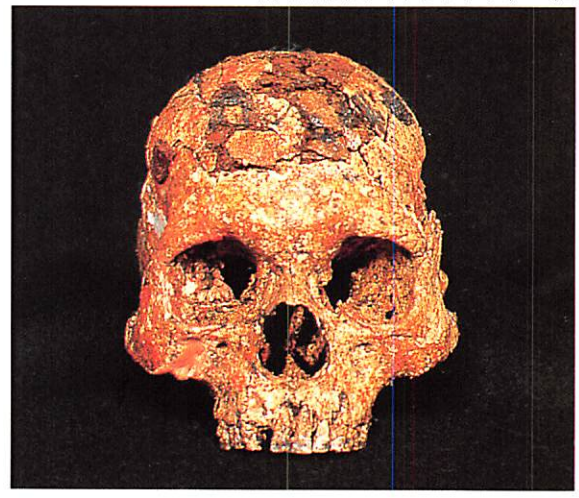
壁面に刀子が突き刺さった状況（拡大）



鉄製の剣

骨の柄のついた刀子、鉄鏃（３）
滑石製臼玉（ネックレス）一連

くしをつけた人骨頭部　１号人骨（女性）



くしをつけた人骨頭部　２号人骨（男性）

遺跡は、大年嶽山頂から西におりる山地の麓付近に位置し、現在の役場庁舎南東にあります。

10基が発掘されましたが、その内９基が近くにまとまっていたのに対し、１基のみが離れた場所にありました。これが９号地下式横穴墓です。

９号地下式横穴墓の玄室は、正方形の一角がとれた台形状で、天井をドーム形にした平入り型の地下式横穴墓です。

副葬品の内容は、鉄製の武器が主で他の地下式横穴墓のものとそれほど変わりません。

ところが人骨に装着されていた装身具が注目されます。人骨は、３体検出され、その内１号の壮年女性人骨に

は、頭部に霊力が宿るとされる大型の竹製の櫛が装着されており、左腕には巾玉と呼ばれる装身具がはめられていました。また、2号の熟年男性人骨には、頭部に9個の竹製の櫛がありました。

他の地下式横穴墓から1基だけ離れた場所に造られたこと、特別な装身具を身につけていたこと、さらに、2号人骨頭部の壁面に刀子が突き刺されるという異常な状態で検出されたことなどから、このお墓に葬られた人々は、村の中でも祭祀にたずさわったシャーマンではないかと考えられます。

この地下式横穴墓が造られた時期は、5世紀後半から6世紀前半にかけてと思われます。

地下式横穴墓に葬られた人々

立切35号地下式横穴墓人骨出土状況

旭台地下式横穴墓出土人骨レプリカおよび復顔模型

地下式横穴墓からは、これまで多くの人骨が出土しています。これは、先にも述べましたが、地下の密閉された空間が人骨の保存に適したことと、後の時代に人目につくことがあまり無く、副葬品を目的とした盗掘からまぬがれたためです。

これらの人骨は、当時の人々の形質的特徴（かお・かたち）を知る上で貴重な資料となります。地下式横穴墓に葬られた人々が、どのような容ぼうや体格であったのか、他の地域の人々との違いがあるのか、昔からそこに暮らしてきた人々の血を受け継いだ人々なのか、あるいはよその地域からやって来た人々なのか等々。

ここでは、形質人類学の権威で、およそ２０年の永きにわたり宮崎県内の古墳時代人骨の調査・研究を続けておられる山口県豊北町「土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム」館長松下孝幸先生の研究成果を要約したかたちで紹介します。

人骨の形質的な特徴が良く表れるのは頭蓋（とうがい）で、人骨全体から算出される身長の違いも重要です。これらのことから、松下先生は、宮崎県の古墳時代人骨を「山間部タイプ」と「平野部タイプ」に大きく分け、さらに後者を「宮崎平野Ｉタイプ」と「宮崎平野IIタイプ」に細分されています。その特徴をまとめると次のとおりです。

「山間部タイプ」

顔面は、幅が広く長さが短い。眉の上の隆起は強く、鼻骨もやや隆起している。いわゆるホリの深い顔立ち。身長は低く（９例の平均身長は１５８.７８cm） 全体として、縄文人の形質を残したと考えられている西北九州弥生人や縄文人に近い。

「宮崎平野Ｉタイプ」

顔面は面長。ホリの浅い顔立ち。身長は高く（２例の平均身長は１６４.５０cm）、全体として、大陸からの渡来人か彼らの影響を受けたと考えられている北部九州弥生人に最も近く、古墳時代においては、筑前地方の古墳人や畿内地方の古墳人にも近い。

「宮崎平野IIタイプ」

顔面は、面長。身長は高い（１例の値は１６５.５６cm）。頭の高さが低く、目が入っている穴も低く、周辺地域の弥生人や古墳人とは異質で似ているものは見出せない。

宮崎平野Ｉ及びIIタイプは、基本的には同じ形質を示していますが、前者が玄室に複数埋葬されている人骨の形質を、後者は玄室に１体しか埋葬されていない人骨の形質を示しており、埋葬方法の違いが人々の違いに通じる興味深い示唆を与えています。

まとめると、宮崎県内における古墳時代人骨（ほとんどが地下式横穴墓の人骨）は、山間部（内陸部）と平野部で違いがあることが分かります。山間部の人々は、縄文時代から暮らしてきた人々の子孫であり、平野部の人々は別な地域から移り住んだ人々の可能性が強いようです。移り住んだ時期については、宮崎県内に弥生時代人骨の出土例が無いため明らかではありませんが、弥生時代であれば、北部九州の渡来系と言われる弥生人の可能性がありますし、古墳時代であれば畿内政権の南九州進出と何らかの関係がありそうです。

2　横穴墓について

宮崎県の横穴墓における装飾

丘陵の傾斜面や崖面を利用し、横方向に穴を掘り、内部に遺体を埋葬するための部屋を設けたものを横穴墓と呼びます。内部構造は、一般的に玄室とそれに通じる羨道とからなり、玄室の天井は、アーチ形、ドーム形、家屋に見立てて切妻形や寄棟形の屋根形に表現することが多いようです。5世紀の後半に誕生しますが、最も盛んに造られるのは6世紀後半から7世紀の古墳時代後半から終わりにかけての時期です。

宮崎県の場合、五ヶ瀬川上流の高千穂町を中心とした山間地域、宮崎市を中心とした平野部地域の二つに中心的な分布があり、五ヶ瀬川下流域など他の地域にも僅かながら分布しています。地下式横穴墓の分布と重ねあわせてみてみると、大淀川流域などで分布が重なるほかは、分布圏が異なることが分かります。この分布の違いが、どのような社会背景によって生み出されたのかが注目されるところです。

宮崎県の横穴墓における装飾は、その特徴から、大きく二つに分けることができるでしょう。

①玄室の天井に円や方形の文様を施したり、玄室四隅に柱状の浮き彫りを施したもの。

②玄室内部に人物や馬、三角文などを施したもの。

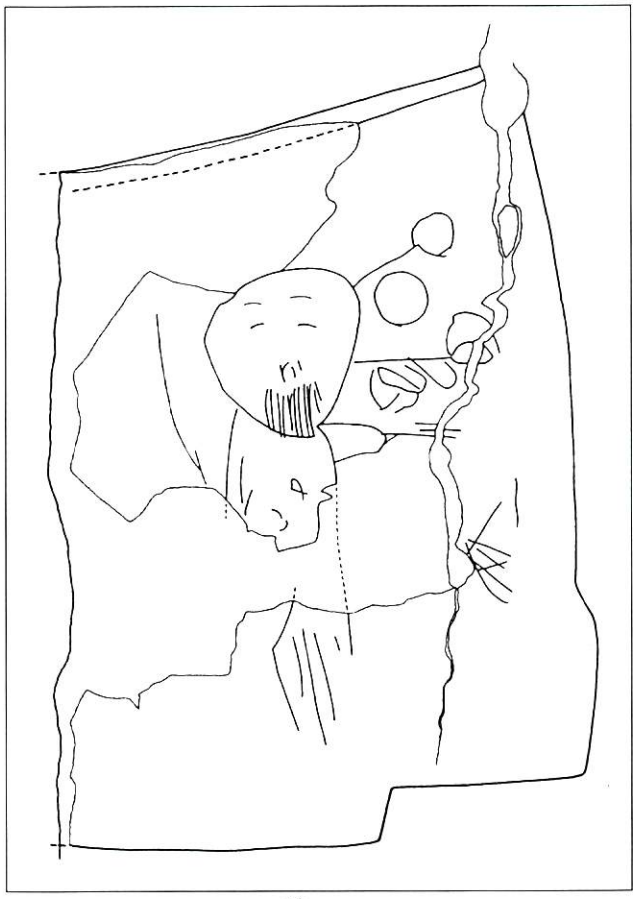
①については、屋根や柱を表したようにも見うけられます。

②については熊本県の横穴墓と比較しながら相違点と共通点を考えてみます。熊本県の装飾のある横穴墓といえば、鍋田27号横穴墓のように横穴墓外壁などに人物や武器・武具などを浮彫りによって表現する例をまず思い浮かべます。それに対し、宮崎県の場合は、玄室内部に線刻などによって表現されています。

人物のみを例にとると浮彫りと線刻という手法の違いもありますが、埋葬が行われた後、入口をふさいでしまうと、宮崎県の場合、外部の者がその文様を見ることはできません。あたかも埋葬者の死を悲しむように共に玄室内部の暗闇に葬られているようです。熊本県の場合は横穴墓外壁に、両手両足を広げて立ち、まさに「大」の字の姿をしています。これは、悪霊の進入を防ぐとともに、墓荒らしといった外部からの進入者を防ぐ威嚇の意味を込めて表現されたのでしょう。

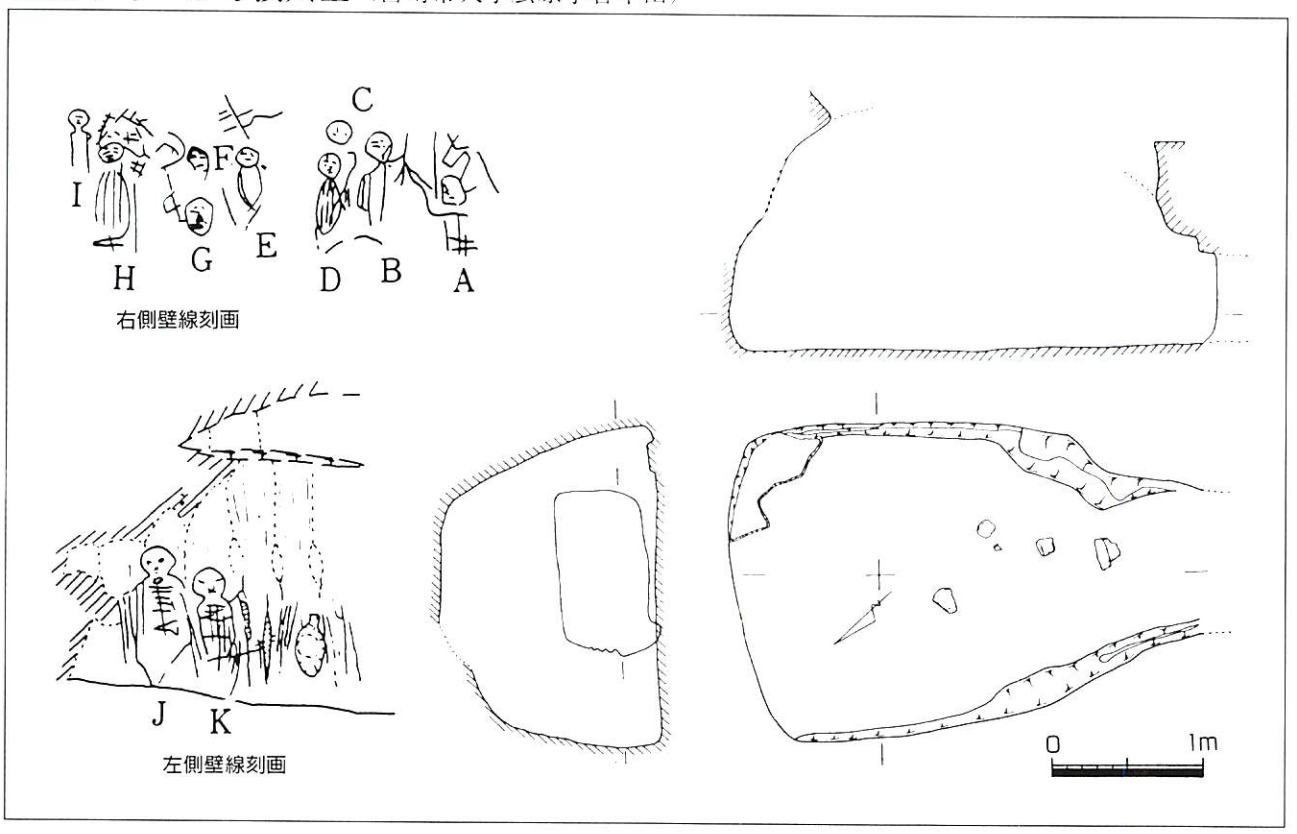
このようにみると、両者の間には何の関連性も無いようですが、むしろ少ない共通点が重要なのかもしれません。僅かではありますが、玄室内部に線刻によって人物が描かれている例は熊本県内にもあります。また、土器田東1号横穴墓のように玄室内面に三角文を施す例は、熊本県内にも多いようです。

ともあれ、宮崎県の装飾のある横穴墓が、独自に発生・展開したのか、熊本県などの九州内外の事例と関連するのか、今後研究を深めていく必要があります。

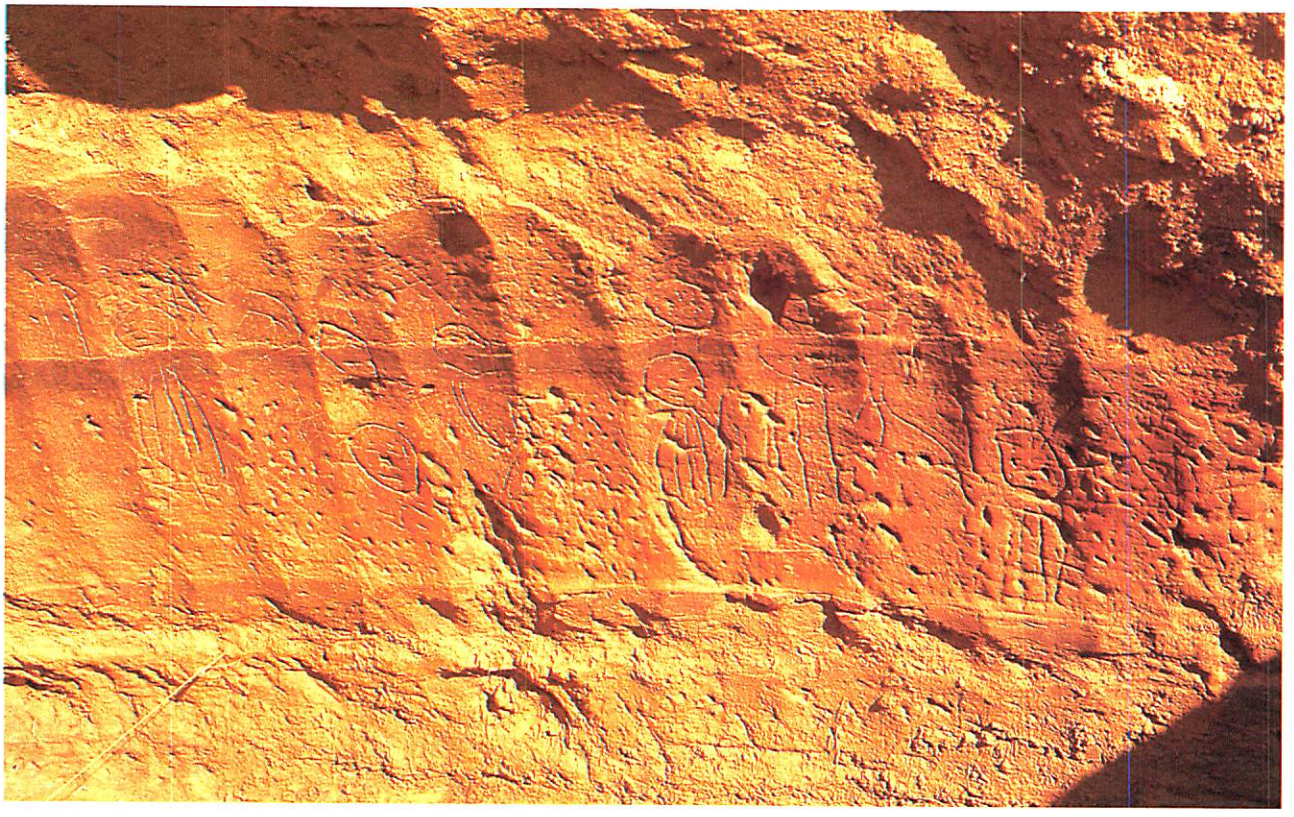


原3号横穴墓左壁線刻画（玉名市）

広原（ひろはら）1号・3号横穴墓（宮崎市大字広原字菅牟田）

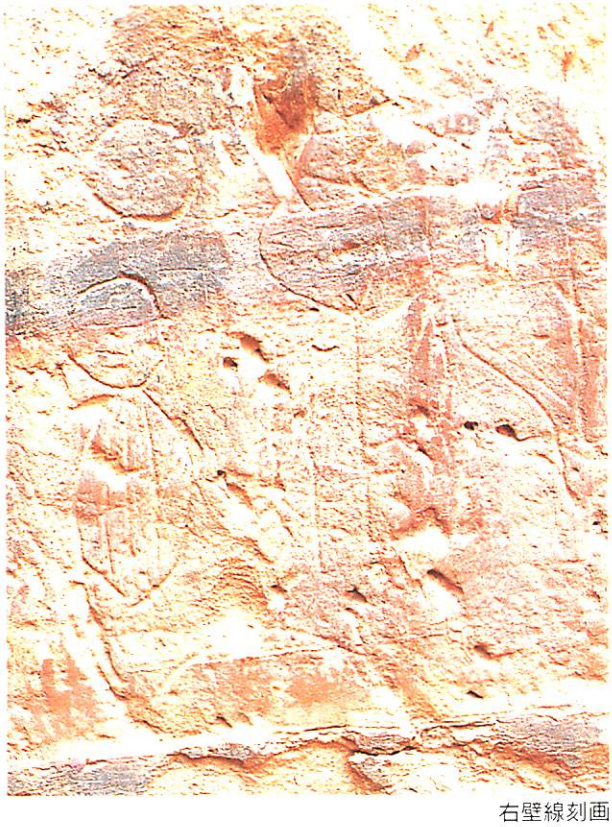


広原１号横穴墓実測図



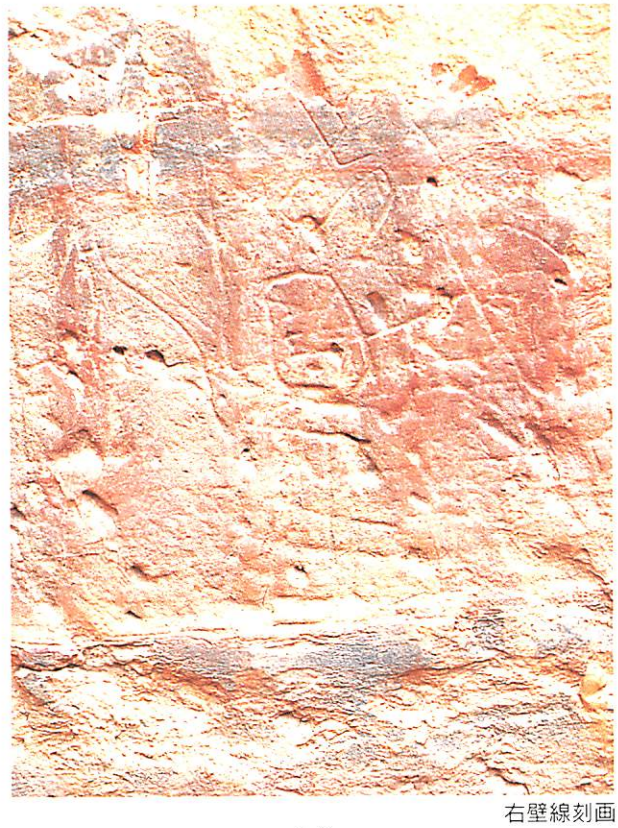
右壁線刻画

左壁線刻画



右壁線刻画

C像
D像　B像



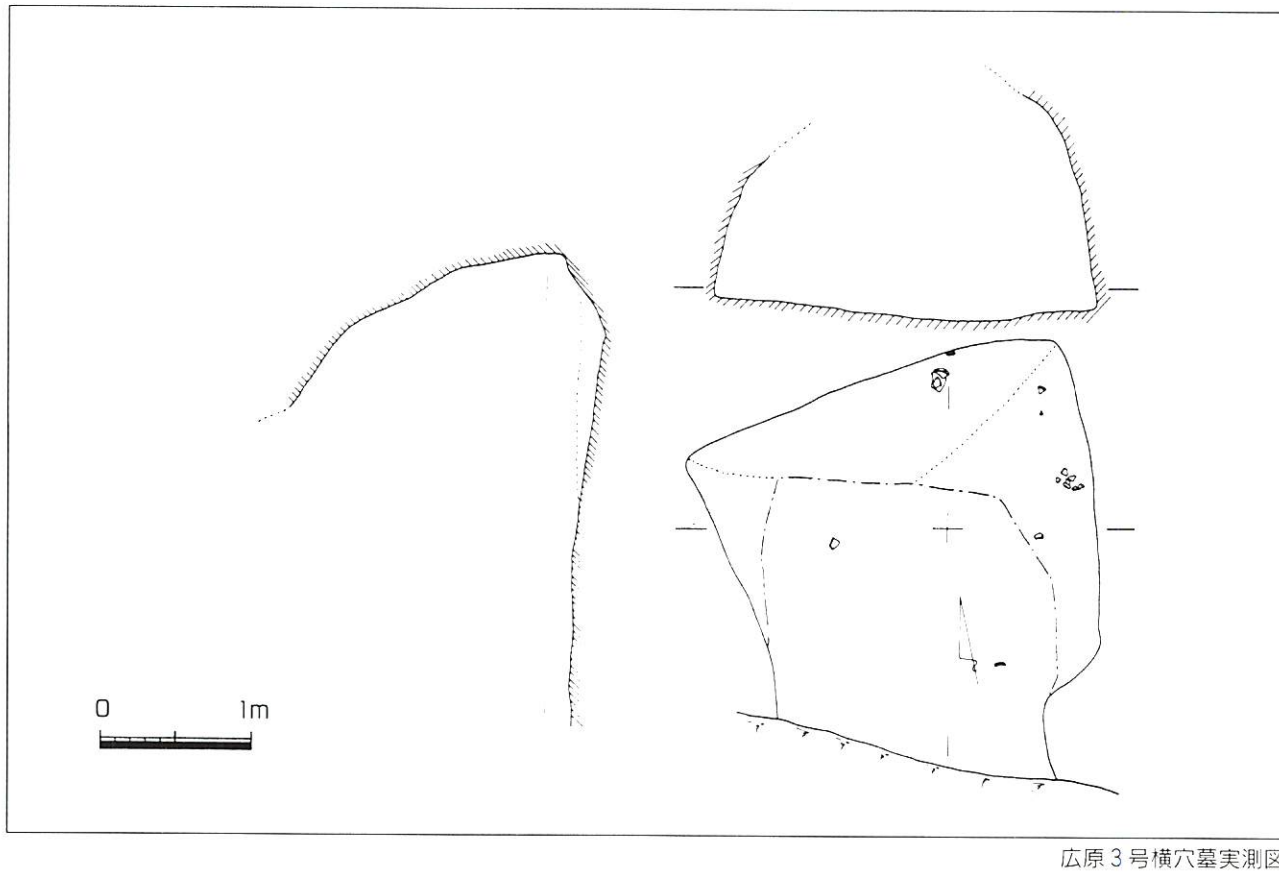
右壁線刻画

A像

右壁線刻画
I 像　　H 像

F 像
G 像　　E 像
右壁線刻画

広原３号横穴墓



広原３号横穴墓実測図

奥壁線刻画

左壁～奥壁線刻画

奥壁右側上部線刻画

右壁線刻画

遺跡は、垂水台地から延びる丘陵地の、小谷が入り込む舌状丘陵南斜面にあり、８基の横穴墓が発掘され、その内２基に線刻による装飾が施されています。

１号横穴墓の装飾は、左右の壁面にあり、左壁に２体、右壁に９体、合計11体の人物像が、線刻によって描かれています。１体の像高は25～30センチメートルほどです。

上半身がほとんどで、中には頭部のみのものもあります。頭部は楕円形の輪郭で、その中に眉、目、鼻、口などが表現されており、全体的に物悲しい表情を感じさせています。体部や腕などは簡略されて表現されており、手には持ち物らしきものもあり、死者を送る葬列を表しているのかもしれません。

出土した須恵器片から、８世紀中頃に造られたものと思われます。

３号横穴墓には、以前から線刻画があることが知られていましたが、工事により大部分が削られてしまったため、一部にしか残っていません。

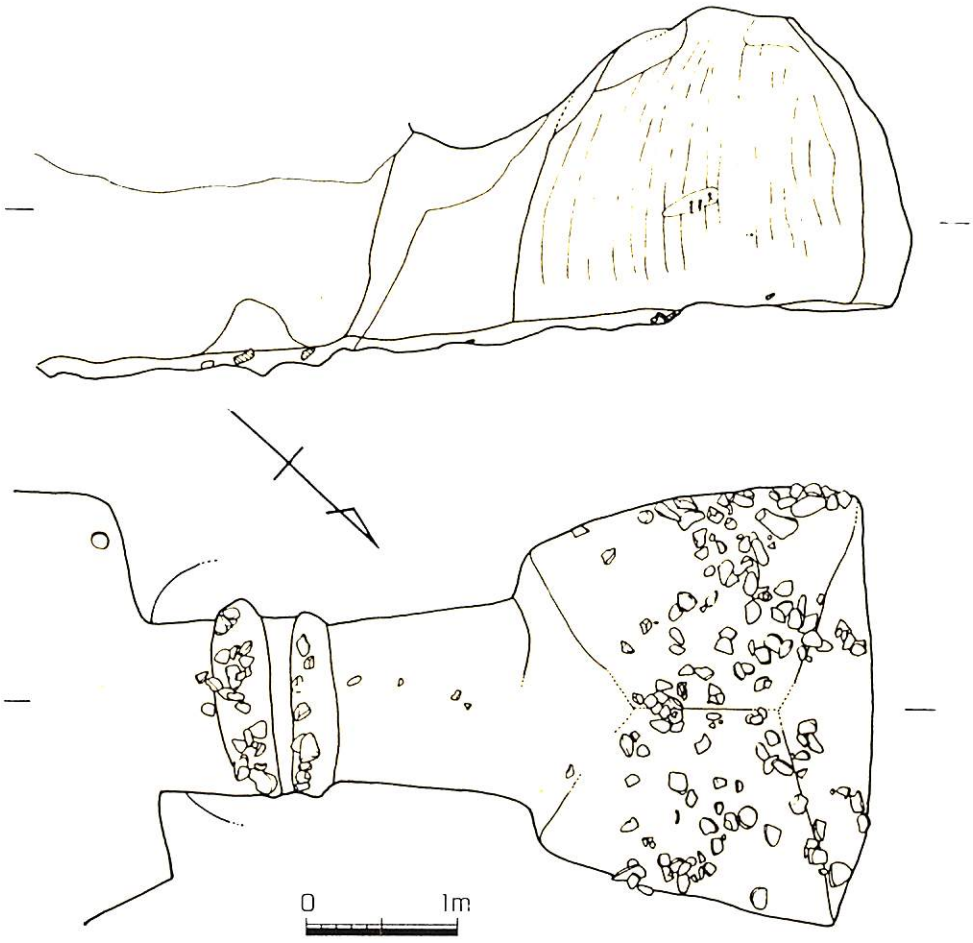
右壁には、顔面のみ線刻されており、眉、目尻がつり上がり、怒った表情に感じられます。

左壁には２体線刻されており、細部は風化が激しく分かりませんが、座った状態を表しているように見えます。

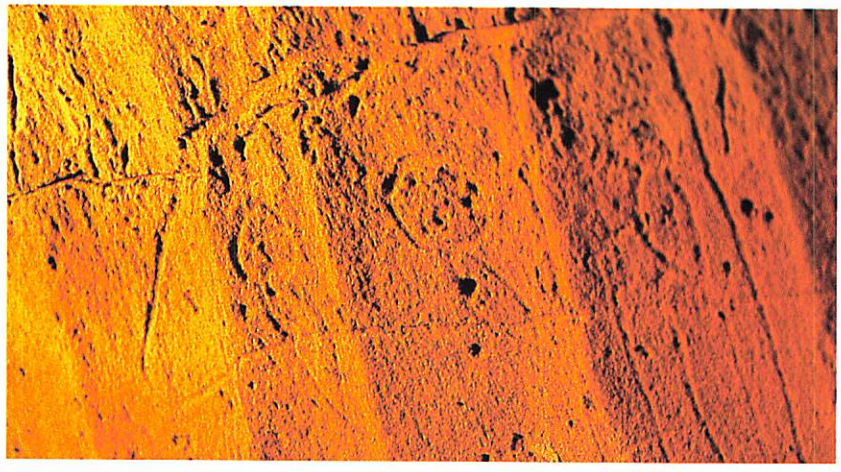
奥壁には、５体の人物像と長方形の図形が線刻されています。表情がはっきり分かるものもありますが、全体的に簡略された単調な線で、何を行っている姿なのかは判断できません。長方形の図形についても何を表しているのか分かりません。

この横穴墓も出土遺物から８世紀の前半に造られたものと思われます。

蓮ヶ池33号横穴墓（宮崎市大字芳士字岩永迫）



蓮ヶ池33号横穴墓



玄室左壁線刻画

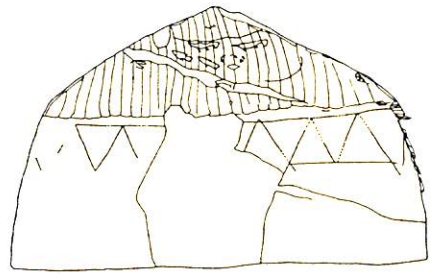
遺跡は、垂水台地から宮崎平野に延びる丘陵斜面にあり、大きく３つのグループに分かれ、82基の横穴墓が確認されており、その内33号横穴墓に線刻が施されています。

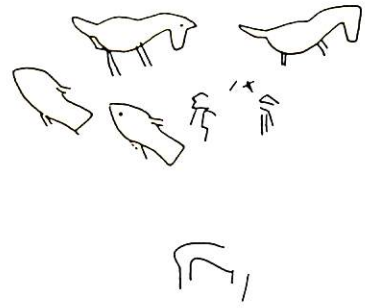
33号横穴墓は第２グループに属し、玄室は天井を寄棟形に造る妻入り型の横穴墓です。

線刻は左壁面にあり、３体の人物像が描かれています。３体とも並んでおり、頭部と手足の無い体部のみです。壁面の風化が著しく表情は分かりにくいですが、中央部の１体は目と口を丸く描いているようです。

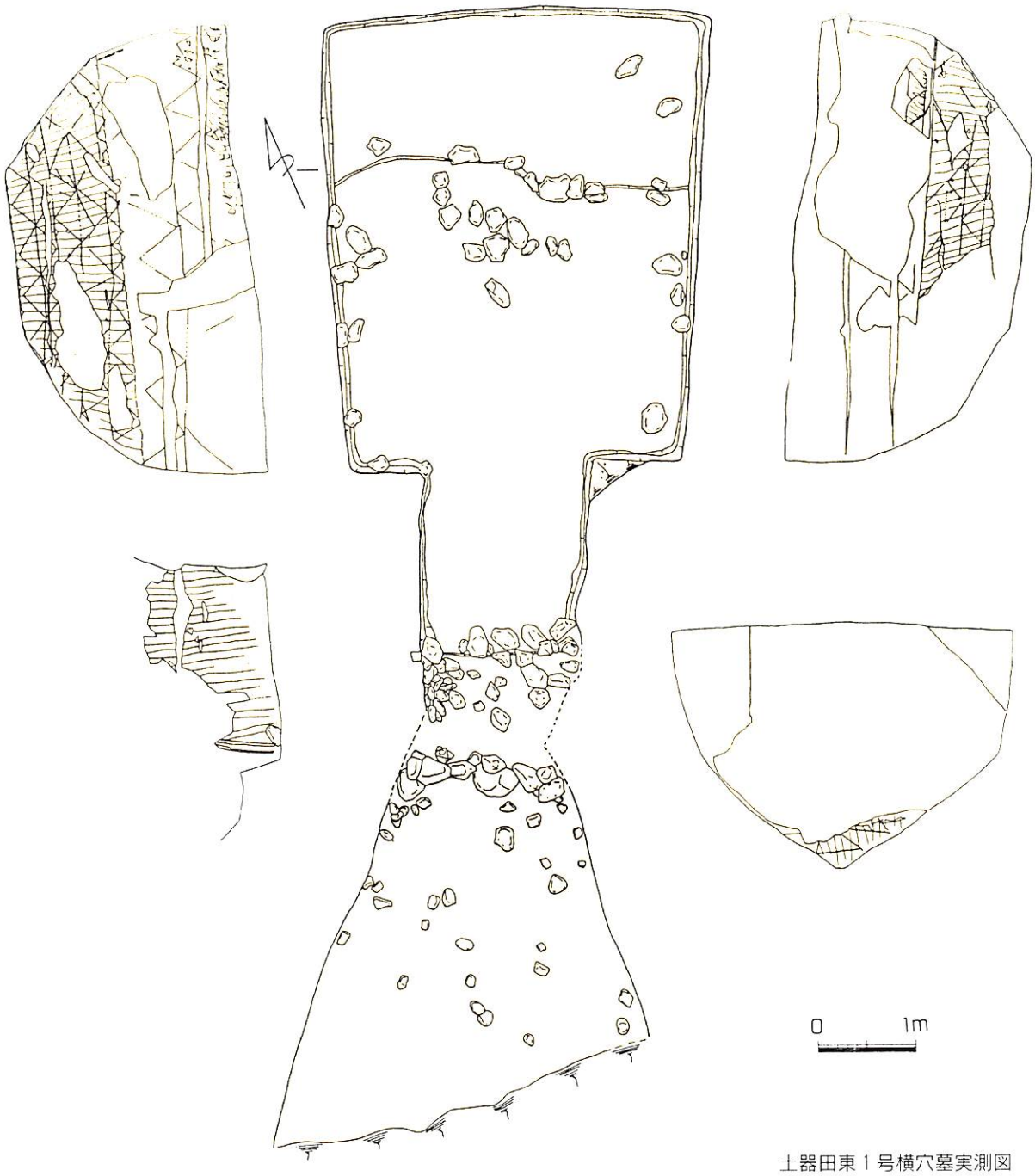
出土遺物が少ないため、はっきりした時期は分かりません。

土器田東（どきだひがし）１号横穴墓（宮崎郡佐土原町大字下那珂字土器田）





奥壁線刻画実測図



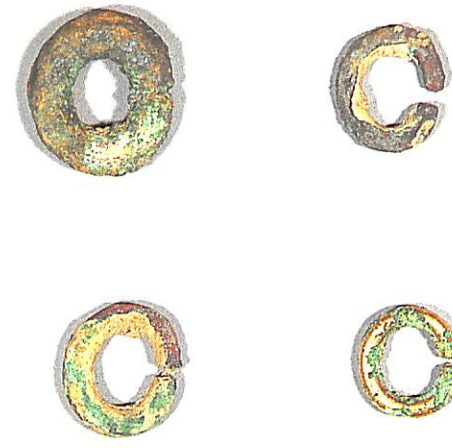
土器田東１号横穴墓実測図

玄室全景

奥壁線刻画

須恵器

鎌、刀子（3）、鉄鏃（4）



金環（金メッキをしたイヤリング）

遺跡は、佐土原町市街地から西側に広がる丘陵麓部の南斜面にあります。

谷部を挟んで東南に２つのグループに分かれ、７基の横穴墓があり、その内１基に装飾が施されています。

東１号横穴墓は、宮崎県内の横穴墓の中でも最大級の規模を誇ります。玄室は、奥壁に比べ羨道部側がやや狭くなった長方形で、天井部を寄棟形にした妻入り型の横穴墓です。

装飾は奥壁及び左右の壁に線刻及び彩色によって施されています。

奥壁中央上部には、馬及びイルカ、人物らしき図柄などが描かれており、特に馬の図柄は鮮明で、左側の馬は耳まで描き分けています。日本書紀に「……馬ならば日向（ひゅうが）の駒（こま）……」と称賛されており、当時、宮崎県地方は馬の有名な産地だったようです。この馬は、生前、主が愛した名馬「日向の駒」であったかもしれません。

形象的な図柄のほかにも連続三角文が三方の壁にあり、部分的に赤色顔料が残っていることから、三角文の内面は、赤く彩色されていたのでしょう。

三角文は、装飾古墳の多くに採用されていますが、横穴墓内部に施される例は多くありません。また、形象的な図柄と組み合わさった例は少なく、この横穴墓における独自性を感じさせます。

副葬された須恵器などから、この横穴墓は６世紀中頃から７世紀前半にかけて造られたものと考えられます。

穂北横穴墓群（西都市大字穂北字上江・野竹他）

遺跡は、一ツ瀬川左岸の茶臼原台地の丘陵南側及び西側斜面を中心に、瀬江川を隔てた対岸大木原台地及び一ツ瀬川を隔てた対岸の山中にあります。いくつかのグループに分かれ、総数60基の横穴墓が確認されています。

その内、何らかの装飾が施されているのは、上江県指定15号横穴墓、千畑１号横穴墓、杉尾１号横穴墓、串木２・４号横穴墓の５基です。

それぞれの横穴墓の出土遺物から、この横穴墓群は、６世紀中頃から７世紀初めにかけて造られたものと考えられています。

上江県指定15号墓の玄室は、ほぼ長方形で、天井を寄棟形にした平入り型の横穴墓です。

装飾は、線刻によって施されていおり、まず目につくのは、天井部北側中央部にある直径37センチメートルの三重の円文で、外円から放射状に約30本の直線が刻まれています。さらに、この三重の円文周辺に４個の円文があり、その内３つの円文には十字に交差する直線が刻まれています。また、鳥らしき線刻も確認されています。

入念な現地調査を続けておられる宮崎県考古学会会長、日高正晴氏は、中心となる三重の円文と放射状の線刻を太陽とその光線として捉え、当時の太陽信仰を推察されています。

千畑１号横穴墓の玄室は、正方形で、天井を寄棟形にした妻入り型の横穴墓です。

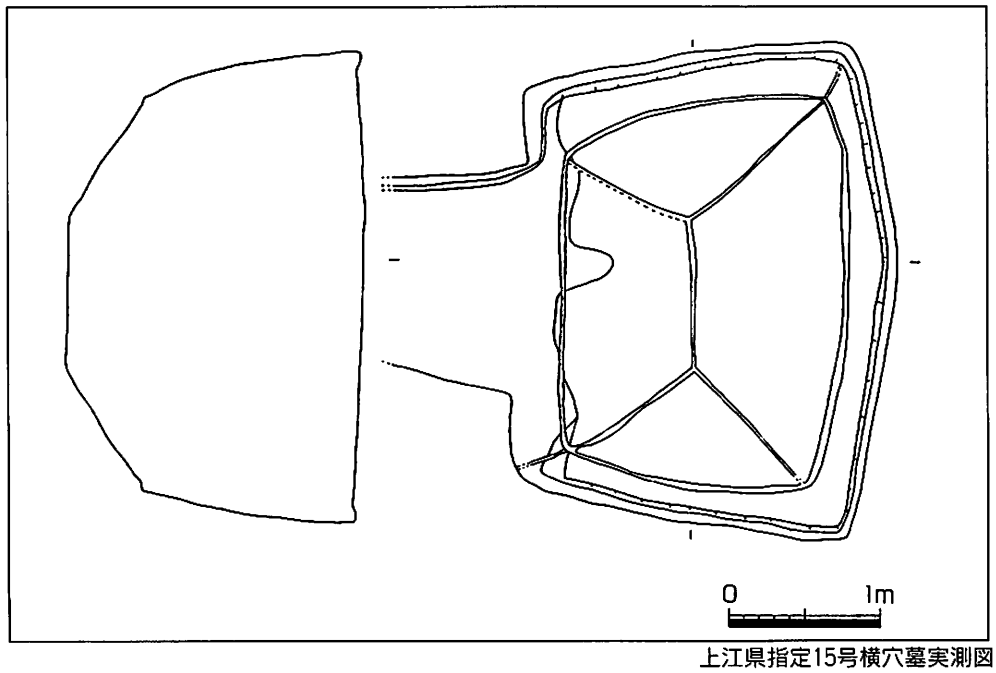
玄室の四隅に浮彫りの装飾が縦方向に施されており、天井構造も屋根形にしていることから、屋根を支える柱を表現しているものと考えられます。このように横穴墓の中でも、柱を模した表現は他に例が無く注目されます。

杉尾１号横穴墓の玄室は、正方形で、天井を寄棟形にした横穴墓です。

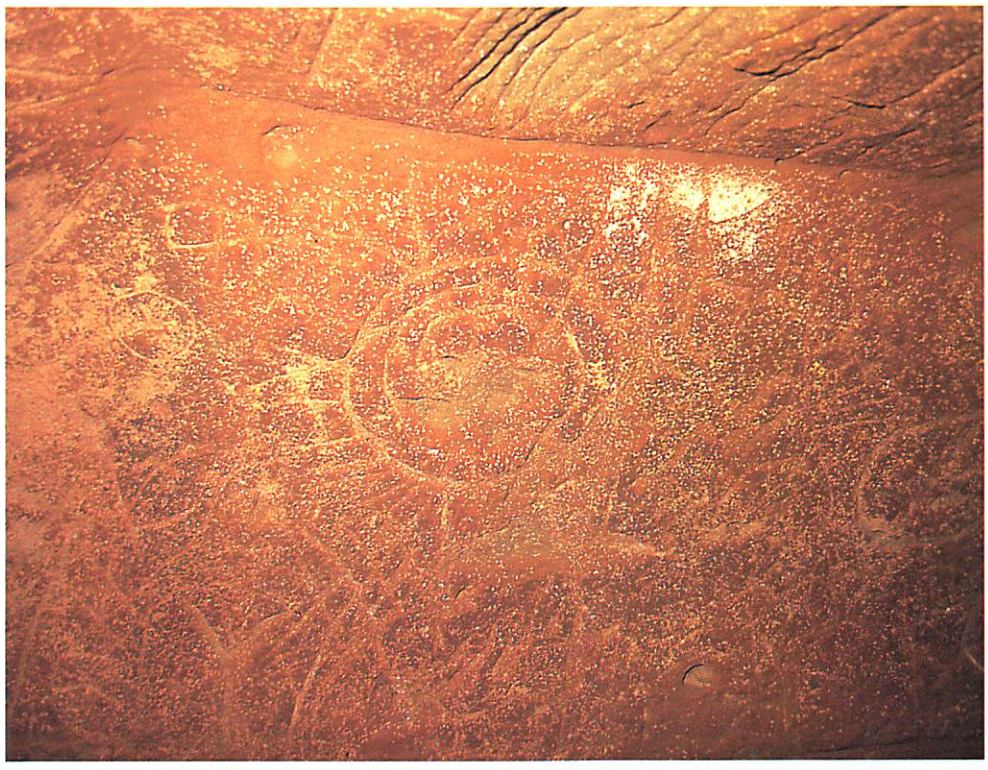
装飾は、玄室天井中央部にあり、浮彫りによる円文を囲むように、二重の正方形の浮彫り文が施されています。

これと類似した表現は、串木２・４号横穴墓にもみられます。２号横穴墓の天井中央部には、正方形の浮彫りがあり、また、４号横穴墓天井中央部には円形の浮彫りが施され、そこから玄室四隅に垂木状の浮彫りが延びています。これらは、玄室天井部中央にあることなどから、屋根の一部を表現したようにも思われます。

上江県指定15号横穴墓

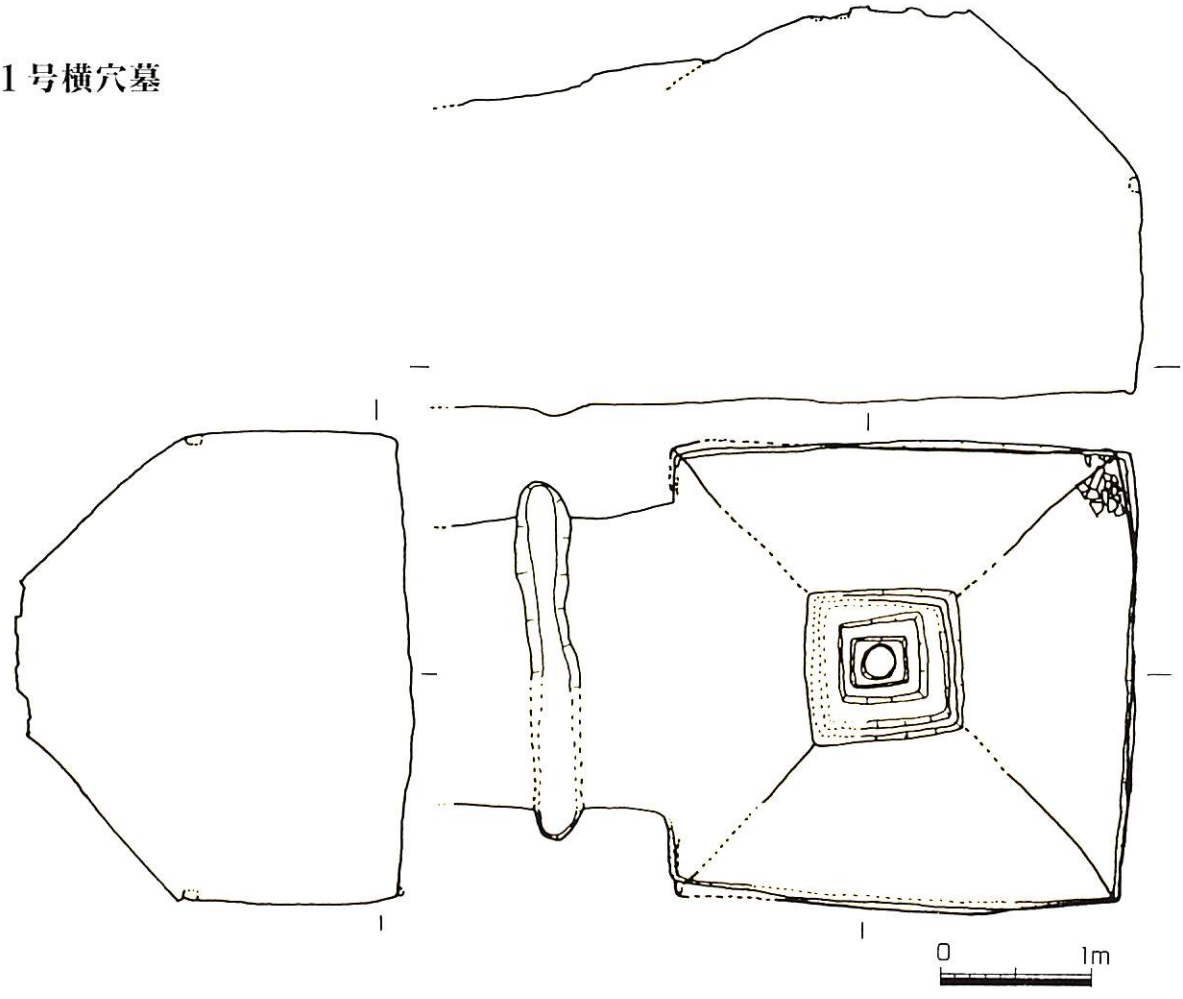


上江県指定15号横穴墓実測図

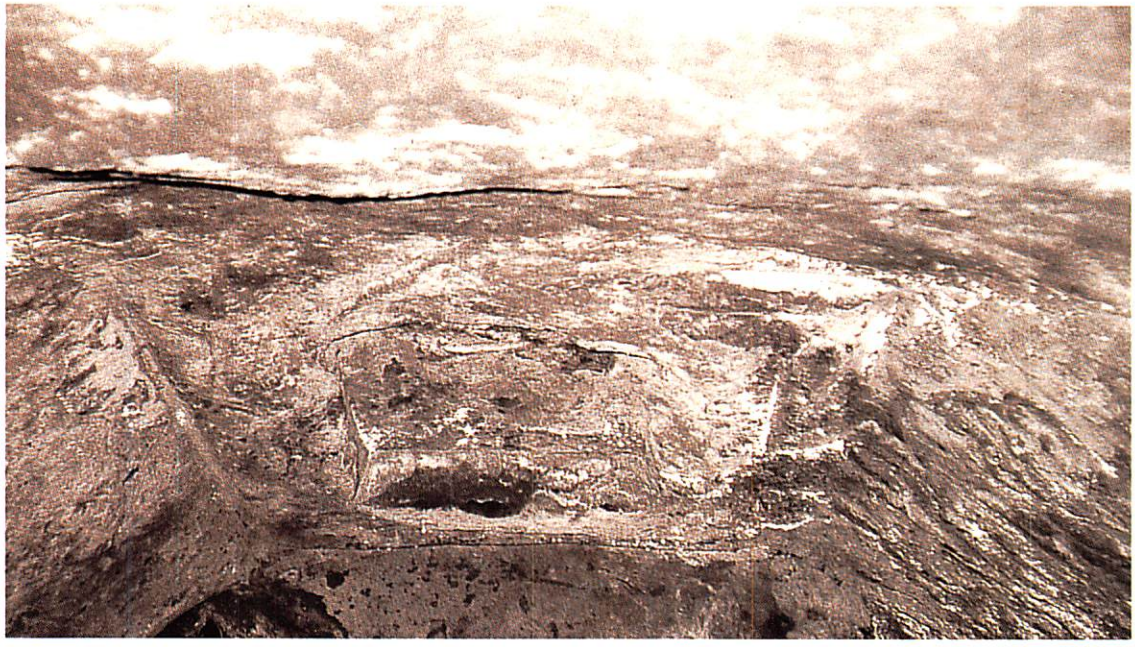


上江県指定15号
玄室天井線刻画

杉尾（すぎお）1号横穴墓



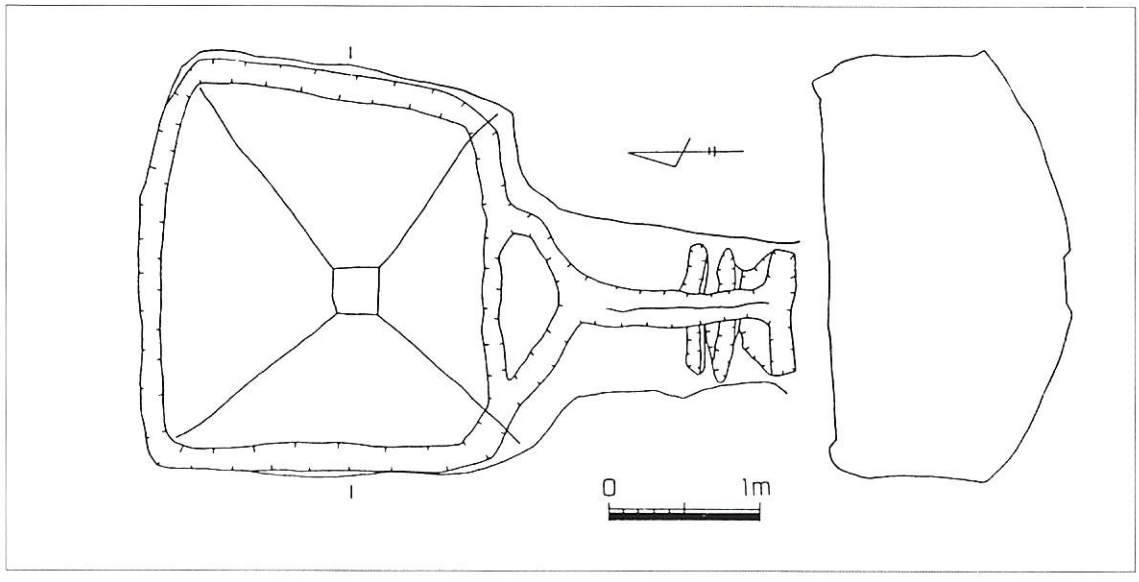
杉尾1号横穴墓実測図



杉尾１号横穴墓玄室天井浮彫り

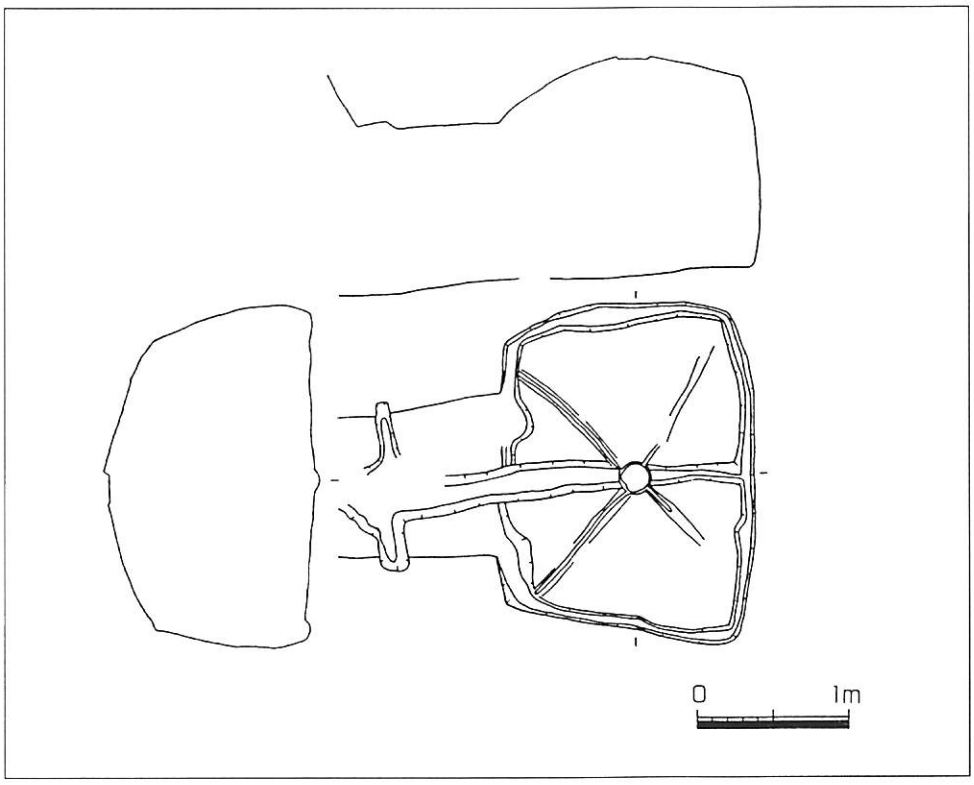
串木（くしき）２号横穴墓

串木２号
横穴墓玄室天井浮彫り



串木２号
横穴墓実測図

串木４号横穴墓

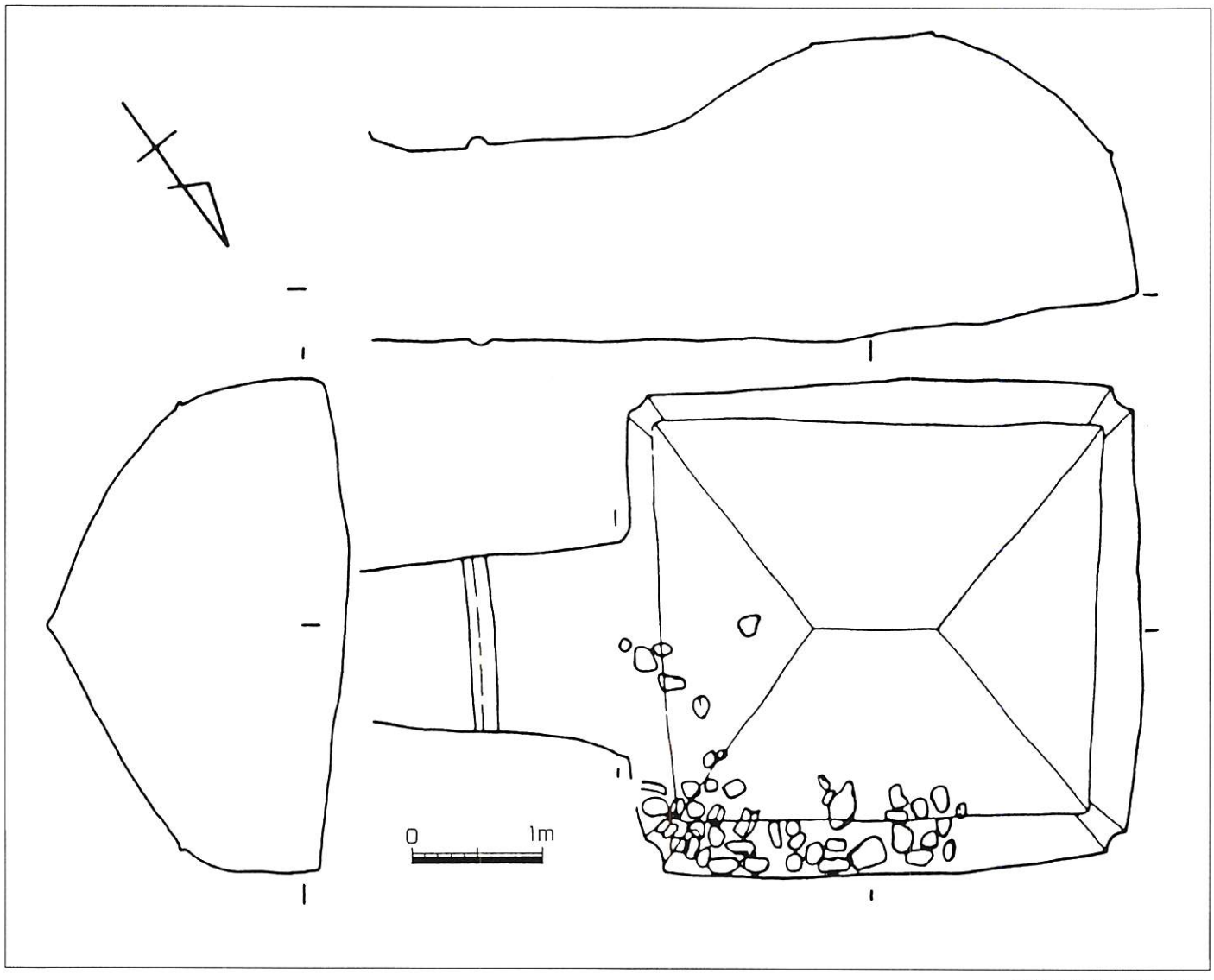


串木４号横穴墓実測図

串木４号横穴墓天井部浮彫り

千畑（ちばたけ）1号横穴墓

玄室全景

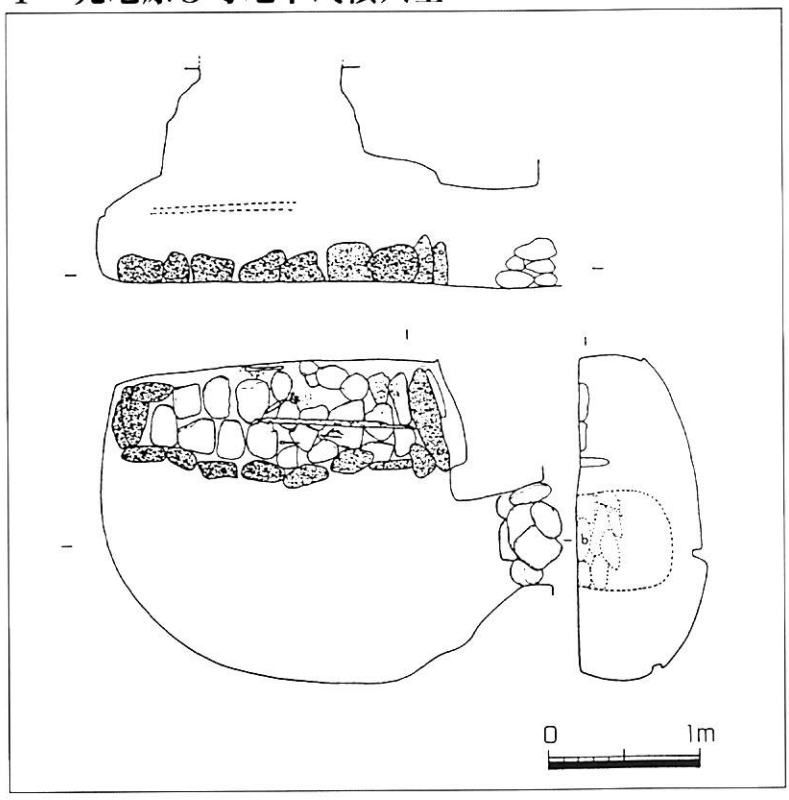


千畑1号横穴墓実測図

参考資料

その他の装飾ある地下式横穴墓

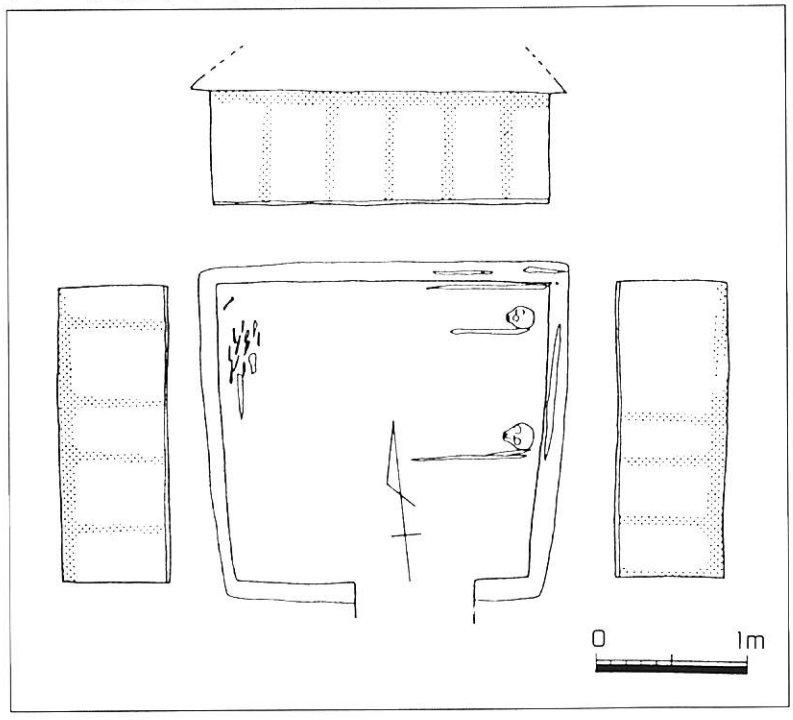
1　元地原（もとぢはら）3号地下式横穴墓



所 在 地　西都市大字上三財字元地原
構　　造　不整形プラン、アーチ形天井
施文方法　浮彫り
文　　様　棟木を表現
時　　期　5世紀末
備考　　屍床あり

元地原3号
地下式横穴墓実測図

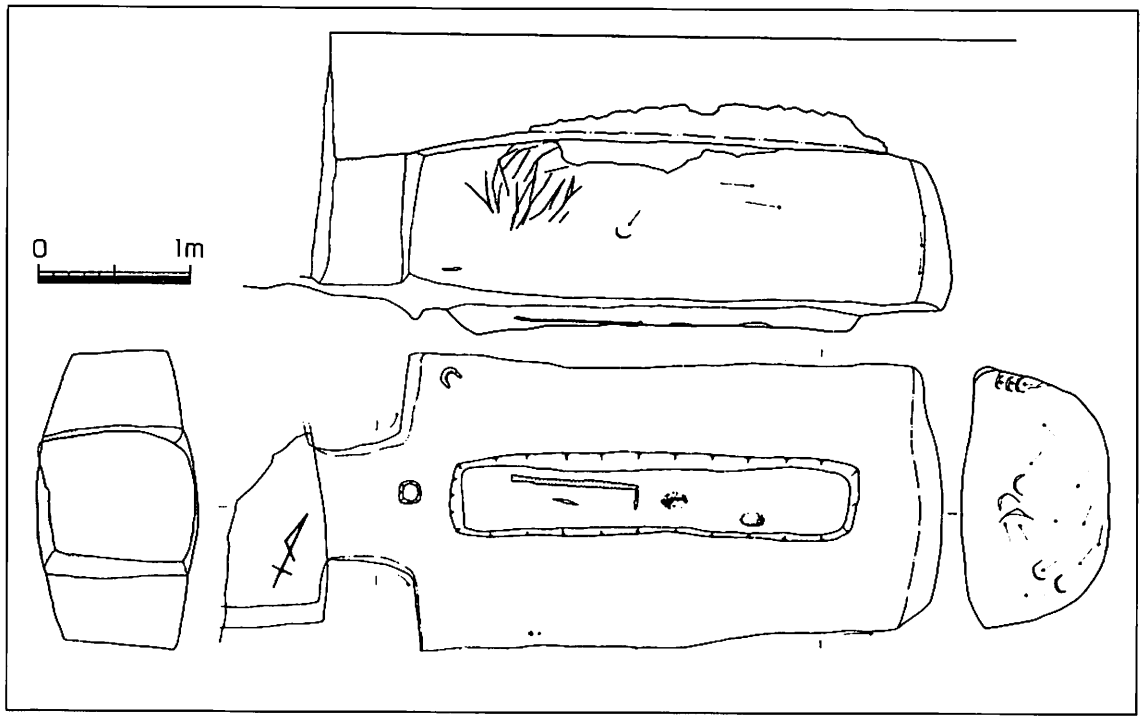
2　宗仙寺（そうせんじ）5号地下式横穴墓



所 在 地　東諸県郡国富町大字本庄字宗仙寺
構　　造　正方形プラン
施文方法　彩色（赤）
文　　様　柱を表現
時　　期　6世紀後半

宗仙寺5号
地下式横穴墓実測図

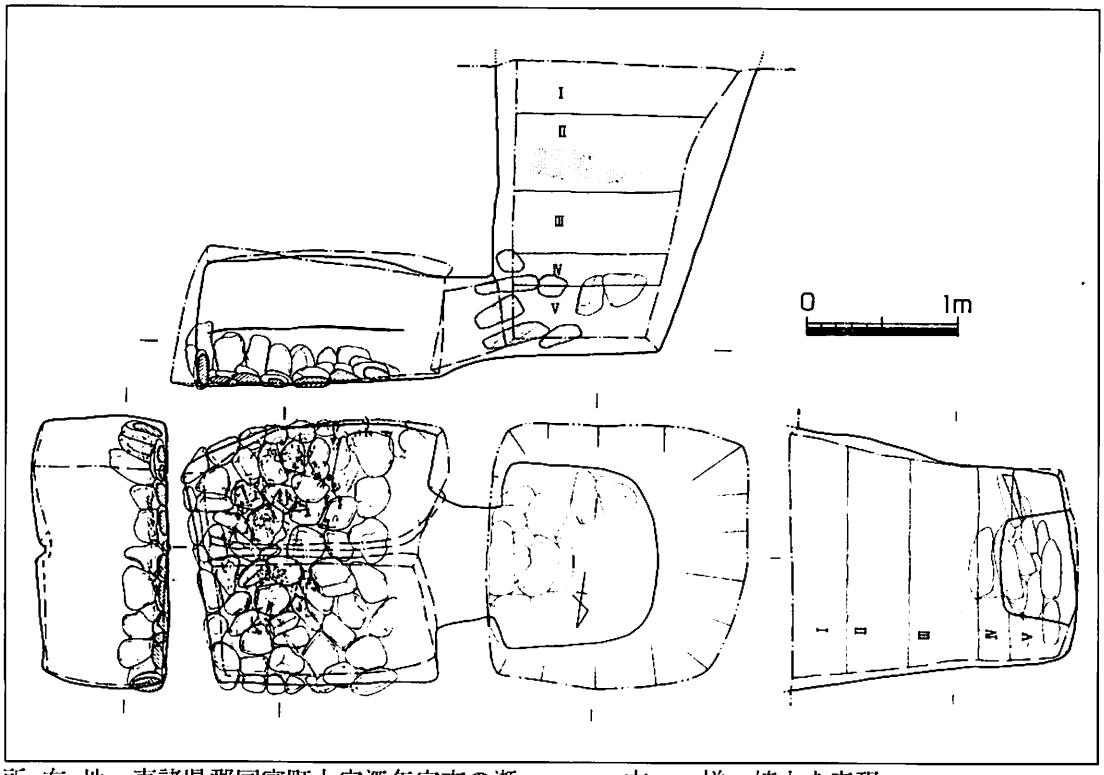
3　地蔵寺地下式横穴墓



地蔵寺地下式
横穴墓実測図

所在地	東諸県郡国富町大字本庄字地蔵寺	文　様	不規則な線文
構　造	長方形プラン、アーチ形天井、妻入り型	時　期	5世紀後半
施文方法	彩色（赤）	備　考	屍床あり

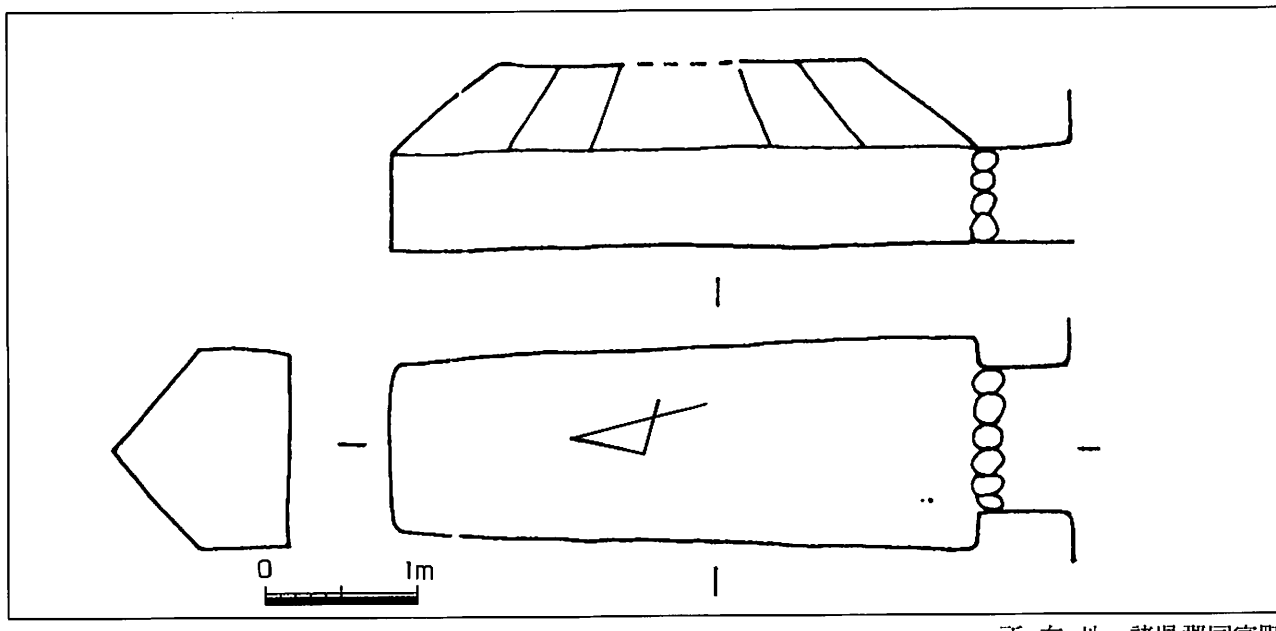
4　市の瀬9号地下式横穴墓



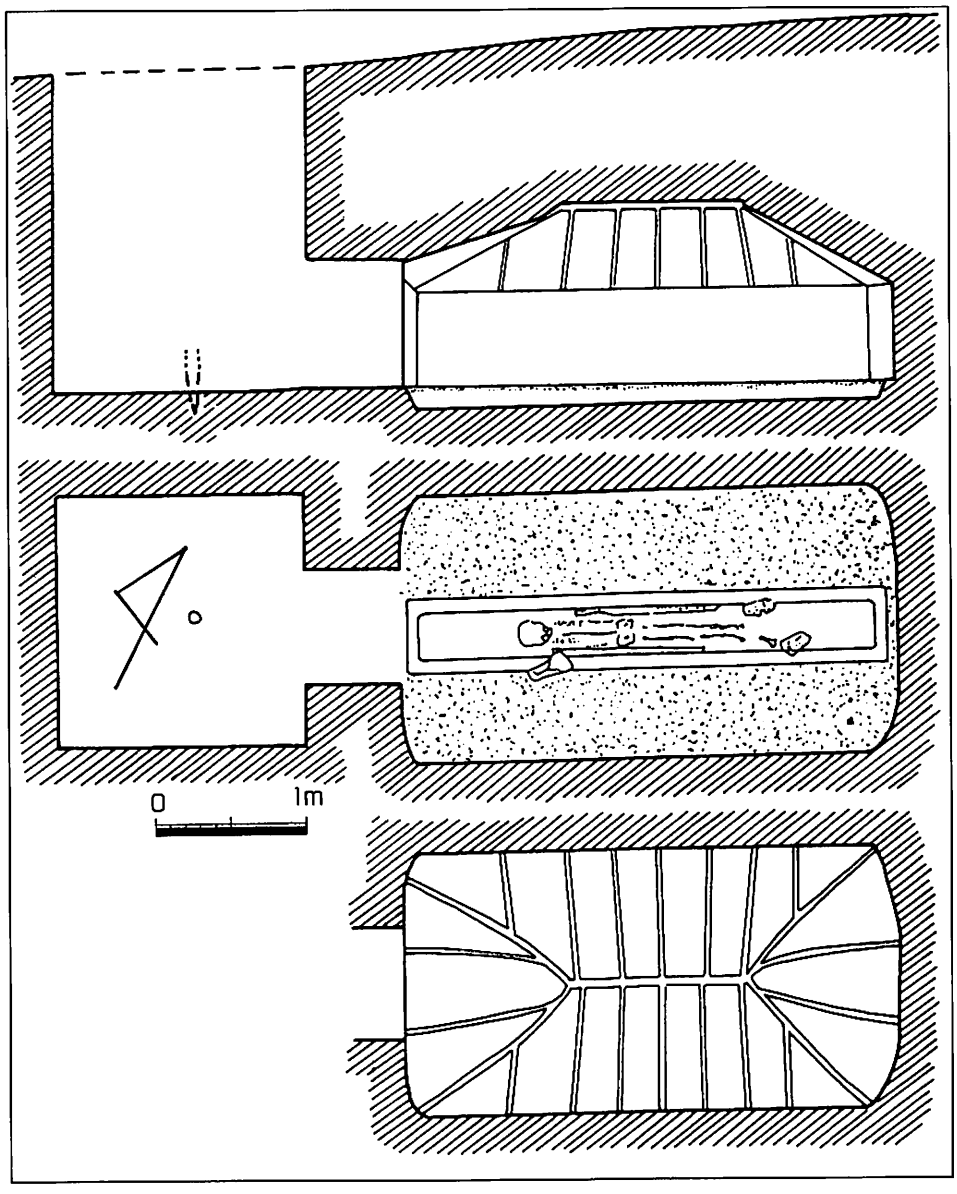
市の瀬9号
地下式横穴墓実測図

所在地	東諸県郡国富町大字深年字市の瀬	文　様	棟木を表現
構　造	正方形プラン、切妻形天井、妻入り型	時　期	5世紀末から6世紀前半
施文方法	浮彫り	備　考	床及び壁面に偏平な河原石を配置

5　大坪（おおつぼ）1号地下式横穴墓



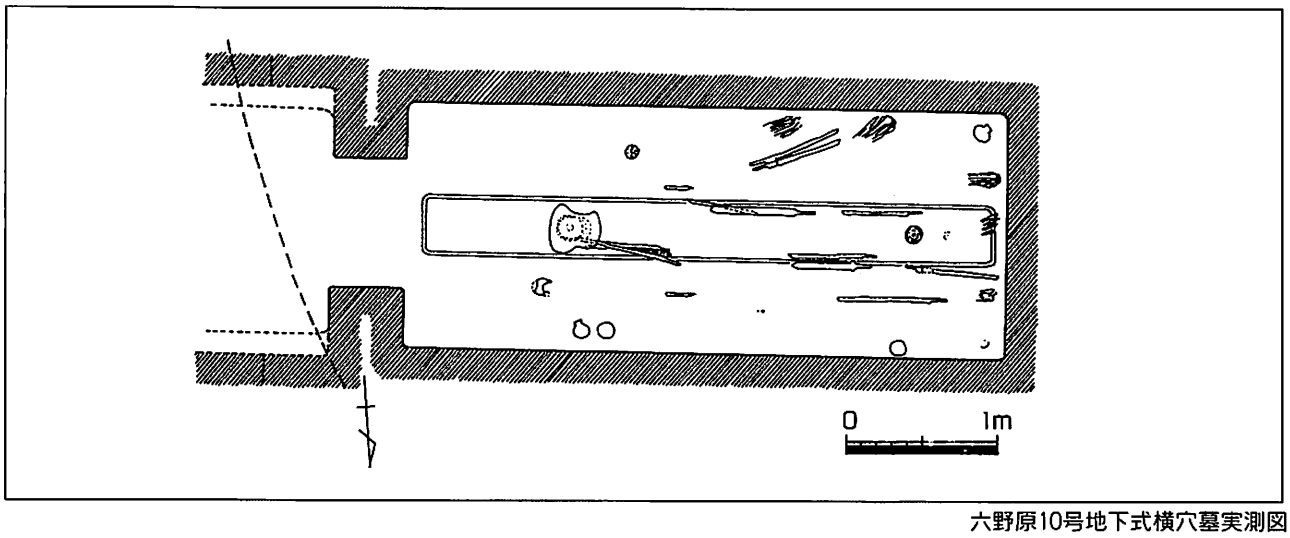
所在地　諸県郡国富町
大字八代南俣
字大坪
構　造　長方形プラン
寄棟形天井
妻入り型
施文方法　線刻
文　様　屋根を表現
時　期　5世紀後半から
6世紀前半



6　六野原（むつのばる）2号
地下式横穴墓

所在地　東諸県郡国富町
三名字六野原
構　造　長方形プラン
寄棟形天井
妻入り型
施文方法　線刻
文　様　屋根を表現
時　期　5世紀後半
備　考　屍床あり

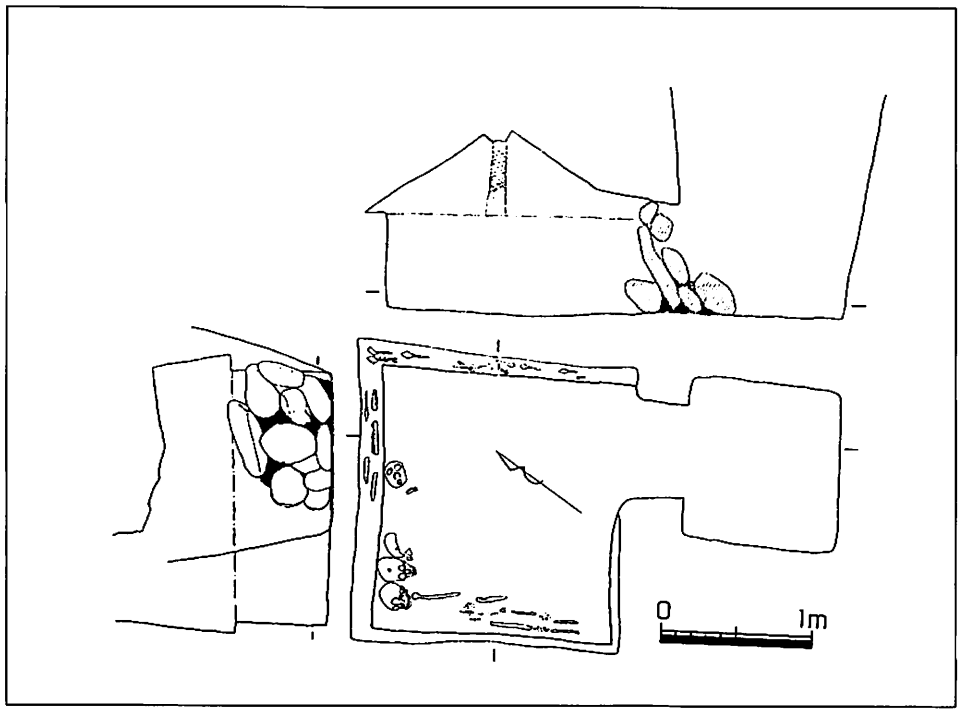
7　六野原１０号地下式横穴墓



六野原10号地下式横穴墓実測図

所 在 地　東諸県郡国富町大字三名字六野原
構　　造　長方形プラン、寄棟形天井、妻入り型
施文方法　浮彫り
文　　様　棟木を表現
時　　期　５世紀後半
備　　考　墳丘、屍床あり

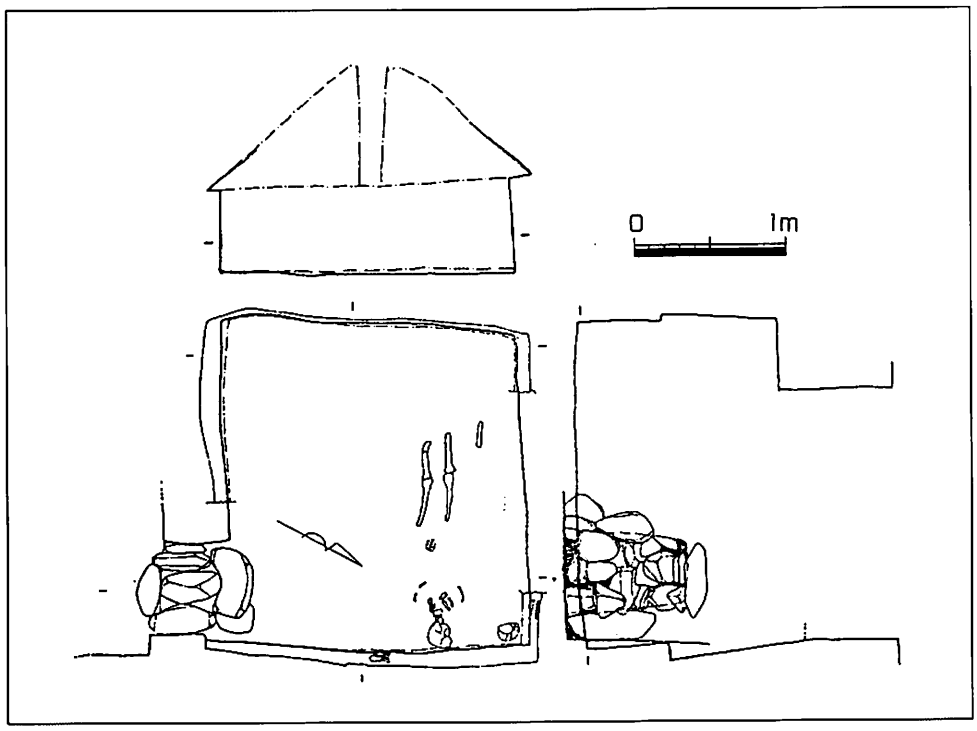
8　大萩（おおはぎ）８（Ｂ－７）号地下式横穴墓



大萩８（Ｂ－７）号地下式横穴墓実測図

所 在 地　西諸県郡野尻町大字三ヶ野山字大萩
構　　造　正方形プラン、切妻形天井、平入り型
施文方法　浮彫り
文　　様　束柱、棟木を表現
時　　期　５世紀後半から６世紀前半

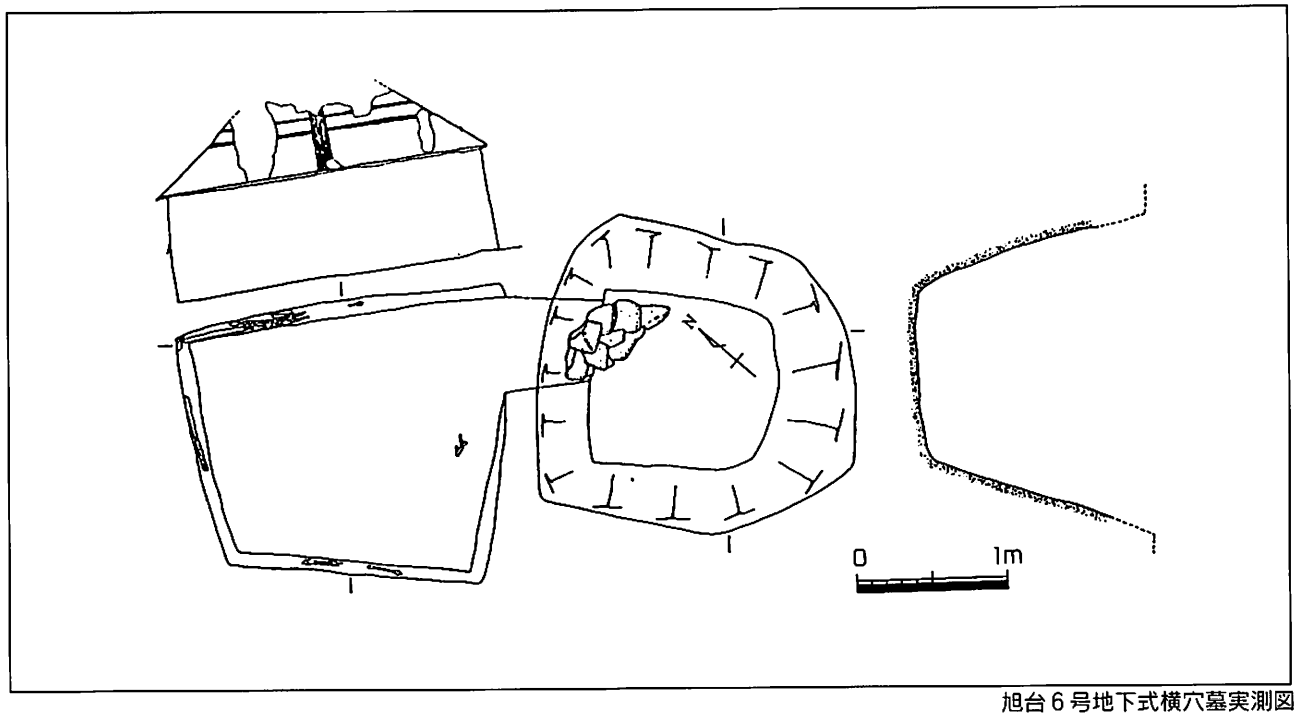
9　大萩10（B－10）号地下式横穴墓



大萩10（B－10）号地下式横穴墓実測図

所 在 地　西諸県郡野尻町大字三ヶ野山字大萩
構　　造　正方形プラン、切妻形天井、平入り型
施文方法　浮彫り
文　　様　束柱を表現
時　　期　5世紀後半から6世紀前半

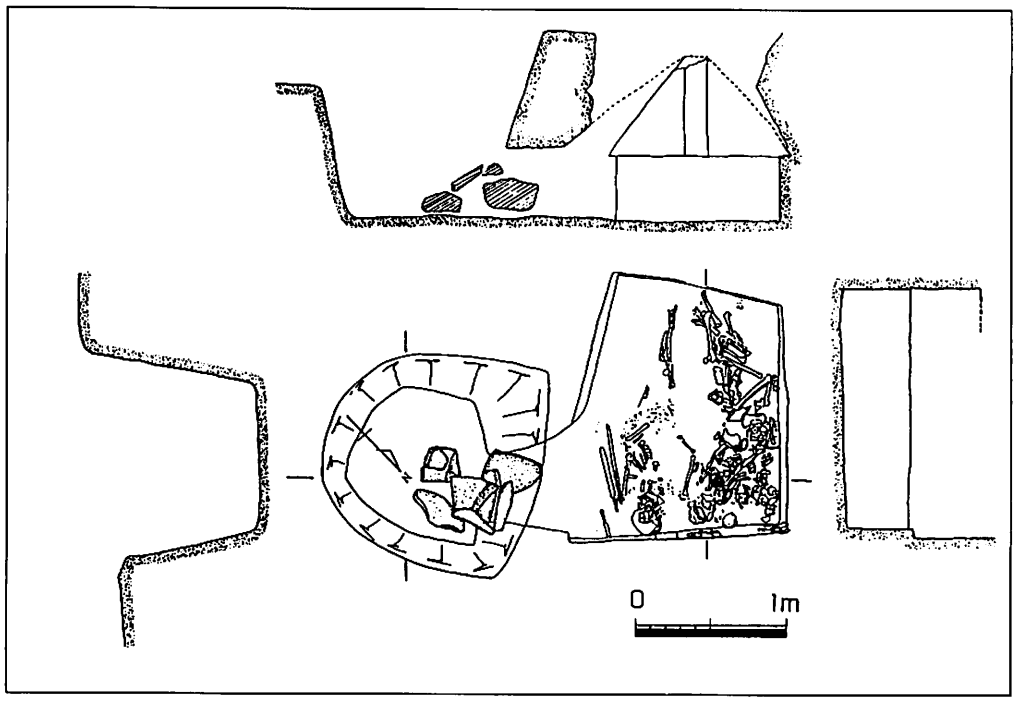
10　旭台（あさひだい）6号地下式横穴墓



旭台6号地下式横穴墓実測図

所 在 地　西諸県郡高原町大字広原字旭台
構　　造　台形プラン、切妻形天井、平入り型
施文方法　線刻、彩色（赤）
文　　様　左右壁に線刻で区画後、赤色顔料で束柱及び横木を表現
時　　期　5世紀後半から6世紀前半

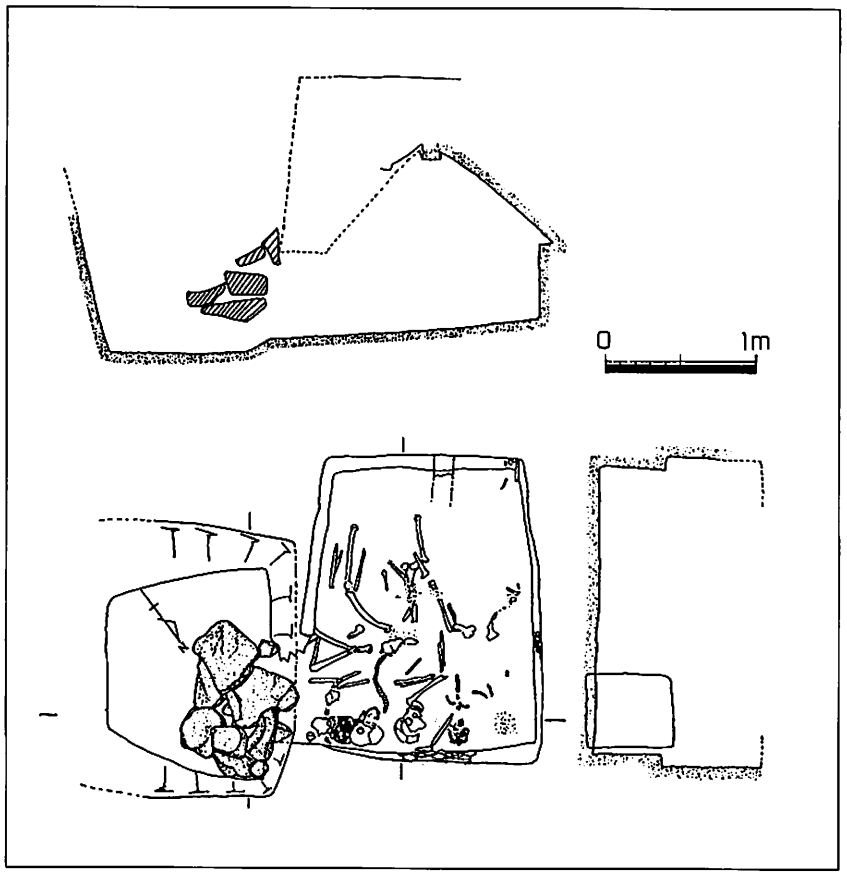
11　旭台９号地下式横穴墓



旭台９号地下式横穴墓
実測図

所 在 地　西諸県郡高原町大字広原字旭台
構　　造　台形プラン、切妻形天井、平入り型
施文方法　浮彫り
文　　様　束柱を表現
時　　期　５世紀後半から６世紀前半

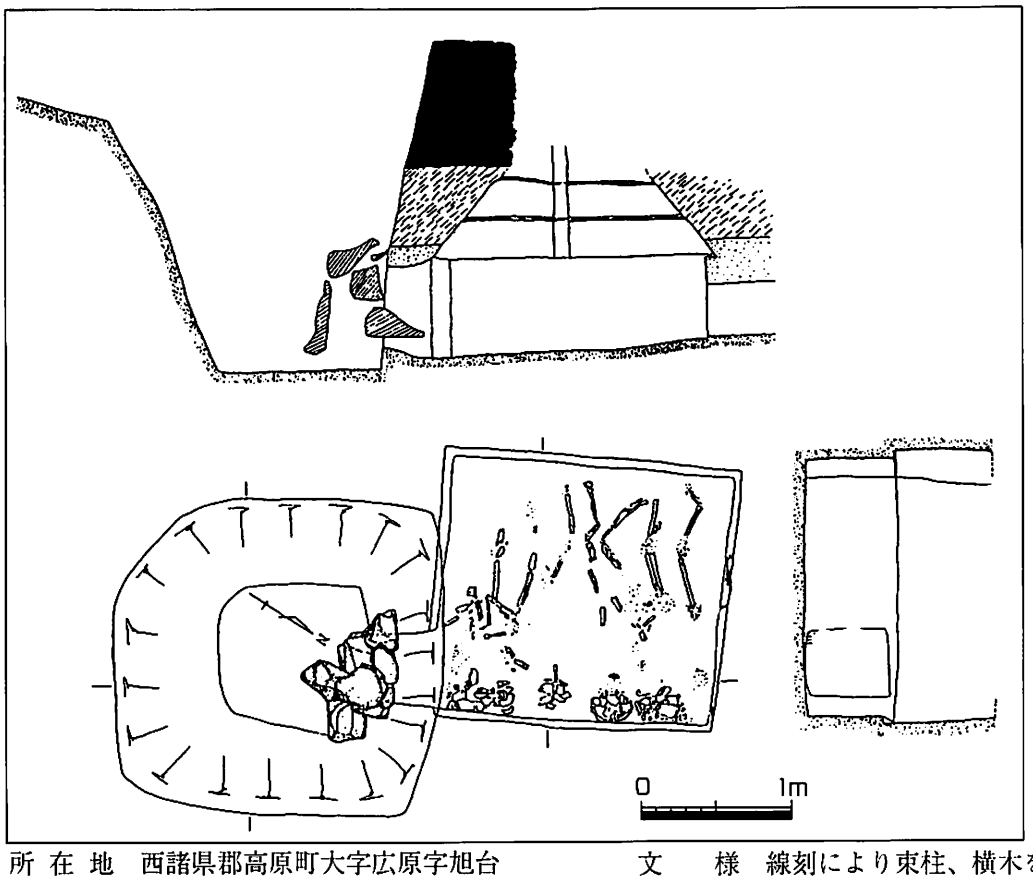
12　旭台12号地下式横穴墓



所 在 地　西諸県郡高原町大字広原字旭台
構　　造　長方形プラン、切妻形天井、平入り型
施文方法　浮彫り
文　　様　棟木を表現
時　　期５世紀後半から６世紀前半

旭台12号地下式横穴墓実測図

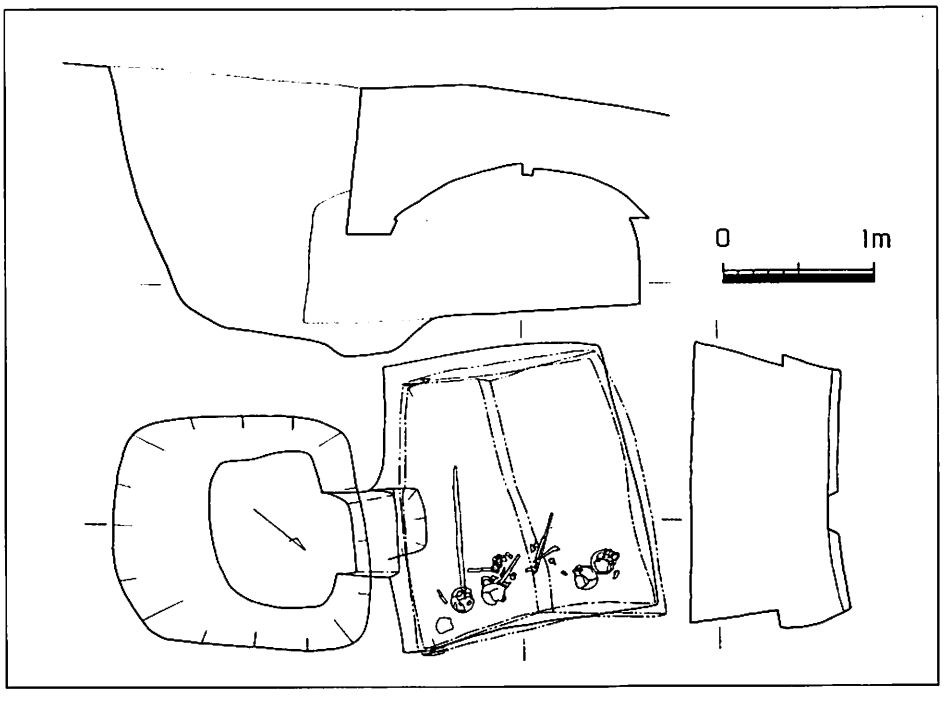
13　旭台12号地下式横穴墓



旭台12号地下式
横穴墓実測図

所 在 地　西諸県郡高原町大字広原字旭台
構　　造　長方形プラン、切妻形天井、平入り型
施文方法　線刻、彩色（赤）
文　　様　線刻により束柱、横木を表現
　　横木部分は彩色
時　　期　5世紀後半から6世紀前半

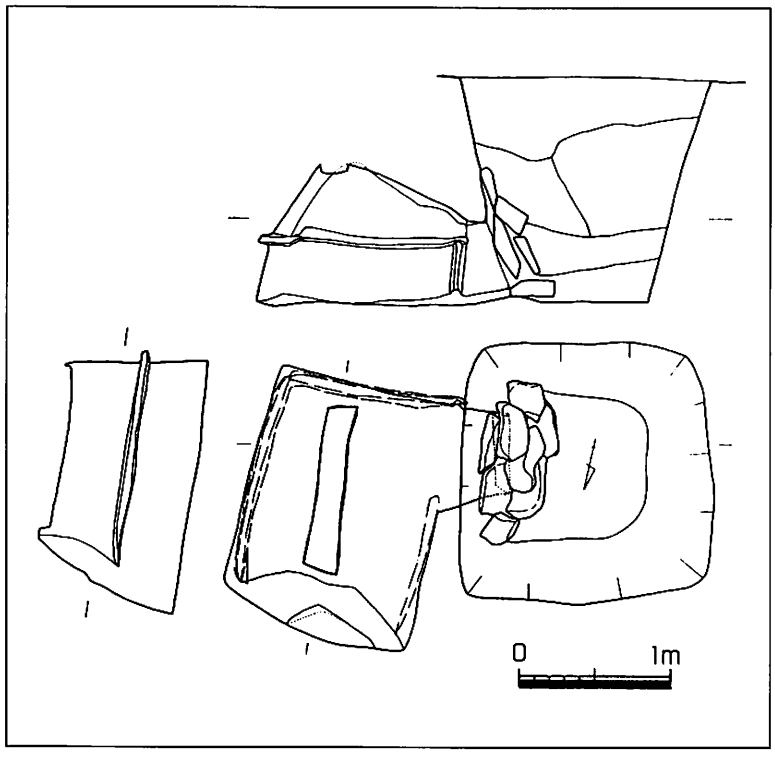
14　立切（たちぎり）38号地下式横穴墓



所 在 地　西諸県郡高原町
　　大字後川内字立切
構　　造　台形プラン
　　切妻形天井
　　平入り型
施文方法　浮彫り
文　　様　棟木を表現
時　　期　5世紀後半から
　　6世紀前半

立切38号地下式横穴墓実測図

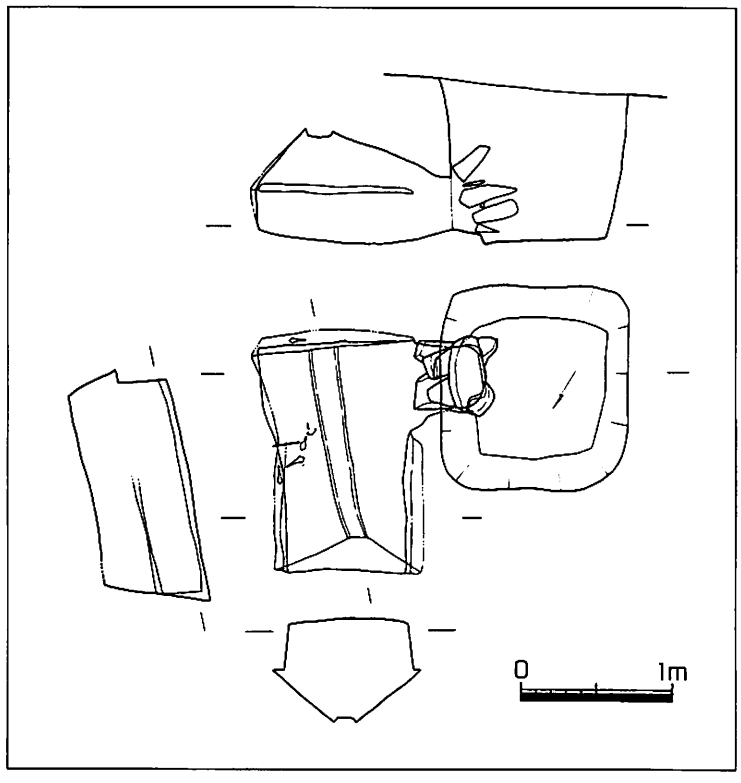
15　立切51号地下式横穴墓



所 在 地　西諸県郡高原町大字後川内字立切
構　　造　長方形プラン、寄棟形天井
　　平入り型
施文方法　浮彫り
文　　様　棟木を表現
時　　期　５世紀後半から６世紀前半

立切51号地下式横穴墓実測図

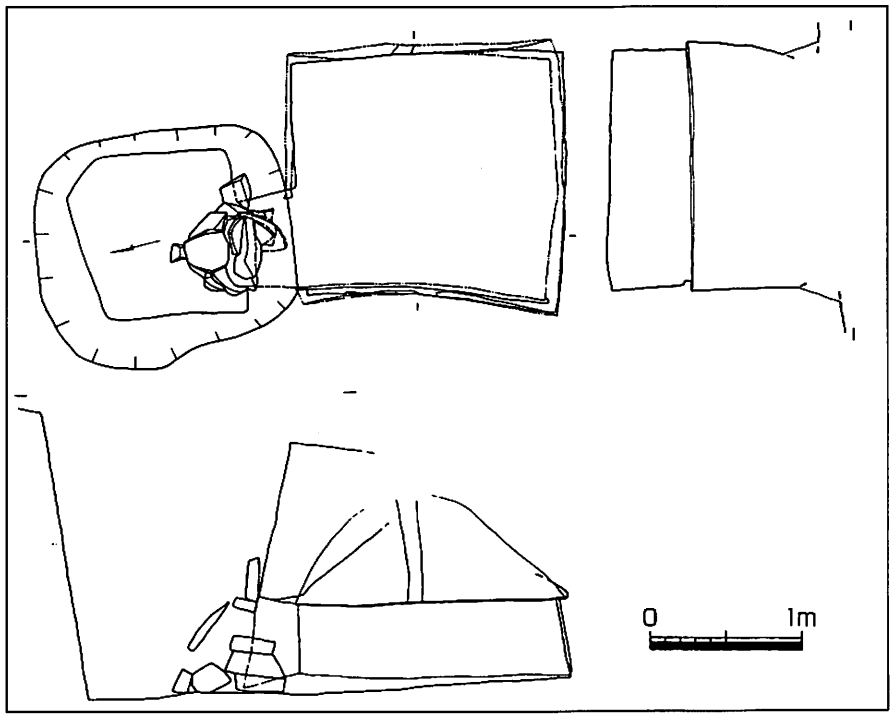
16　立切58号地下式横穴墓



所 在 地　西諸県郡高原町大字後川内字立切
構　　造　長方形プラン、寄棟形天井、
　　平入り型
施文方法　浮彫り
文　　様　棟木を表現
時　　期　５世紀後半から６世紀前半

立切58号地下式横穴墓実測図

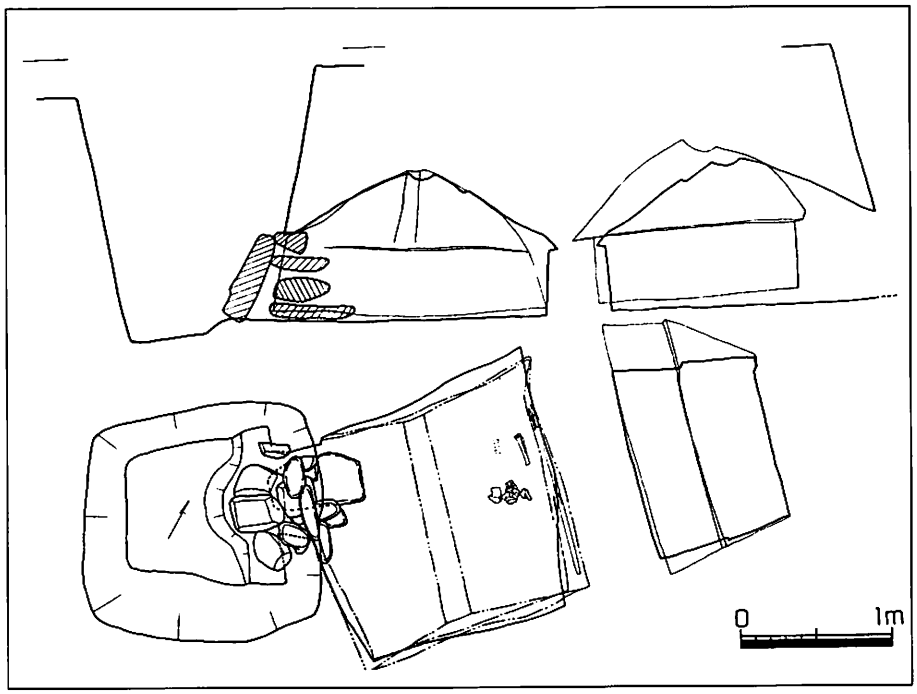
17　立切59号地下式横穴墓



所 在 地　西諸県郡高原町大字後川内字立切
構　　造　長方形プラン、切妻形天井、平入り型
施文方法　浮彫り
文　　様　束柱を表現
時　　期　5世紀後半から6世紀前半

立切59号地下式横穴墓実測図

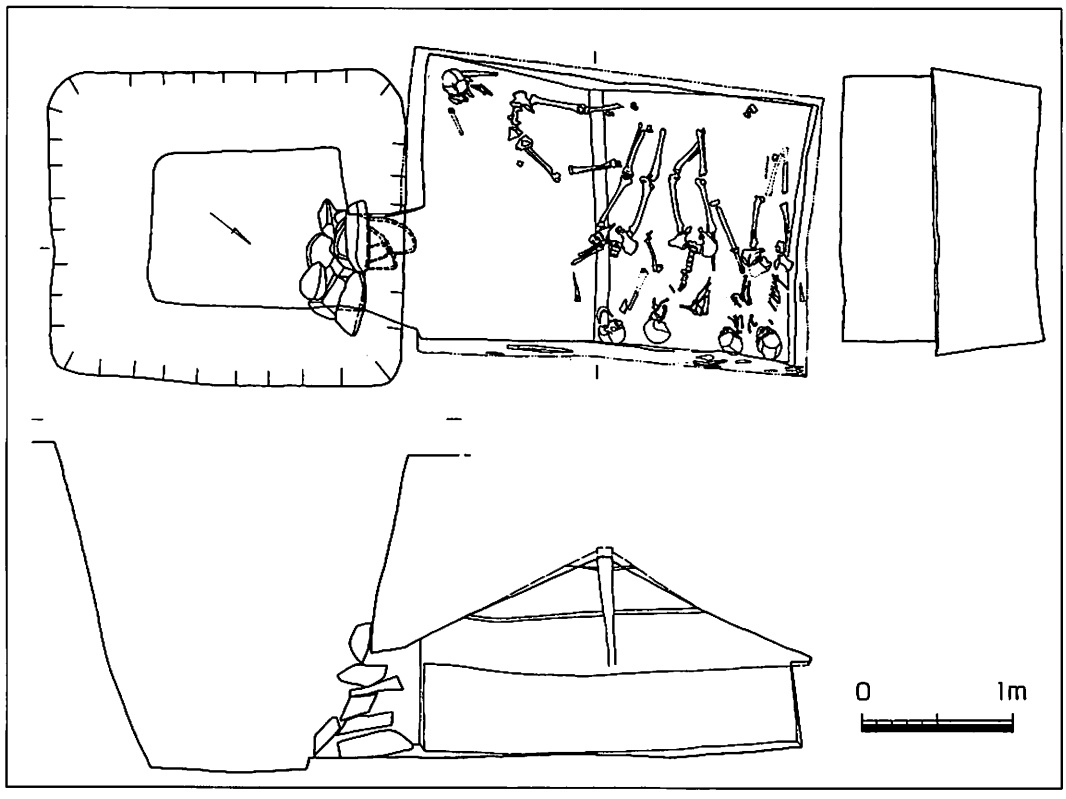
18　立切61号地下式横穴墓



所 在 地　西諸県郡高原町大字後川内字立切
構　　造　台形プラン、切妻形天井、平入り型
施文方法　浮彫り
文　　様　束柱を表現
時　　期　5世紀後半から6世紀前半

立切61号地下式横穴墓実測図

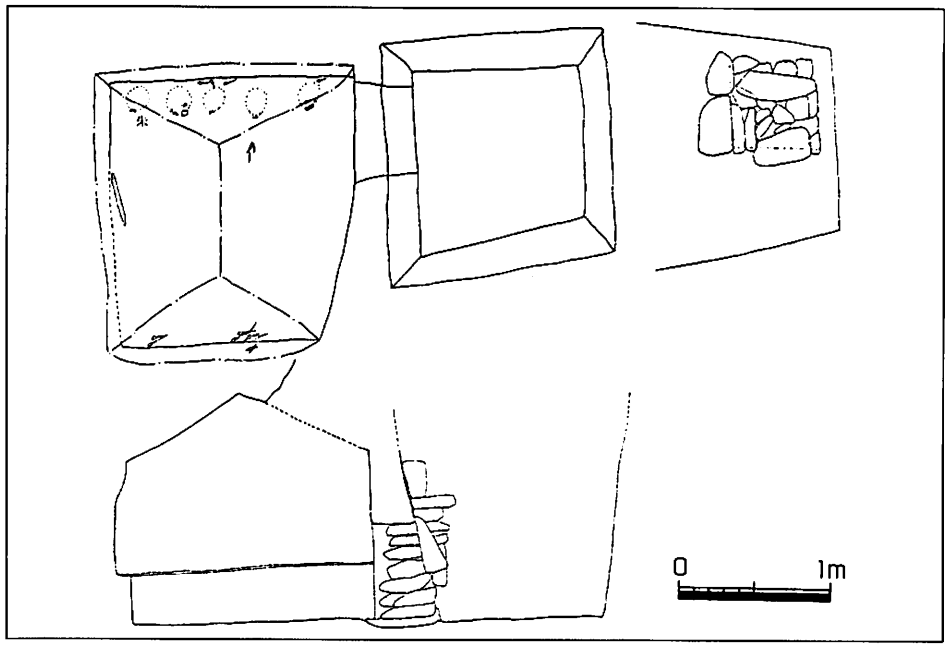
19　立切63号地下式横穴墓



立切63号地下式
横穴墓実測図

所 在 地　西諸県郡高原町大字後川内字立切
構　　造　長方形プラン、切妻形天井、平入り型
施文方法　線刻
文　　様　棟木、束柱、横木を表現
時　　期　５世紀後半から６世紀前半

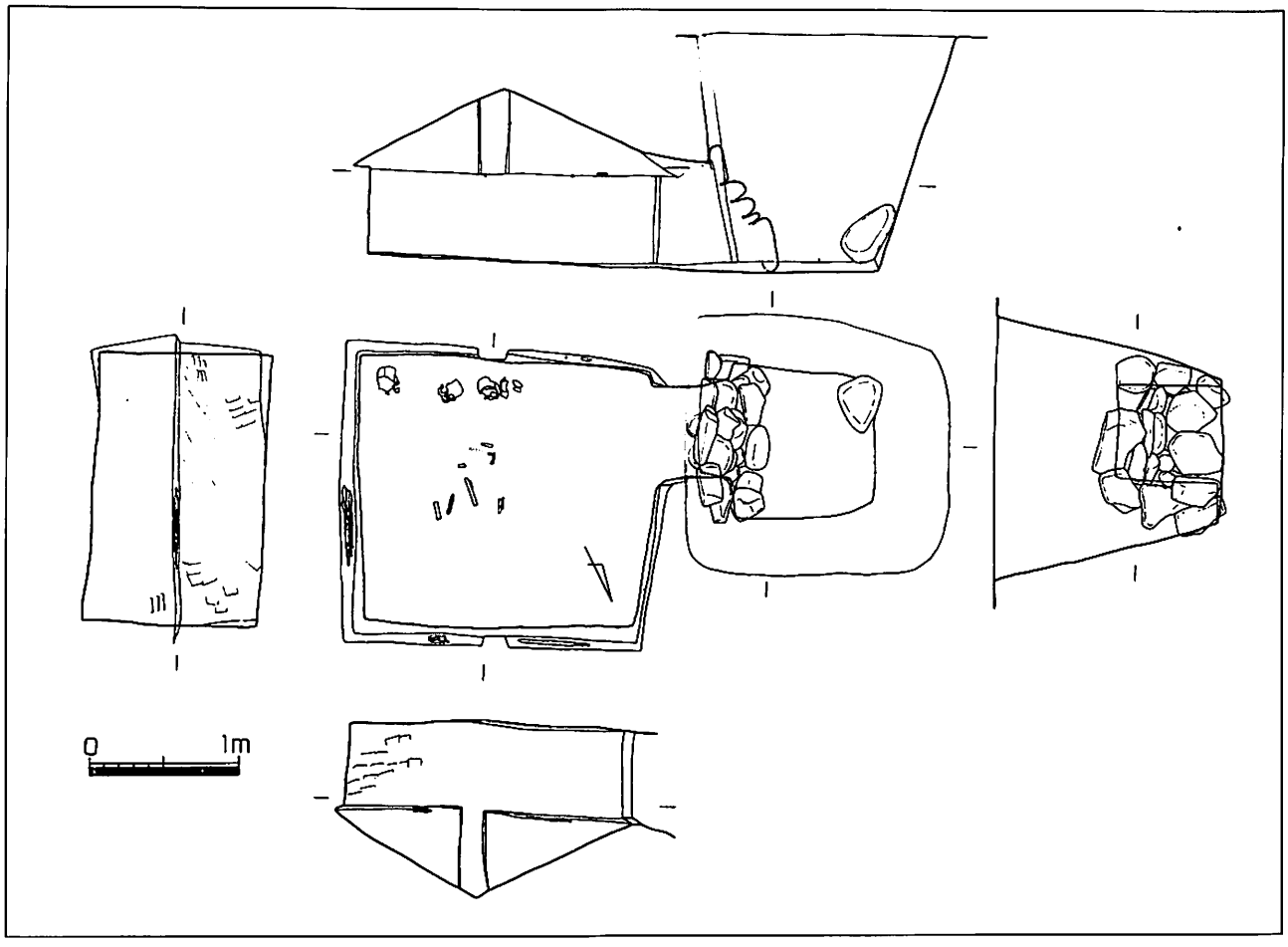
20　仮屋尾（かりやお）３号地下式横穴墓



所 在 地　北諸県郡高崎町
　　大字前田字仮屋尾
構　　造　台形プラン
　　寄棟形天井
　　平入り型
施文方法　彩色（赤）
文　　様　白色粘土を塗った
　　上に彩色線文
時　　期　５世紀後半から
　　６世紀初め
備　　考　床面、壁面に白色
　　粘土を散布及び塗布

仮屋尾３号地下式横穴墓実測図

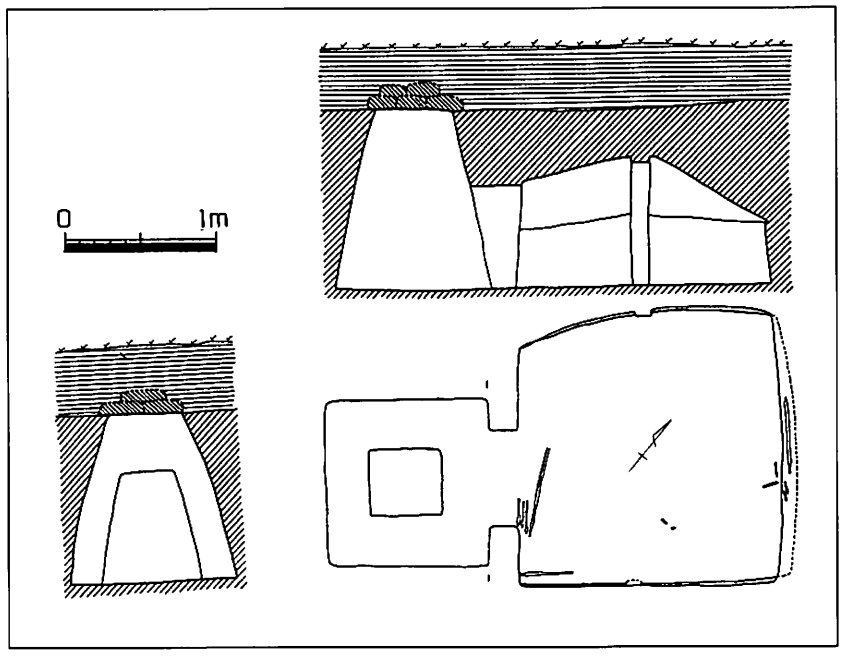
21　下の平（しもひら）２号地下式横穴墓



尾中原地下式横穴墓実測図

所 在 地　小林市大字水流迫字下の平
構　　造　長方形プラン、切妻形天井、平入り型
施文方法　浮彫り
文　　様　束柱を表現
時　　期　５世紀後半から６世紀前半

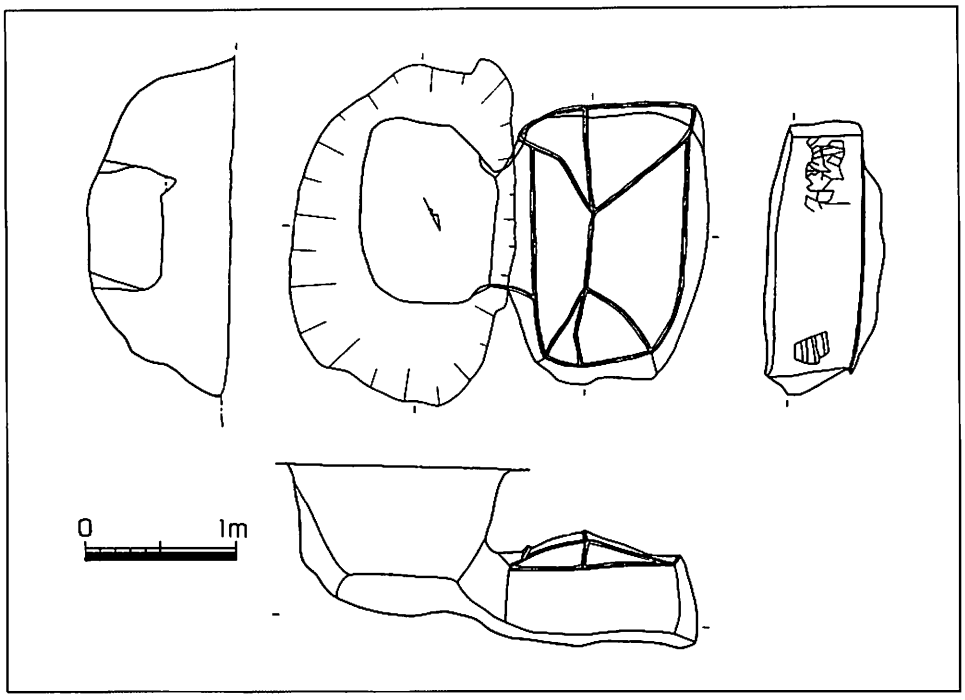
22　尾中原（おなかばる）地下式横穴墓



所 在 地　小林市大字北西方字石塚尾中原
構　　造　正方形プラン、切妻形天井
　　平入り型
施文方法　浮き彫り
文　　様　束柱を表現
時　　期　６世紀前半
備　　考　竪坑上部閉塞

尾中原地下式横穴墓実測図

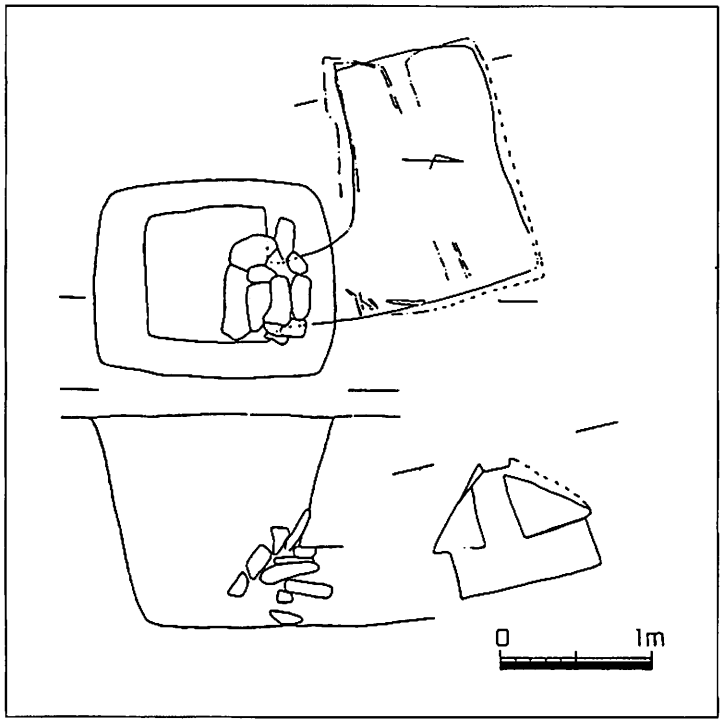
23 東二原14号地下式横穴墓



所 在 地　小林市大字真方字東二原
構　　造　楕円形プラン
　　寄棟形天井
　　平入り型
施文方法　線刻
文　　様　屋根を表現
時　　期　５世紀後半から６世紀前半

東二原14号地下式横穴墓実測図

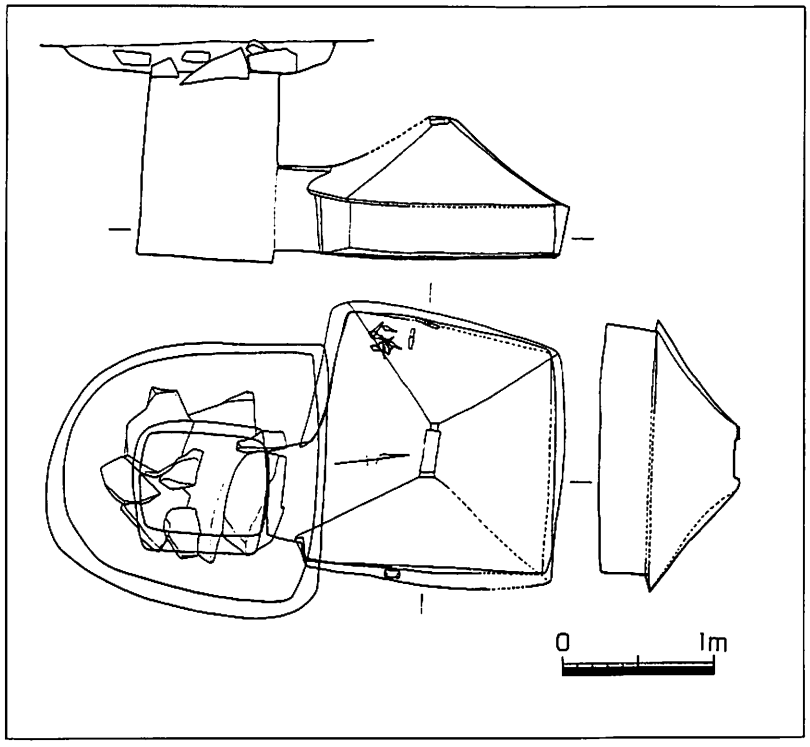
24 新田場５（62－3）号地下式横穴墓



所 在 地　小林市大字真方字新田場
構　　造　長方形プラン、切妻形天井、平入り型
施文方法　浮彫り
文　　様　束柱、棟木を表現
時　　期　５世紀後半から６世紀前半

新田場５（62－３）号地下式横穴墓実測図

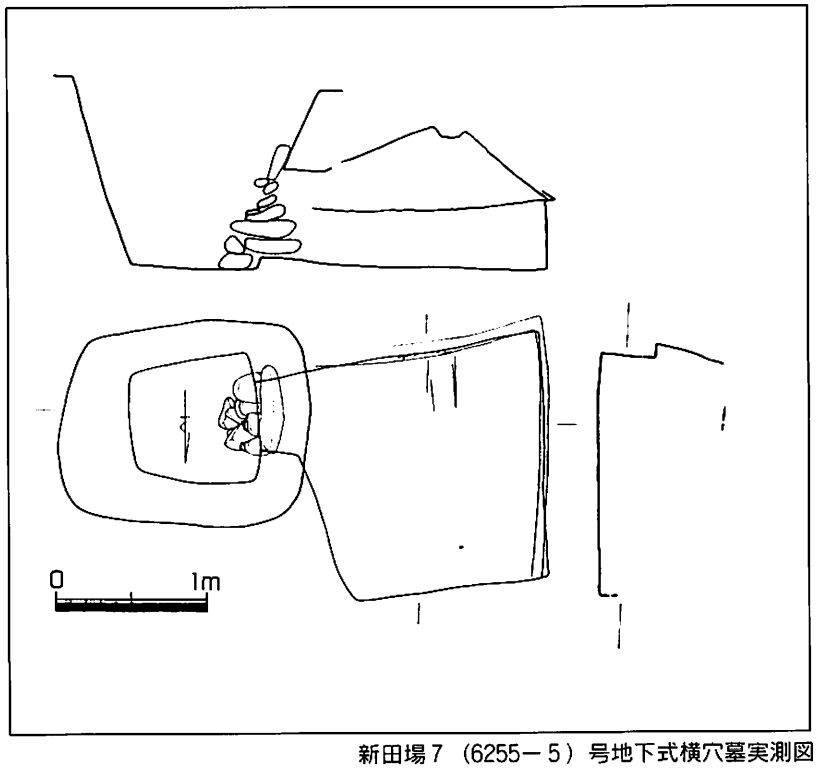
25　新田場６（62－4）号地下式横穴墓



新田場６（62－４）号地下式横穴墓実測図

所 在 地　小林市大字真方字新田場
構　　造　正方形プラン、寄棟形天井
　　平入り型
施文方法　浮彫り
文　　様　棟木を表現
時　　期　５世紀後半から６世紀前半
備　　考　竪坑上部閉塞

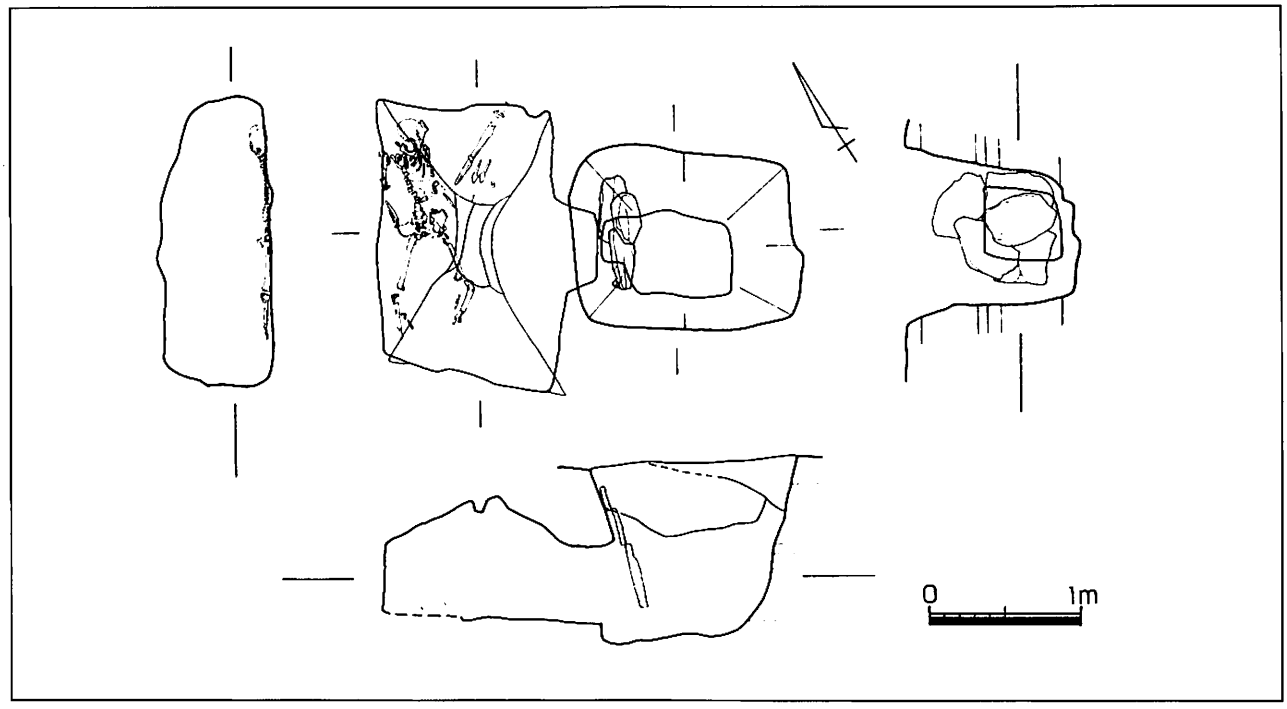
26　新田場７（62－5）号地下式横穴墓



新田場７（6255－５）号地下式横穴墓実測図

所 在 地　小林市大字真方字新田場
構　　造　台形プラン、切妻形天井
　　平入り型
施　　文　方法浮彫り
文　　様　棟木を表現
時　　期　５世紀後半から６世紀前半

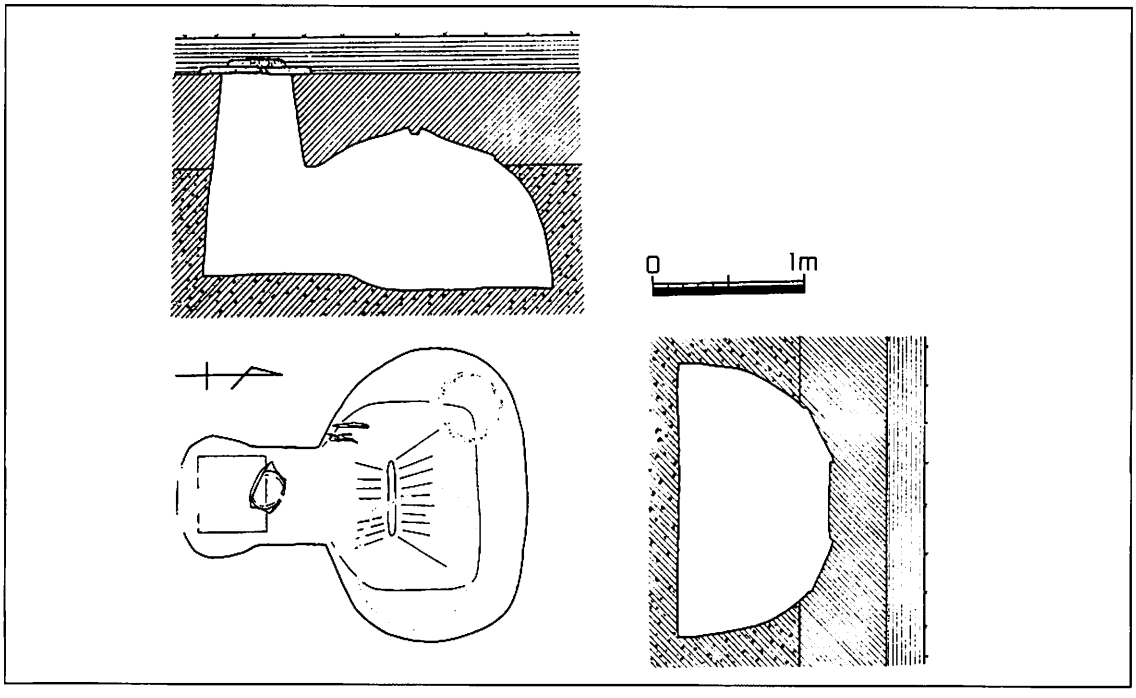
27　苧畑（おばたけ）6号地下式横穴墓



苧畑6号地下式横穴墓実測図

所 在 地　えびの市大字坂元字柚木ノ元、二本杉、二八山の上
構　　造　長方形プラン、寄棟形天井、平入り型
施文方法　浮彫り
文　　様　棟木を表現
時　　期　5世紀後半
所 在 地　えびの市大字島内字杉ノ原

28　島内（しまうち）3号地下式横穴墓

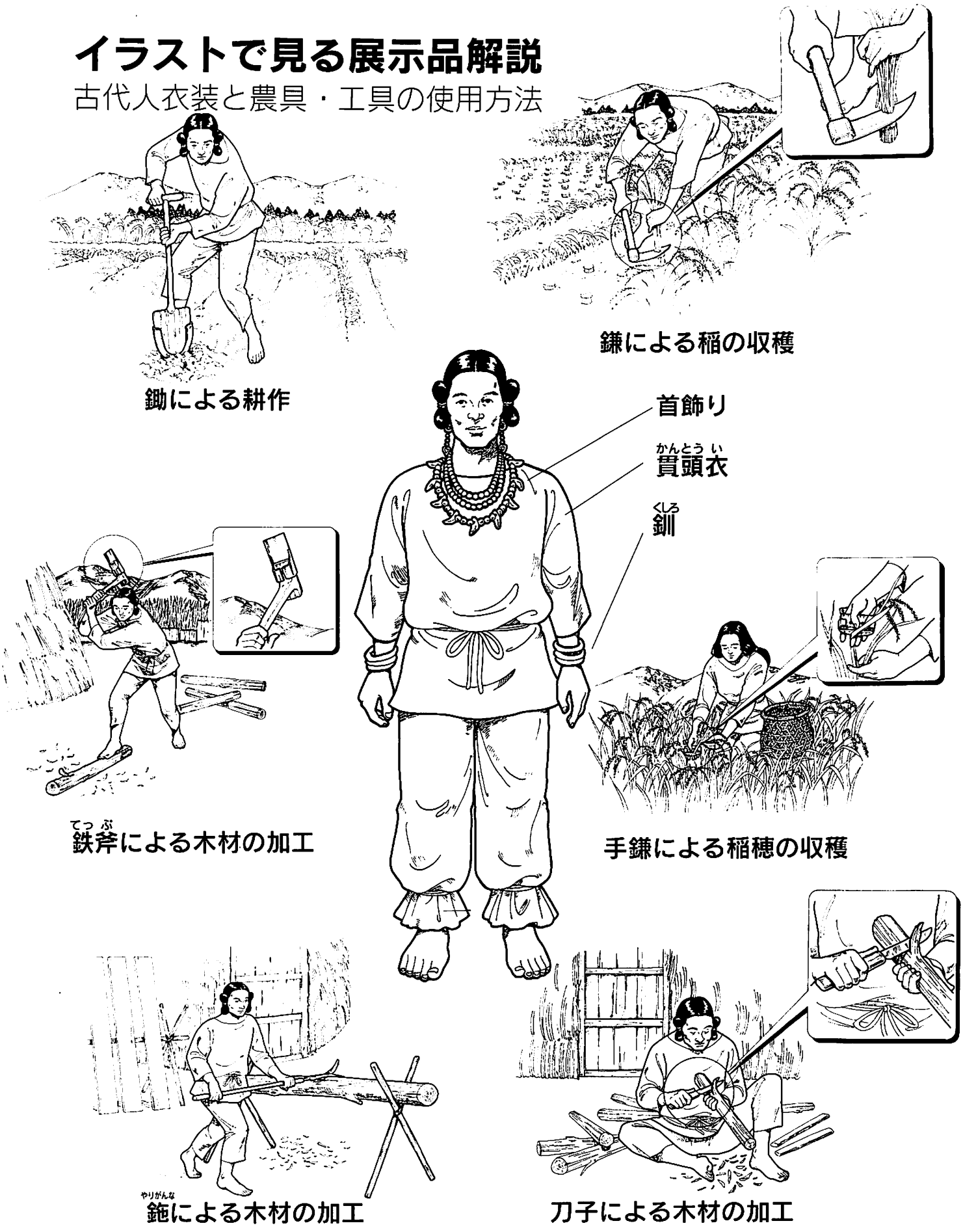


島内3号地下式横穴墓実測図

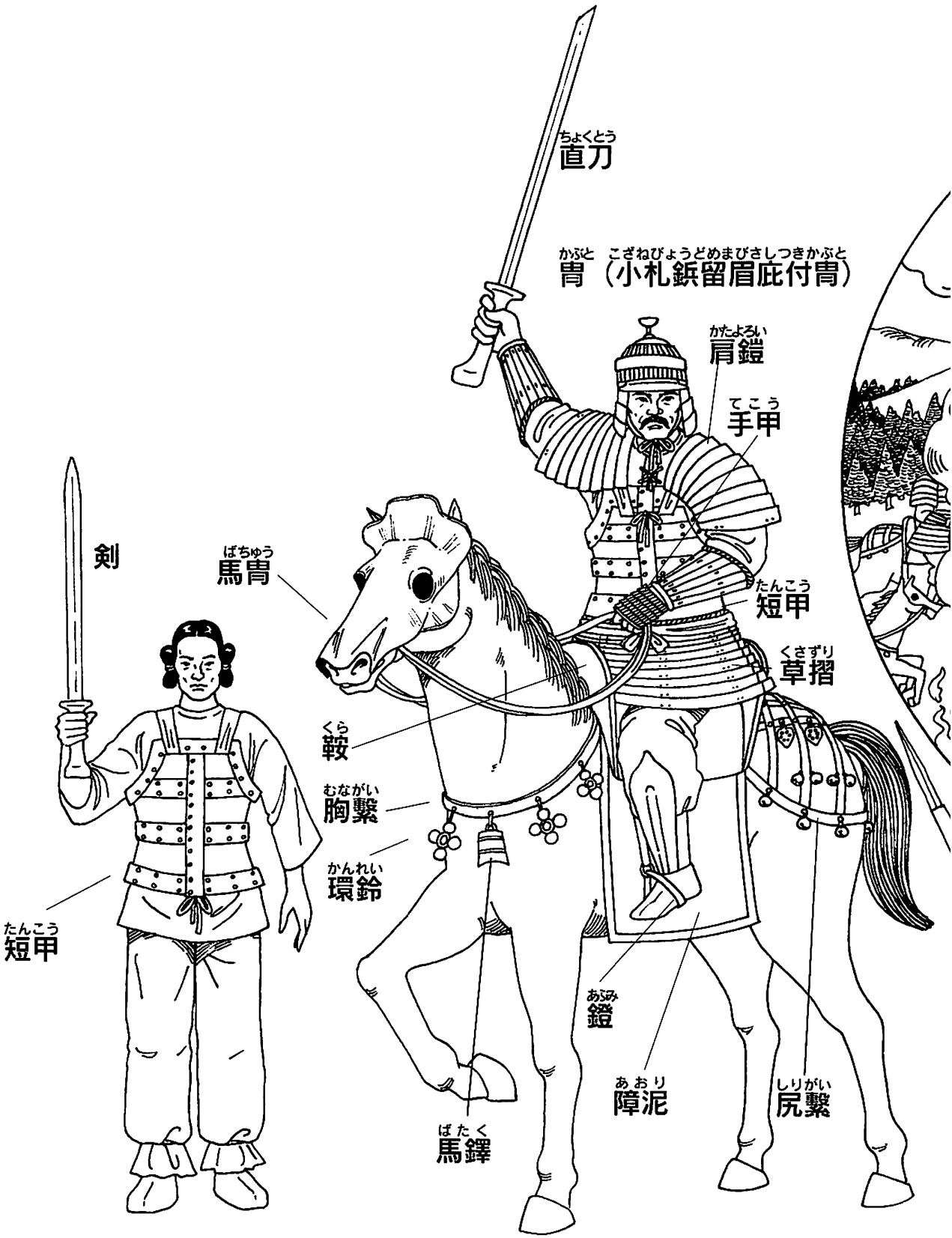
構　　造　楕円形プラン、寄棟形天井、平入り型
施文方法　浮彫り、線刻
文　　様　棟木を浮彫りで表現、屋根を線刻で表現
時　　期　5世紀後半
備　　考　竪坑上部閉塞

イラストで見る展示品解説

古代人衣装と農具・工具の使用方法



武器と武具



鉾
弓
靫
直刀
短甲（横矧板鋲留短甲）
盾

出品・資料提供一覧

1 旭台7号地下式横穴墓

剣	1点	宮崎県総合博物館
刀子	1点	〃
鉄鏃	8点	〃
彩色画撮影写真	2点	宮崎市教育委員会

2 旭台地下式横穴墓

頭骨レプリカ	1点	宮崎県総合博物館
復顔模型	1点	〃

3 大萩14号地下式横穴墓

研磨刀	2点	宮崎県総合博物館
研磨剣	1点	〃

4 大萩36号地下式横穴墓

直刀	1点	宮崎県総合博物館
剣	1点	〃
鉄鏃	12点	〃
鎌	1点	〃
鋤先	1点	〃
斧	1点	〃
刀子	1点	〃
鋲飾弓残片	1点	〃
朱玉	5点	〃

5 大萩37号地下式横穴墓

剣	1点	宮崎県総合博物館
鋤先	1点	〃
鉄鏃	4点	〃

6 立切54号地下式横穴墓

剣	2点	高原町教育委員会
鉄鏃	4点	〃
ヤリガンナ	2点	〃
刀子	1点	〃
彩色画撮影写真	4点	〃

7 立切60号地下式横穴墓

鉄鏃	4点	高原町教育委員会
刀子	1点	〃
浮彫り表現撮影写真	1点	〃

8 日守4（54－1）号地下式横穴墓

束柱表現撮影写真	1点	高原町教育委員会

9 美園1号墳

家形埴輪写真	2点	財団法人 大阪府文化財調査 研究センター

10 日守9（55－2）号地下式横穴墓

剣	1点	高原町教育委員会
刀子	1点	〃
鋤先	1点	〃
ヤリガンナ	1点	〃

11 市の瀬10号地下式横穴墓

須恵器	15点	国富町教育委員会
土師器	5点	〃
剣	1点	〃
直刀	1点	〃
鉄鏃	7点	〃
刀子	1点	〃
針状鉄器	1点	〃
毛抜き状鉄器	1点	〃
ヤリガンナ	1点	〃
遺物出土状況写真	1点	〃

12 下北方5号地下式横穴墓

変形紋鏡	1点	宮崎市教育委員会
変形獣形鏡	1点	〃
環鈴	1点	〃
馬鐸	1点	〃
金製垂飾付耳飾り	1点	〃
水晶製勾玉	2点	〃
メノウ製管玉	2点	〃
ガラス製管玉	1点	〃
ガラス製変形半円玉	6点	〃
ガラス製丸玉（大）	55点	〃
硬玉製丁字頭勾玉	2点	〃
碧玉製管玉	23点	〃
碧玉製勾玉	5点	〃
ガラス製丸玉（小）	540点	〃
玄室撮影写真	1点	〃
ビデオソフト	2点	〃

13 六野原10号地下式横穴墓

小札鋲留眉庇付冑	1点	宮崎県総合博物館
横矧板鋲留短甲	1点	〃
獣形鏡	1点	〃
十字形轡	1点	〃
土師器	2点	〃

14 小木原3号地下式横穴墓

横矧板鋲留短甲	1点	宮崎県総合博物館
馬鐸	1点	〃
轡鏡板	1点	〃
轡鏡板レプリカ	1点	〃
剣	2点	〃
直刀	1点	〃
鉾	1点	〃

15 上ノ原9号地下式横穴墓

刀子	1点	宮崎県総合博物館
鉄鏃	3点	〃
滑石製臼玉	1連	〃
剣	2点	〃
人骨出土状況写真	1点	土井ヶ浜遺跡・ 人類学ミュージアム
1号人骨頭部写真	1点	〃
2号人骨頭部写真	1点	〃

16 立切３５号地下式横穴墓
人骨出土状況写真　１点　土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

17 広原１号横穴墓
線刻画撮影写真　６点　宮崎市教育委員会

18 広原３号横穴墓
線刻画撮影写真　４点　宮崎市教育委員会

19 蓮ヶ池３３号横穴墓
線刻画撮影写真　１点　宮崎市教育委員会

20 土器田東１号横穴墓
須恵器　１３点　佐土原町教育委員会
刀子　３点　〃
鉄鏃　４点　〃
鎌　１点　〃
玄室撮影写真　１点　九州歴史資料館
線刻画撮影写真　１点　〃

21 上江県指定１５号横穴墓
線刻画撮影写真　１点　西都市教育委員会
遺構実測図　１点　〃

22 杉尾１号横穴墓
線刻撮影写真　１点　西都市教育委員会
遺構実測図　１点　〃

23 串木２号横穴墓
天井部浮彫り撮影写真　１点　西都市教育委員会
遺構実測図　１点　〃

24 串木４号横穴墓
天井部浮彫り撮影写真　１点　西都市教育委員会
遺構実測図　１点　〃

25 千畑１号横穴墓
玄室撮影写真　１点　日高正晴
遺構実測図　１点　西都市教育委員会

26 新田場５（６２－３）号地下式横穴墓
遺構実測図　１点　小林市教育委員会

27 小木原遺跡群蕨地区横口式土壙墓（ＳＤ－６２）
遺構撮影写真　１点　えびの市教育委員会

28 弁慶ヶ穴古墳
彩色画撮影写真　１点　山鹿市立博物館

主な参考文献一覧

研究・一般図書

1　石川恒太郎ほか　「資料編考古Ⅰ・Ⅱ」『宮崎県史』宮崎県　１９８９・１９９３
2　日高正晴　「古代日向の国」日本放送出版協会　１９９３
3　鈴木重治　「日本の古代遺跡２５・宮崎」保育社　１９８５
4　河口貞徳　「日本の古代遺跡３８・鹿児島」保育社　１９８８
5　北郷泰道　「熊襲・隼人の原像」吉川弘文館　１９９４
6　宮崎考古学会・鹿児島県考古学会「地下式横穴墓から見た古墳時代」　１９８６
7　宮崎考古学会・県南地区例会実行委員会「宮崎県南部における古墳の展開と内陸部墓制の動態」　１９９５
8　岩永哲夫ほか「特集・地下式横穴墓」『月刊考古学ジャーナル　３８０』ニュー・サイエンス社１９９４
9　日高正晴　「日向における装飾墳墓について」『宮崎県史研究　第４号』宮崎県　１９９０
10　北郷泰道　「南境の民の墓制」『えとのす　３１』
11　下條信之・平野博之「新版古代の日本　３　九州・沖縄」角川書店　１９９１
12　松下孝幸・内藤香篤「弥生人　地域差」『弥生文化の研究　１』雄山閣　１９８９
13　北郷泰道　「九州　南部（宮崎・鹿児島）」『古墳時代の研究　１０』雄山閣　１９９０
14　長津宗重　「日向の横穴墓」『おおいた考古　第４集』大分県考古学会　１９９１
15　池上悟「横穴墓」『考古学ライブラリー　６』ニュー・サイエス社　１９８０
16　白石太一郎　「根の国と海上他界」『本郷』吉川弘文館　１９９５
17　田中茂「えびの市小木原地下式横穴３号出土品について－地下式横穴と墳丘－」『宮崎県総合博物館研究紀要　２』１９７４
18　日高正晴「日向における千畑横穴墓とその考察」『西都原古墳研究所・年報　第３号』西都市教育委員会　１９８６

発掘調査報告書

1　日高正晴ほか「土器田横穴古墳」『佐土原町文化財調査報告書第１集』佐土原町教育委員会　１９８１
2　野間重孝「広原横穴群」『宮崎市文化財調査報告書第５集』宮崎市教育委員会　１９７９
3　石川恒太郎・田中茂ほか「蓮ヶ池横穴群調査報告書」宮崎県教育委員会　１９７１
4　石川恒太郎・田中茂ほか「下北方地下式横穴第５号」『宮崎市文化財調査報告書第３集』宮崎市教育委員会　１９７７
5　長津宗重「国富町遺跡詳細分布調査報告書」『国富町文化財調査資料第３集』国富町教育委員会１９８４
6　瀬之口伝九郎ほか「六野原古墳調査報告」『史跡名勝天然記念物調査報告第１３輯』宮崎県１９４４
7　石川恒太郎「国富町大坪地下式古墳調査報告」『宮崎県文化財調査報告書第１５集』宮崎県教育委員会　１９７０
8　菅村和樹・岩永哲夫ほか「市の瀬地下式横穴群」『国富町文化財調査資料第４集』国富町教育委員会　１９８６
9　茂山護「大萩地下式横穴３６号発掘調査」『宮崎県文化財調査報告書第２２集』宮崎県教育委員会　１９８０
10　北郷泰道「大萩地下式横穴墓群」『宮崎県文化財調査報告書第２７集』宮崎県教育委員会１９８４
11　茂山護「大萩地下式横穴３７号発掘調査」『宮崎県文化財調査報告書第２８集』宮崎県教育委員会　１９８５
12　面高哲郎・長津宗重ほか「立切地下式横穴墓群」『高原町文化財調査報告書第１集』高原町教育委員会
13　石川恒太郎「高崎町仮屋尾地下式古墳調査報告」『宮崎県文化財調査報告書第１５集』宮崎県教育委員会　１９７０

14　茂山護・面高哲郎ほか「日守地下式横穴５４－１～４号発掘調査」『宮崎県文化財調査報告書第２２集』宮崎県教育委員会　１９８０
15　岩永哲夫・北郷泰道ほか「日守地下式古墳群５５－１～４号発掘調査」『宮崎県文化財調査報告書第２３集』宮崎県教育委員会　１９８１
16　石川恒太郎・日高正晴ほか「旭台地下式古墳群発掘調査」『宮崎県文化財調査報告書第１９集』宮崎県教育委員会　１９７７
17　北郷泰道「下の平地下式横穴発掘調査」『宮崎県文化財調査報告書第２４集』宮崎県教育委員会　１９８１
18　岩永哲夫「新田場地下式古墳発掘調査」『宮崎県文化財調査報告書第２０集』宮崎県教育
19　委員会　１９８３
20　面高哲郎・長津宗重「新田場地下式横穴墓群発掘調査」『宮崎県文化財調査報告書第３４集』宮崎県教育委員会　１９９１
21　長友郁子「東二原地下式横穴墓群」『小林市文化財調査報告書第２集』小林市教育委員会　１９９０
22　栗原文蔵「小林市尾中原発見の地下式横穴」『宮崎県文化財調査報告書第９輯』宮崎県教育委員会　１９６４
23　岩永哲夫・茂山護「上ノ原地下式古墳群発掘調査」『宮崎県文化財調査報告書第２３集』宮崎県教育委員会　１９８１
24　中野和浩「広畑遺跡」『えびの市埋蔵文化財調査報告書第７集』えびの市教育委員会　１９９１
25　中野和浩「小木原遺跡群・蕨・久見迫・地主原地区」『えびの市埋蔵文化財調査報告書第４集』えびの市教育委員会　１９８９
26　永友良典「小木原遺跡群蕨地区」『えびの市埋蔵文化財調査報告書第６集』えびの市教育委員会　１９９０
27　高木正文「熊本県装飾古墳総合調査報告書」『熊本県文化財調査報告書第６８集』　１９８４

展示図録関係

1　「装飾古墳の世界」国立歴史民俗博物館　１９９３
2　「日向の古墳展－地下式横穴の謎をさぐる－」宮崎県総合博物館　１９７９
3　「南九州の墳墓」鹿児島県歴史資料センター黎明館　１９８８
4　「隼人　古墳時代の南九州と近畿」奈良県立橿原考古学研究所附属博物館　１９９２
5　「古代島根と南九州」島根県立八雲立つ風土記の丘資料館　１９９４

協力機関・協力者一覧

今回の企画展開催および展示図録作成に際しましては、多くの方々や機関に多大なる御指導・御協力をいただきました。御芳名を記し、感謝の意を表します。（敬称略・あいうえお順）

協力機関	協力者	
えびの市教育委員会	石丸　洋	新名　祐史
九州歴史資料館	岩城　勝志	日高　正晴
国富町教育委員会	岩永　哲夫	松下　孝幸
小林市教育委員会	江田　正和	松本　茂春
西都市教育委員会	木村　明史	蓑方　政幾
佐土原町教育委員会	河野　喬	山田　洋一郎
財団法人大阪府文化財調査研究センター	児玉　純一	
高原町教育委員会	近藤　協	
土井ヶ遺跡・人類学ミュージアム	茂山　護	
宮崎県教育委員会文化課	中山　豪	
宮崎県総合博物館	永井　淳生	
宮崎市教育委員会文化振興課	長津　宗重	
みやざき歴史文化館	永友　良典	

平成７年度前期企画展

[全国の装飾古墳１]

宮崎県の装飾古墳と
地下式横穴墓

平成7年8月

発行/熊本県立装飾古墳館
〒861-05 熊本県鹿本郡鹿央町大字岩原3085番地
TEL 0968-36-2151（代表）
印刷/株式会社ハタノ
〒860 熊本市上熊本2丁目1-30
TEL 096-356-6433

この電子書籍は、熊本県立装飾古墳館 企画展図録 第 6 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、全国の歴史博物館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：宮崎県の装飾古墳と地下式横穴墓
発行：熊本県立装飾古墳館
〒861-0561　熊本県山鹿市鹿央町岩原 3085 番地
電話：0968-36-2151
URL：http://kofunkan.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：西暦 2018 年 6 月 1 日